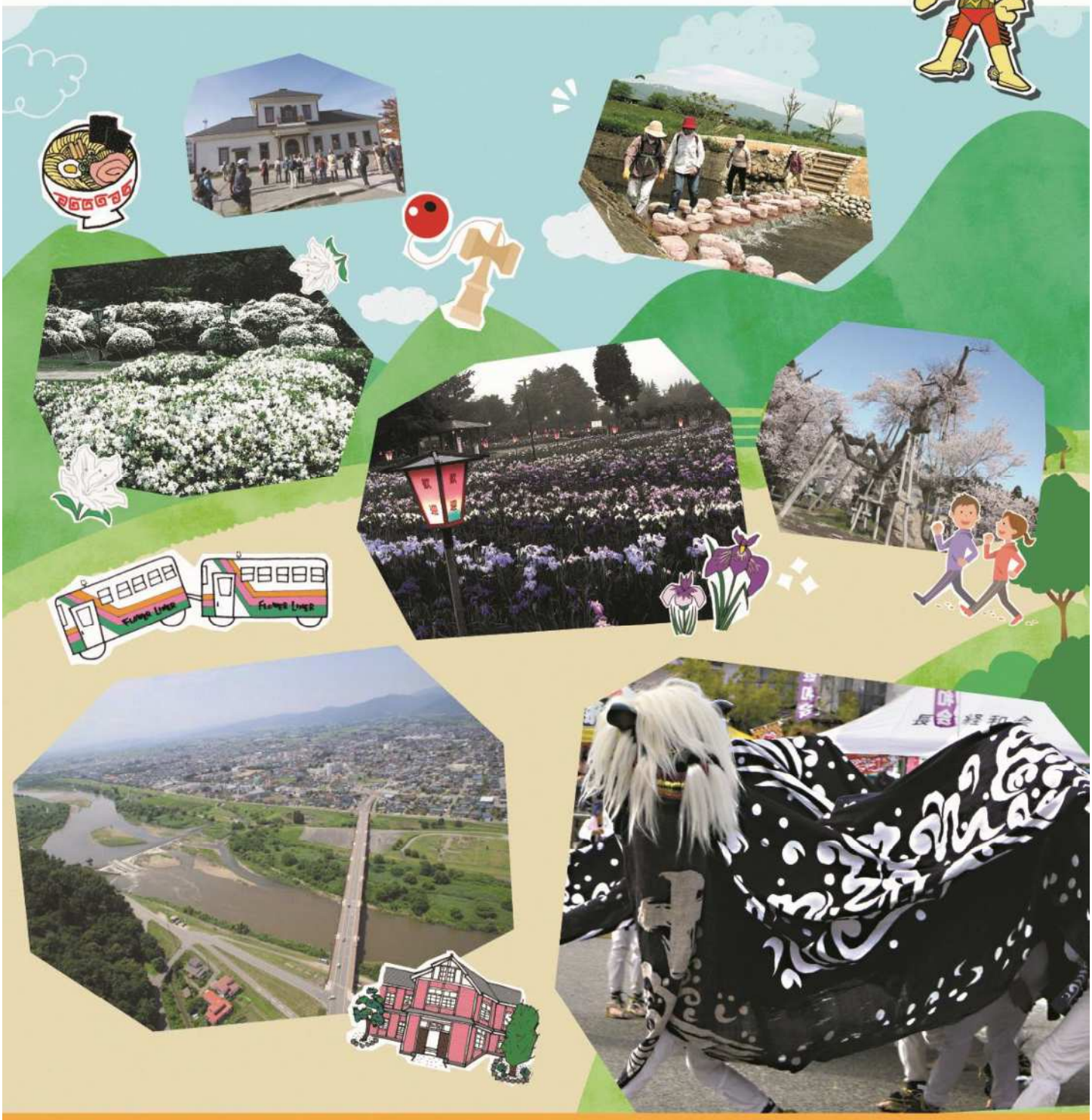
公式テキストブック

おらんだの長井検定



長井市

2024年1月発行

もくじ

第一章　ながいのあらまし

1　長井の市勢・・・・・・・・・　6
2　長井の各地区・・・・・・・・　8
3　長井の公共施設・・・・・・・　9
4　都市との絆・・・・・・・・・　12

第二章　ながいの観光

1　長井のまつり・・・・・・・・　13
2　山形鉄道フラワー長井線・・　16
3　長井の観光・イベント関連スポット・・・・・　18
4　長井のアクティビティ・・・　19
5　長井の食・おみやげ・・・・　21
6　長井の観光関連団体・・・・　23
7　長井のキャラクター・・・・　24

第三章　ながいの水・緑・花

1　河川・・・・・・・・・・・・　25
2　滝・湖・沼・・・・・・・・・　26
3　ダム・・・・・・・・・・・・　27
4　長井フットパス・・・・・・・　28
5　おいしい水と生活用水・・・　29
6　温泉・・・・・・・・・・・・　30
7　山岳・・・・・・・・・・・・　31
8　盆地・・・・・・・・・・・・　34
9　地質・・・・・・・・・・・・　34
10　森林・公園・・・・・・・・・　35
11　樹木銘木・・・・・・・・・・　36
12　花の長井・・・・・・・・・・　38
13　桜・・・・・・・・・・・・・　42
14　流木（木流し）・・・・・・・　43
15　文化的景観・・・・・・・・・　44

第四章　ながいの歴史

1　原始・古代・・・・・・・・・　47
2　中世・・・・・・・・・・・・　49
3　近世・・・・・・・・・・・・　55
4　近代・現代・・・・・・・・・　59
5　寺院・神社・・・・・・・・・　62
6　神事・伝統芸能・・・・・・・　68
7　歴史的建造物・・・・・・・・　70
8　歴史的遺構・産業遺産・・・　75
9　街道・峠・・・・・・・・・・　76
10　伝承・民話・・・・・・・・・　78

第五章　文化・一般

1　市の主な人物・・・・・・・・　82
2　文化財・・・・・・・・・・・　87
3　方言・・・・・・・・・・・・　88
4　地域の工芸・・・・・・・・・　90
5　レインボープラン・・・・・・　91
6　郷土の野菜・ご当地の味・・　92
7　バーニック・ナガイ～馬肉食文化～・・・・　95


水と緑と花のまち長井
至山形市
N
草岡川
新四ツ家橋
白鬼駅
致芳小学校
「白鬼駅から見るフラワー長井線と西山の眺め」
羽前成田駅
(P69)
(P30)
あかしあ橋
野川橋
(P38)
総宮神社
あやめ公園駅
長井工業高校
長井北中学校
谷地橋
最上川河川緑地公園
長井橋
宮舟着場跡
旧長井小学校第一
至白鷹
西根小学校
(P41)
古代の丘資料館
(P35)
(P36)
(P26)
(P31)


(P34)
(P36)
至南陽
伊佐沢小学校
(P41)
松川橋
至南陽
(P36)
(P18)
(P87)
道の駅
「川のみなと長井」
最上川
小出舟着場跡
さくら大橋
しらかわ大橋
タスビル
長井市民文化会館
(P40)
(P71)
豊田小学校
白川橋
今泉駅
至新潟
桑島記念館
長井高校
長井警察署
長井駅
長井市役所
南長井駅
長井南中学校
山形鉄道フラワー長井線
時庭駅
(P70)
(P72)
運動公園
(P9)
上白川橋
至飯豊
消防署
JR米坂線
上野川橋
平野小学校
平泉橋
ラウンドアバウト交差点
(環状交差点)
至飯豊
(P73)
野川まなび館
道祖寺平スキー場
(P19)
(P27)
「竜神大橋から眺める『ながい百秋湖』の四季の彩り」

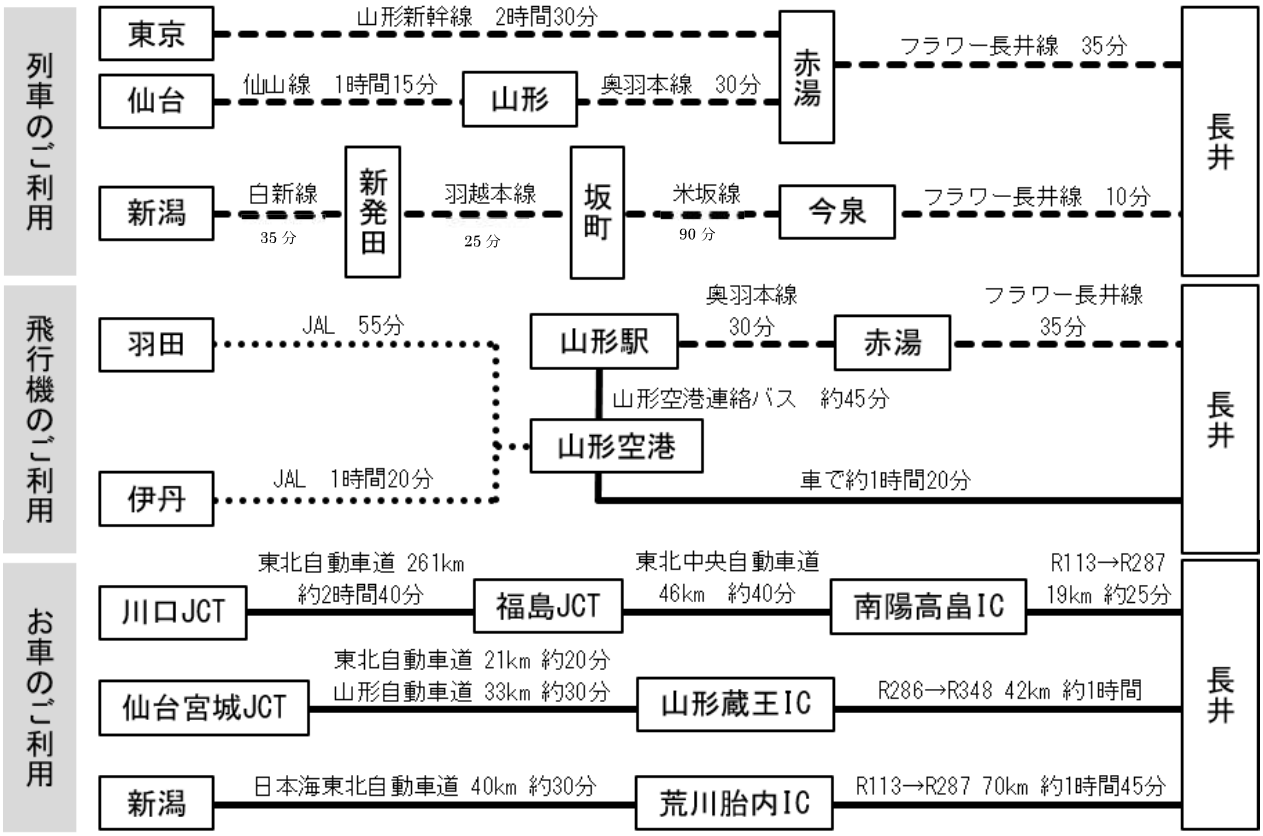
交通アクセス



山形県長井市は、フラワー長井線を運行する山形鉄道の本社所在地で、市内に駅が多数あり、各地へアクセスできます。

鉄道で長井市までは、東京から山形新幹線、フラワー長井線を乗り継いで約３時間。仙台市、新潟市からもＪＲ各線、フラワー長井線を乗り継ぎ、各々約２時間２０分、約２時間４０分となっています。

車で長井市までは、山形市から約１時間、仙台市から約１時間５０分、新潟市から約２時間１５分、福島市から約１時間１５分となっています。長井市内から車で２５分の東北中央自動車道「南陽高畠ＩＣ」完成により、仙台、福島、首都圏とも高速道路網によってつながり、アクセスが向上しました。



「おらんだの長井検定」
テキストブックについて

長井市の魅力あふれる歴史・文化・自然などに関する知識を深め、市民の皆さんをはじめ、観光ガイドや民間事業者の方々に「おもてなしの心」を高めていただくとともに、ながいを訪れる観光客の方々にも長井市を知っていただくことで「ながいファン」を増やし、地域を活性化することを目的として本テキストは編集されました。

編集においては、平成25年度から平成27年度に長井市雇用創造協議会が取り組んだ「実践型地域雇用創造事業」の一環で作成された『おらんだの長井検定』テキストブックをもとに、最近のトピックスなど、誰かに話したくなるような内容も盛り込み作成しました。

本テキストが、長井市民や長井にゆかりのある方々にとって、地域への愛着や誇りを持つきっかけとなることを祈念し、発刊したものです。

テキストブックの掲載内容について

＊　掲載内容は令和5年1月を基準にしています。

＊　歴史や文化などの史実については、長井市史（1985年、2019年発行）をもとに掲載しています。（ただし、伝承や口伝についてはその限りではありません。）

＊　掲載内容について、お気付きの点等がありましたら、長井市観光文化交流課までお知らせください。（連絡先は巻末に掲載しています。）

長井市 観光文化交流課

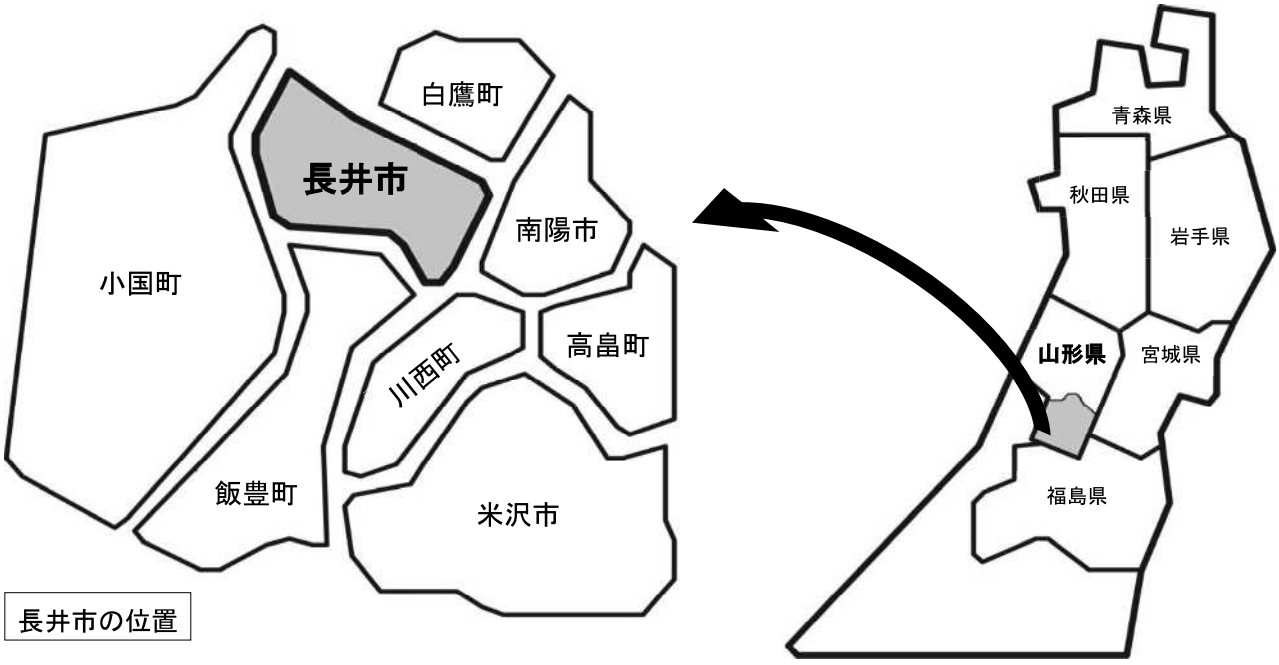
第一章

ながいのあらまし

「ながい」とは、水の集まるところ

山形県南部に位置する長井市は、西に葉山連山、東に出羽丘陵を眺める長井盆地の中にあります。四季折々に、美しい姿を見せる山々から湧き出る伏流水は、田畑を潤し、豊かな暮らしを育んできました。

「長井」の地名の由来は、「水の集まるところ」。その名が示すように、朝日山系を源とする野川、飯豊山系を源とする白川、吾妻山系を源とし、市街地を南北に貫流する最上川と、3つの河川がまちを囲むように流れています。



長井市の位置

1 長井の市勢

1 位置・面積・人口

長井市は、山形県南部の置賜地域にあります。

長井市の面積は214.67㎢で、山形県内では第15位、置賜地域では第4位の広さとなっています。

令和2年度国勢調査では、人口26,543人、世帯数9,486世帯となっています。

市町名	面積（㎢）	置賜順位	県内順位
置賜地域	2,495.52	－	－
小国町	737.55	1	2
米沢市	548.74	2	4
飯豊町	329.60	3	10
長井市	214.67	4	15
高畠町	180.04	5	21
川西町	166.46	6	22
南陽市	160.70	7	24
白鷹町	157.74	8	25

置賜地域市町別面積

資料：国土地理院

2 地勢

本市の西部一帯は、越後山脈の北端をなす朝日山系の険しい山岳地帯で、朝日、祝瓶などの高山がそびえており、東部は白鷹山地です。この両山地の間を南から北に最上川が貫流し、朝日山系を源とする野川が市の中央部を流れ、また、飯豊山系を源流とする白川は、市の南部で合流しています。最上川流域と野川、白川両河川の下流一帯は平地をなし、長井盆地を造っています。

3 産業

大正9年(1920)に誘致企業第一号として郡是製糸長井工場が操業を開始し、昭和17年には東芝長井工場を誘致、昭和21年には全国製薬株式会社東北工場が設立され、電子部品、デバイス、自動車部品、半導体製造装置、金属工作機械、製薬などの技術を有した近代産業のまちとして発展し、今日の電気機械工業等の集積の礎を築きました。現在も多様な加工技術を持った企業が多くあり、難しい加工や、今までにない機械、装置の開発などに取り組んでいます。



4 市制

昭和29年11月15日、長井町、長井村、西根村、平野村、豊田村、伊佐沢村の1町5ヵ村が合併し、県下9番目の市として長井市が誕生しました。平成26年に、市制施行60周年を迎えました。「水と緑と花のまちながい」を掲げ、自然と産業の発展と調和を図り、美しいまちづくりに努めています。



5 市章

長井市名誉市民でもある彫刻家、長沼孝三氏によって、昭和38年にデザインされました。長井の市民の花である「あやめ」をモチーフにしたもので、やわらかなデザインになっています。市内のマンホールの蓋などにも、この市章がデザインされており、長井市民にとって身近なシンボルとして親しまれています。



6 市民の花・木



【市民の花】あやめ



【推奨花】はぎ



【市民の木】つつじ



【推奨木】さくら

7 長井市民歌

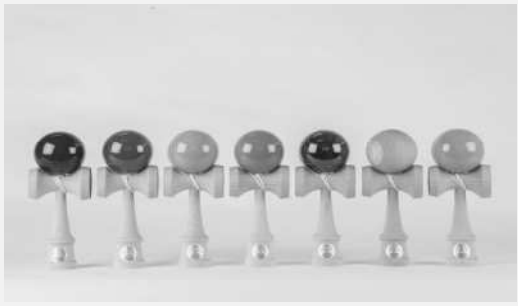
昭和33年、長井市民歌が制定され、芳賀秀次郎氏の作詞、海鋒義美氏の作曲による長井市市民歌が発表されました。自然豊かな情景と、長井市民の幸せを晴れやかに歌う歌として親しまれています。

一、野川の水の澄むところ
　匂う野の花　あやめ草
　花の願いの　つつましく
　ここにいそしむ日々の業
　ああ　長井　こころひとつに
　睦ゆく　市民の幸よ

二、稲穂のそよぐ　野の果てに
　招く飯豊の　雲のいろ
　ダムのたぎちの　たくましく
　おこる生産　ひびく歌
　ああ　長井　のぞみはるかに
　栄えゆく　市民の幸よ

8 市技（けん玉）

令和２年９月に「けん玉を市技に定める条例」を制定しました。けん玉によるまちづくり活動をさらに推進し、世界との交流を図り、市民の健康づくりや子どもたちの健全を促すこと、さらに、けん玉文化の継承・発展を目的に制定しました。



2 長井の各地区

西根地区

長井市の西側、朝日山系の裾野に位置し、山のすぐ近くには畑があり、東側に田んぼが広がっています。長者屋敷遺跡などの多くの遺跡が見つかった草岡地区には、古代の丘歴史公園があります。また、国指定の天然記念物「草岡の大明神ザクラ」も有名です。

人口3,109人（令和2年国勢調査）

致芳地区

長井市の北側に位置し、フラワー長井線の線路の西側は田、東側には畑が広がっています。最上川沿いに長井北工業団地があります。

人口3,441人（令和2年国勢調査）

中央地区

長井市の中央に位置し、市役所や国・県の機関、病院、図書館など公共公益施設があり、住宅や商店などが集まっています。また、歴史的建造物や公園などが多くあります。

人口12,522人（令和2年国勢調査）



伊佐沢地区

長井市の東側、最上川の右岸に位置し、地区の三方向を山に囲まれ、もう一方は最上川に接し、唯一の河川、逆川が地区の中心を流れています。国の天然記念物に指定されている、「伊佐沢の久保ザクラ」が有名です。

人口1,144人（令和2年国勢調査）

平野地区

長井市の南西部に位置し、山裾に広がる平地は、朝日山系を水源とする野川の扇頂部となっています。散居集落であり、平成3年に「美しい日本の村景観100選」に選ばれました。

人口2,669人（令和2年国勢調査）

豊田地区

長井市の南部に位置し、鉄道（米坂線、フラワー長井線）と、国道（113号、287号）が交わる交通の要衝で、長井市の南玄関になっています。白川と最上川が合流するビューポイントがあります。

人口3,658人（令和2年国勢調査）

3 長井の公共施設

1 置賜生涯学習プラザ

住所：長井市九野本1235-1
TEL：0238-84-6900

健康で文化的な住民生活の向上をめざし、スポーツ、文化交流活動等活発な生涯学習活動の場として幅広く利用されており、市内外問わず多くの世代の人に親しまれています。



2 長井市民文化会館

住所：長井市館町北5-10
TEL：0238-84-6051

長井市では、市民の文化および教養の向上と福祉の増進を図るため、市民文化会館を設置しています。平成31年4月より耐震補強と大規模改修工事を行い、令和2年7月に工事完了、同9月にリニューアルオープンしました。



3 くるんと

住所：長井市本町一丁目1-1
TEL：0238-87-3260

「くるんと」は、屋内児童遊戯場と図書館が一体となった施設です。長井市役所の隣に位置し、繭の形をした特徴的な建物で、中心市街地のシンボル的存在。駅にも近く公共交通を使ってお気軽に来館いただけます。



4 交流センターふらり

住所：長井市屋城町6-53
TEL：0238-88-5868

長井市中央コミュニティセンター、長井市勤労青少年ホーム、長井市民体育館、長井市テニスコート、長井高等職業訓練校を総称して、「交流センターふらり」とよび親しまれています。



5 長井市武道館

住所：長井市館町北5-10
TEL：0238-84-4250

生涯スポーツおよび競技スポーツの普及振興を図り、市民の健康の保持増進および豊かな生活の創出、ならびにスポーツを通した活力あるまちづくりに寄与するため設置されています。



6 文教の杜（もり）ながい

住所：長井市十日町一丁目11-7
TEL：0238-88-4151

文化財の保護活用および芸術文化の振興をめざし、「長沼孝三彫塑館（ながぬまこうぞうちょうそかん）」、かつての商家の家屋敷「旧丸大扇屋」（県指定文化財）、旧西置賜郡役所「小桜館」（市指定文化財）を活用し、今では昔語りや演奏会など多目的に利用されています。



7 古代の丘資料館

住所：長井市草岡 2768-1
TEL：0238-88-9978

市内で出土した考古資料を収集、調査研究、保存管理するとともに、それらを一般に公開しています。資料館では、資料の見学のほか、土器づくり体験などを楽しむことができます。



8 野川まなび館

住所：長井市平山 2743-4
TEL：0238-87-0605

自然体験や環境学習、水循環、水文化などをテーマに交流を図る施設です。長井ダムの下流に位置しており、長井ダム水源地域へのアクセス拠点としても利用されています。



9 長井市保健センター

住所：長井市ままの上 7-10
TEL：0238-84-6822(市 健康スポーツ課)

市民の健康保持、および増進を図るため、設置されています。料理教室やパパママ教室、各種検診、および予防接種など開催されており、市民の健康づくりをサポートしています。



10 道の駅川のみなと長井

住所：長井市東町 2-50
TEL：0238-87-1121

観光客・市民の出会いと地域産業の発展を促し、観光交流の拠点として重要な役割を果たす施設です。県内 20 番目の道の駅として平成 29 年 4 月 21 日にオープンしました。



11 旧長井小学校第一校舎

住所：長井市ままの上5-3
TEL：0238-87-1802

昭和 8 年に建築された全国的にも珍しい大規模な木造 2 階建ての校舎。平成 21 年に国登録有形文化財に登録されました。平成 27 年まで現役の校舎として利用され、その後、平成 31 年 4 月に「学び」と「交流」の施設「旧長井小学校第一校舎」としてリニューアルオープンしました。（なお、国の登録有形文化財の登録名称は「長井市立長井小学校第一校舎」となっていますが、本テキストにおいては「旧長井小学校第一校舎」として表記を統一しています。）



12 ラウンドアバウト（環状交差点）

住所：長井市平山地内

ラウンドアバウトは、重大事故の抑制や待ち時間の解消など様々な効果が期待できる環状交差点です。山形県内では初めての取組みであり、さらに積雪地域での運用は全国に先駆けた試みです。



13 長井市役所庁舎

住所：長井市栄町 1-1

まちづくりの中枢を担う新庁舎が令和３年５月６日に開庁しました。全国初となる、駅と庁舎が一体化した珍しい庁舎になっており、全長は約170ｍあります。分散していた行政機能を全て集約し、デジタル化による手続きの簡素化や効率化を図るなど利便性を高めました。加えて、頻発する災害への備えとして、大規模災害発生時には、市民の皆様の安心と安全を支える拠点としました。また、誰もが気軽に訪れることができるように、利用者が交流し、活動できるスペースを設置しました。さらに、キッズスペースや授乳室なども設け、市民の皆様はもちろん、長井市を訪れる市外の人にも利用しやすい庁舎になりました。

～長井市役所庁舎の紹介～



庁舎全体の様子



庁舎２階　市民防災研修室
市民参画や協働のミーティング、ワークショップなどに利用できる活動室。

14 スマートストア

令和４年３月30日、人口減少に伴い低下している地域の買い物機能の維持、データの蓄積による利便性の向上に資する無人店舗「スマートストア」が、長井駅・伊佐沢コミュニティセンターにオープンしました。

・長井駅　住所：長井市栄町 1-1



・伊佐沢コミュニティセンター　住所：長井市上伊佐沢 7312



4 都市との絆

1 姉妹都市

(1) ドイツ　バートゼッキンゲン市

昭和59年にドイツ連邦共和国のバートゼッキンゲン市と姉妹都市の盟約を結びました。

平成18年には、長井市民文化会館でバートゼッキンゲン市を舞台としたオペラ「ゼッキンゲンのトランペット吹き」が日本初演され、片田町には「バートゼッキンゲン通り」の記念モニュメントが設置されるなど、信頼の絆を深めています。



(2) 茨城県結城市

両市の名産である紬（絹織物）が縁となり、茨城県結城市とは昭和58年に姉妹都市盟約を締結しました。

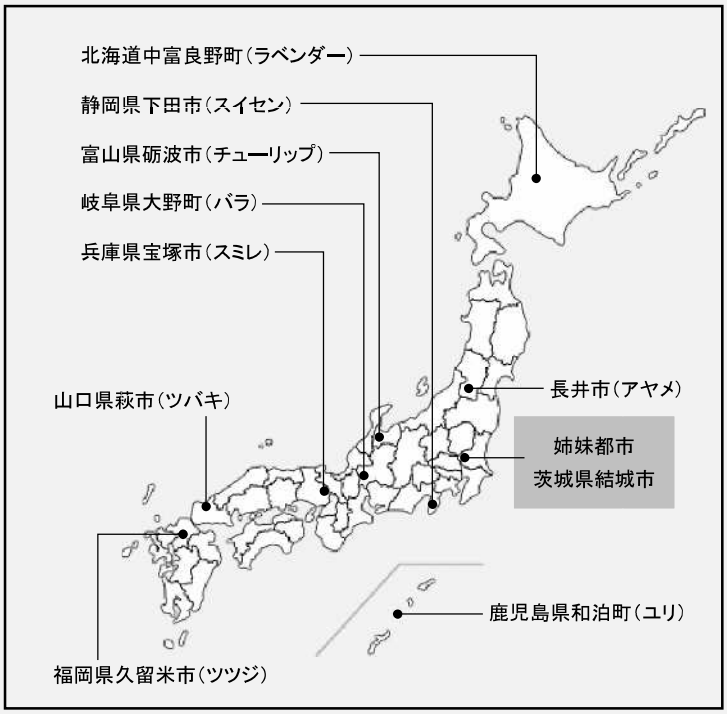
毎年、特産展を通して、交流を深めています。

2 友好都市

中国　双鴨山市（そうおうざん）

平成4年に中国黒竜江省（こくりゅうこう）の双鴨山市と友好都市盟約を締結して、互いの行政や企業への研修員の受け入れや相互訪問、文化紹介事業などを通じて交流を深めています。

3 フラワー都市交流連絡協議会



4 あやめサミット加盟都市

北海道厚岸町、北海道長万部町
宮城県多賀城市、福島県会津美里町
福島県鏡石町、山形県長井市
新潟県新発田市、茨城県潮来市
千葉県香取市、千葉県佐倉市
山梨県南アルプス市

5 その他

(1) 東京都大田区
（長井市東京事務所）

(2) 東京都江戸川区
（戦時中長井市に学童疎開した縁での交流）

(3) 神奈川県川崎市
（ｸﾞﾘｰﾝﾂｰﾘｽﾞﾑを通じての平野地区との交流）

(4) 沖縄県金武町
（青少年交流を通じての伊佐沢地区との交流）

(5) タンザニア連合共和国
（オリンピック・パラリンピックホストタウン）

(6) リヒテンシュタイン公国
（オリンピック・パラリンピックホストタウン）

第二章

ながいの観光

1 長井のまつり

春のまつり

1 伊佐沢念仏踊（いさざわねんぶつおどり）

県指定無形民俗文化財
開催日時：4月第3日曜日
場所：伊佐沢の久保ザクラ周辺

伊佐沢念仏踊は、約400年の歴史がある郷土伝統芸能です。最大の特色は、大名行列（相撲、とり毛、奴）の要素と歌舞伎的要素です。そして、念仏踊りの三要素からなる珍しい踊りです。元は、久保ザクラの下で踊っていましたが、現在は隣接する伊佐沢小学校グラウンドで輪踊りが行われます。



2 白つつじまつり

開催日時：5月10日～5月31日
場所：白つつじ公園（松ヶ池公園）

白つつじ公園は、白つつじが満開になる5月中旬～下旬頃に、まるで雪が降り積もったかのように一面が純白の世界となります。樹齢750余年の古木をはじめ、3,000株余りの白つつじが長井の春を彩ります。また、マラソン大会や各種イベントなども開催されます。



3 ながい黒獅子まつり

開催日時：5月下旬
場所：長井市内目抜き通り及び白つつじ公園

異なる面持ちの長井市内約40の神社のうち十数社の黒獅子が一同に会し、勇壮な舞を繰り広げながら街中を練り歩きます。多人数の舞手が幕の中に入り、獅子頭を上下させず、滑るように舞う姿は「百足獅子（むかでじし）」とも呼ばれています。それぞれの神社の獅子頭や舞い、お囃子などの違いを楽しめるのもこの祭りならではです。

平成 22 年度には「地域づくり総務大臣表彰団体表彰」と「第 15 回ふるさとイベント大賞奨励賞」を受賞しています。



夏のまつり

1 あやめまつり

開催日時：6月中旬～7月上旬
場所：あやめ公園

全国的にも貴重な「長井古種」をはじめとする、数百種の可憐な「花菖蒲（あやめ）」が初夏の訪れを告げます。まつり期間中には、屋台、各種イベント、野だて茶会などが開催され、訪れる人を楽しませてくれます。夜にはぼんぼりが灯り、日中とは違った趣（おもむき）の園内を散策し、神秘的なあやめを鑑賞することができるのも魅力のひとつです。



2　長井おどり大パレード

開催日時:7月上旬
場所:長井市内目抜き通り

長井駅を出発し、長井市役所までの約500mを、地元出身の歌手が歌う「新長井おどり」に合わせ、市民が熱くにぎやかに踊り歩くお祭りです。昭和の良き時代の再現に大人は懐かしさを、子供たちや若者は心にときめきを感じる、熱気あふれる夏の夜の一大パレードです。



3　ながい水まつり



開催日時:8月第1土曜日
場所:最上川河川緑地公園

山形を代表する最上川の発祥の地、長井市で開催される、「水」をテーマにしたイベントです。水に親しむ、さまざまな体験コーナーが設けられています。夜の花火大会では、最上川の水面が美しく彩られ、毎年、子供から大人まで多くの人で賑わいます。





秋のまつり



1　みんなの文楽（ぼくらの文楽）

開催日時:9月下旬～10月上旬頃
場所:西根地区コミュニティセンター

令和3年で10回目を迎えた「ぼくらの文楽」が令和4年より「みんなの文楽」としてリニューアルされました。「みんなの文楽」では、音楽、文化、環境や暮らしのことを考え、楽しむイベントを開催しています。講義、対談、ライブパフォーマンスのステージ、郷土料理レストランや体験ができるワークショップ、環境にやさしい出店やショップなど、小さな子どもから年配の方までゆっくり一日過ごせるイベントです。



2　もとまち青空フェスティバル

開催日時:10月上旬
場所:桑島記念館周辺

長井市中心部の本町大通り商店街が主催となって開催する、「音楽」をテーマにした長井の秋恒例のフェスティバルです。桑島記念館前広場では、地元小・中・高校生の吹奏楽部による演奏、フリーマーケット、地元グルメが楽しめるオープンカフェ、ビンゴ大会など、楽しい内容盛りだくさんです。



3　長井1000人いも煮会

開催日時:9月下旬
場所:あやめ公園河川敷

山形名物「いも煮会」が、あやめ公園河川敷を会場に実施されます。有機肥料で育てた里芋や牛肉、地酒と地元のお醤油など、地元の食材がぎっしり詰まった「いも煮」が堪能できます。また、馬肉を使った旨sioいも煮など、数種類のオリジナル芋煮も人気です。



4　マイクロマウス東北地区大会

開催日時:10 月中旬
場所:置賜地域地場産業振興センター(タスビル)

自立型の知能ロボット・マイクロマウスが、自分自身の判断で複雑な迷路を自走し、ゴールまでの時間を競います。一番速いのはどのマウス？

5　ナガレンジャー ファイティングフェスタ

二足歩行ロボットの格闘技大会です。白熱のロボットバトルのほか、サッカーやかるたなどで対戦します。



6　縄文まつり

開催日時：10月中旬
場所：古代の丘

縄文太鼓の演奏や昔の人の生活を体験できるイベントです。オープニングに始まり、火起こし挑戦や昔の遊び体験、丸太切り競争など、催し物が盛りだくさんです。「縄文人ってこんな生活してたんだ!」が楽しく体験できるイベントになっています。



7　ながい産業博

場所：置賜地域地場産業振興センター（タスビル）

ものづくりのまち長井市の全産業が広く紹介されています。さまざまな体験教室のほか、フードコーナーやお楽しみ抽選会など親子で楽しめるコーナーが盛りだくさんです。



8　長井マラソン

開催日時：10月中旬
場所：市内（長井市生涯学習プラザ運動公園周辺）

山形県唯一のフルマラソンの公認大会。コースは、国際陸連公認の「ながい山の港町マラソンコース」です。かつて最上川の舟運文化で栄えた市街地と、朝日連峰の山並みを望む田園地帯の中を秋の風を感じながら走ります。



冬のまつり



1　ながい雪灯り回廊まつり

開催日時：2月第1土曜日
場所：長井市中心市街地ほか

市民手作りの雪灯りが、長井市中心市街地一帯を幻想的な雰囲気に包み込み、寒い冬を心の底から“ぽっかぽかにあったかく”してくれるおまつりです。また、2月初めから半ばにかけ、国登録有形文化財である「旧長井小学校第一校舎」がライトアップされ、幻想的な灯りに包まれます。





2 山形鉄道フラワー長井線

フラワー長井線は、南陽市の赤湯から川西町、長井市を通り、白鷹町の荒砥（あらと）までの片道約30kmを1時間ほどかけて結ぶ路線です。車体にはラッピングが施され、車内や車窓にも遊び心があります。

小さなお子様からご年配の方まで、見てよし!乗ってよし!のほかにはないローカル線です。



1 フラワー長井線

2 登場する主な作品



●「スウィングガールズ」
平成16年に公開された映画で、フラワー長井線の2両編成の列車が劇中で登場します。脚本、監督は矢口史靖。主演は上野樹里。

●土曜ワイド劇場「鉄道捜査官」
平成19年放送の第8話の舞台となりました。

●「奇跡体験アンビリーバボー」
平成26年4月17日放送「ローカル鉄道復活へ★新入社員が起こした奇跡」で特集されました。

●中井精也のてつたび
平成26年6月26日放送BSプレミアム
写真を通じて長井線の魅力が紹介されました。

●中国ドラマ「十年三月三十日」
令和元年9月19日より中国にて放送。主人公が恋人と出会う舞台となりました。



【スウィングガールズ号】

3　取り組み

●方言ガイド

フラワー長井線では、列車に乗りながら観光ができる、置賜弁での方言ガイドを実施しています。現在、団体旅行者向けに案内中です。乗ってみたい！という方は、直接お問い合わせください。

●イベント列車

読み聞かせ列車やハロウィン列車、ワイン列車など、さまざまなイベントが行われています。詳しくは、運営する山形鉄道のホームページをご覧ください

●レンタサイクル

長井駅では、レンタサイクルの貸し出しを行っています。自転車を借り、長井の観光名所巡りをしてはいかがでしょうか？

●フラワー長井線 写真館



【雪解けの山と満開の桜】



【青い空、白い雲
のどかな田園風景】



【現役日本最古の鉄橋
最上川橋梁】
（旧東海道本線の木曽川橋梁を移設）



【雪原を駆ける】

長井駅　あやめ公園駅　羽前成田駅

4　フラワー長井線

山形鉄道(株)のフラワー長井線は、東京鉄道局長井軽便鉄道として大正2年(1913)に赤湯～西大塚間が開通し、大正3年(1914)には長井駅まで延伸開業しました。大正11年(1922)に軽便鉄道法廃止により、国鉄「長井線」となり、大正12年(1923)には赤湯駅～荒砥駅間の全線が開通しました。また、大正11年(1922)に左沢線と長井線を結ぶ「左荒線」が予定路線となりましたが、実現しませんでした。その後、国鉄再建法施行により昭和61年、第三次特定地方交通線に指定され、昭和62年に国鉄からＪＲ東日本に引き継がれた後、昭和63年から第三セクター鉄道の「フラワー長井線」として、山形鉄道株式会社が経営しています。

昭和11年に建てられ、多くの乗降客と長井の発展を見守ってきた長井駅舎でしたが、平成31年に取り壊され、令和3年5月、長井市役所と合築施設として生まれ変わりました。

羽前成田駅は、大正11年(1922)に国鉄長井線の長井駅から鮎貝駅までの、延伸開通とともに開業しました。駅舎は、西大塚駅とともに国鉄時代からの古い木造建築で、窓口や出札口、ベンチなどは当時のまま残されており、ノスタルジックな雰囲気のある建物です。平成27年には、西大塚駅と羽前成田駅が国の登録有形文化財に登録されました。

白兎駅　蚕桑駅　荒砥駅　四季の郷駅　鮎貝駅

3 長井の観光・イベント関連スポット

1 三淵渓谷（みふちけいこく）

長井市を縦断して、最上川にそそぐ清流「野川」の上流にある渓谷です。野川本流と布谷沢（のだにざわ）が合流するここは、古くから里人達の厚い信仰を集め、多くの神秘と伝説を伝える長井の聖地となっています。



2 最上川ビューポイント

「最上川発祥の地」と彫り込まれた石碑が立つ、豊田地区のビューポイントです。ゆったりとした松川に、流れの速い白川が入り込んで白波を立て、川はＳ字を描いて下流を目指します。



3 梅花藻（ばいかも）

清流に咲く花「梅花藻」は、梅の花に似た 5 枚の花弁の小さな花を咲かせることが名前の由来です。水温 14 度前後の水質がきれいな川でしか育たず、山形県では準絶滅危惧種に指定されています。見頃は 7 月中旬から 8 月下旬です。



4 けん玉ひろばSPIKe

長井駅前にあるけん玉コミュニケーションスペースです。長井市が誇るけん玉を気軽に楽しく体験でき、けん玉検定も受けることができます。また、けん玉やけん玉ホルダーなどの販売も行っています。



5 菜なポート

市民直売所おらんだ市場菜なポートは、地域の生産者と消費者の交流の場として、市民の皆様へ安心安全な農産物、地場産品の販売を行っています。

令和元年 11 月に松ヶ池公園北側から本町へ移転し、装いも新たにオープンしました。



6 最上川河川緑地公園

最上川沿いにある河川公園です。多目的グラウンドや噴水のある水の広場があります。また、「ながい水まつり・最上川花火大会」の主会場として多くの人で賑わいます。



7 置賜生涯学習プラザ運動公園

置賜生涯学習プラザはスポーツ大会・文化事業などの多様な用途に対応する多目的施設です。各種イベントはもちろん、長井マラソンのスタート地点となるなど、各種研修やスポーツイベントの拠点となっています。

また、運動公園は防災機能を備えた都市公園として、平成27年（2015）に共用を開始し、陸上競技場（第3種公認競技場）は平成30年度より「光洋精機アスリートフィールド長井」の愛称で親しまれています。

多目的広場、芝生広場を備え、周囲には外回り１周770m、内回り450mのウォーキングコースも整備されています。



4 長井のアクティビティ

1 水陸両用バス　in ながい百秋湖

長井ダムのダム湖である「ながい百秋湖」で、陸上と水上を走行することができる「水陸両用バス」を運航しています。水陸両用バスは窓にガラスがない仕様になっていて、出発地点の道の駅川のみなと長井から到着地点の折草沢まで、風を受けながら長井のまちを見ることができます。湖面に入水する際の「ザブ～ン！」は迫力満点で、普段はできない体験ができます。入水した後はゆったりとした水上クルージングを満喫でき、ながい百秋湖の大自然を堪能することができます。運が良ければ、熊やカモシカなどの動物にも出会える珍しい体験ができるかもしれません。



2 絶景・三淵渓谷通り抜け参拝

長井ダム（ながい百秋湖）の上流部には、「三淵（みふち）」と呼ばれる深い渓谷があります。三淵渓谷は、川幅 3～5mと非常に狭く、高さ 50mを超える断崖絶壁が約 250m続き、狭い川幅から現在では、ボートでしか行くことができない場所となっています。卯の花姫伝説が残るこの渓谷は、パワースポットと呼ぶにふさわしい神聖な場所です。

特定非営利活動法人最上川リバーツーリズムネットワークで運航しているボートツーリング「絶景・三淵渓谷通り抜け参拝」では、往復約 1 時間をかけて、迫力ある渓谷と神秘的な空間が調和した景観美を堪能することができます。



3　ながい百秋湖　遊覧船

周囲の山々が美しく紅葉するながい百秋湖の中を遊覧船で進み、湖面に映える景色を見ながらの船旅を楽しむことができます。1周約45分かけてゆったりと進み、日々の喧騒を忘れ、素敵な時間を体感できます。ガイドが同行しますので、長井ダムの歴史や三淵と卯の花姫の伝説などの貴重な話も聞くこともでき、見てよし聞いてよしの体験で、大変人気となっています。



4　SUP（サップ）体験

SUP とは、スタンドアップパドルボードの略で、ハワイ発祥のマリンスポーツです。浮力のある専用のボードの上に立ち、パドルを漕いで水面を進んでいく新感覚のアクティビティです。ながい百秋湖で行っており、普段行くことができない狭い場所にも行くことができ、非現実的な体験ができます。また、SUP の上で寝転んだり、ヨガやエクササイズを行ったりとたくさんの楽しみ方があるのも SUP の魅力です。長井市の SUP 体験は、ガイドも同行するため、レクチャーを受けながら、ガイドしか知らないおもしろい話も聞くことができるので、誰でも安心して乗ることができます。



5　水上自転車体験

水上自転車は、両脇にフロートが付いており、水上を走行すると、不思議な浮遊感を体験できる、ヨーロッパ発祥のアクティビティです。日本では珍しく、瀬戸内地方と長井市でしか行われていません。ながい百秋湖を周辺の自然を眺めながら爽快に走行でき、安定感もあるため、初心者でも安心して乗ることができます。疲れた時は立ち止まって、自然を楽しみ、日々の疲れを癒すこともできます。速度も自分の漕ぎ方次第で様々変えられるため自分のペースで楽しめるのも魅力の一つになっています。



5 長井の食・おみやげ

1 しその実漬け

国産のしその実と、細かく刻んだたくさんの野菜を秘伝の味付けで仕込んだお茶請けやご飯のお供にぴったりのお漬物です。



2 なが～いふ

まるでフランスパンのような見た目がインパクト大！“道の駅川のみなと長井限定”の長～い麸です。

煮物はもちろん、唐揚げや酢の物、卵・牛乳と合わせて麸（ふ）レンチトーストなど様々な調理法でお召し上がりください。



3 あやめかりんとう

長井市のシンボル「あやめ」の花びらをイメージした平たい形のかりんとう。ザクザクの香ばしい生地に、黒糖がたっぷりついたどこか懐かしさを感じる長井名物です。



4 味付け玉こんにゃく

山形県は一世帯当たりのこんにゃく消費量日本一。するめや醤油で味付けした味付け玉こんにゃくは、お花見やお祭り、観光地に欠かせないソウルフードです。



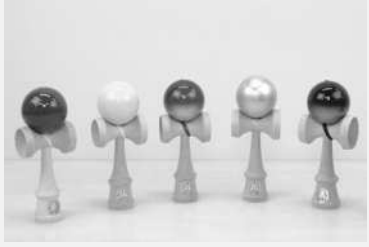
5 鯉の甘煮

鯉は栄養価が高く、古くから内陸部の貴重なたんぱく源として食べられてきました。砂糖や醤油で甘辛く煮付けられた「鯉の甘煮」は、今でもお正月や来客などハレの日には欠かせない置賜地域の郷土料理です。



6 けん玉「大空」

日本けん玉協会による級・段位の認定を受けることができるの公認けん玉です。けんは厳選されたブナやカエデを使用し、長さ16.0cm、サクラの木材を使用した玉は直径6.0cmと競技用けん玉には1mmの誤差も許されない厳しい規格が求められます。



7 クラフトビール

・ひょう　山形県置賜地方で食べられる野草のひょう（別名 スベリヒユ）を副原料としたペールエール。ひょうは多年生植物の一種で、山形ではおひたしや干して保存食として食され、縁起物でもある郷土食材です。ホップの香りの後に残るわずかなひょう干しの酸味が和食にもよく合います。ひょっとして良いことがあるかも。

・きなこ　山形県の内陸で作られる稀少な枝豆の一種で、一般的な枝豆と比べると大きく、香りの高い青大豆「秘伝豆（ひでんまめ）」を挽いたきなこを副原料としたペールエールです。ホップの香りの後に、柔らかな大豆の香りが感じられます。オススメは、グラスに注いだビールの泡に黒蜜（くろみつ）のトッピング。

・くきたち　「茎たち菜」と呼ばれるアブラナ科植物の、茎が伸びたものの総称である「くきたち」。おひたしや天ぷらで春の味として親しまれ、乾燥させたものは煮物などで食されます。くきたち干しのほろ苦さと、ホップの香りのバランスにこだわったIPAスタイルのビールです。このほかにも地元産の素材を使った新フレーバーのビールを取り扱い予定。



8 山形県産プレミアムジュース

実割れや変形、色落ちなどで生食用として出荷されなかった規格外の完熟果実を、採れたてそのままに糖類や水を一切加えず搾った果汁100%ジュース。素材そのままの味と香りを生かした、まさに”プレミアム”な味わいです。



9 きくいも加工品

きくいもは、水溶性食物繊維のイヌリンという成分を多く含み、またイヌリン以外にもミネラルやポリフェノールなどを含む優良な健康食材として注目されています。長井市産のきくいもを手軽に食べていただけるよう加工した乾燥チップスやきくいも麩などが人気です。



10 行者菜（ぎょうじゃな）

行者にんにくとニラを掛け合わせ誕生した新野菜「行者菜」は、修験者（しゅげんじゃ）が荒行の際、精をつける為に食べたと言われる行者にんにくをもしのぐ滋養のもとを含んだミラクル野菜。見た目はニラとそっくりですが、葉は厚く、炒めてもシャキシャキとした歯ごたえが残るのが特徴です。根本はニンニクのような香りを生かしてそのまま薬味として食べるのがおすすめ。



11 みそ餅

みそ餅は、山形県内でも置賜地域だけで食べられるソウルフード。砂糖を加えて煮詰めたみそをつきいれ、青豆やくるみ、ごまを加えた甘じょっぱくて香ばしい風味が特徴の冬の定番おやつです。



12 日本酒

・寺嶋酒造本舗

明治34年（1901）創業。 酒銘の"朝瀧"は朝日連峰より流れ落ちる滝の音があたかも酒樽を打つ音のように聞こえたことに由来しています。（代表銘柄：朝瀧、黒獅子の里）

・長沼合名会社

大正5年（1916）創業。当主は代々惣右衛門を名乗り、養蚕業や呉服店を営んできましたが、10代長沼惣右衛門が酒造業を開始し、現在3代目。すべて手作業による仕込みにこだわる酒蔵です。（代表銘柄：誉小桜、惣邑）

・株式会社鈴木酒造長井蔵

昭和6年（1931）創業。福島県双葉郡浪江町にあった請戸本蔵が震災によって壊滅的打撃を被り、一時生産を断念するも、平成23年に現在の蔵で仕込みを再開しました。（代表銘柄：磐城壽、一生幸福）

6 長井の観光関係団体

1 長井市観光協会

平成 29 年 4 月から道の駅「川のみなと長井」に拠点を置き、長井市の観光案内を行っています。また、長井市からの委託により、白つつじまつり、ながい黒獅子まつり、あやめまつり、水まつりなど、様々な観光イベントを実施しています。

2 （一社）やまがたアルカディア観光局

平成 31 年 2 月に長井市・南陽市・白鷹町・飯豊町によって設立された観光地域づくり法人です。令和 3 年 4 月に小国町を加え、5 市町の観光 PR や旅行商品の予約販売、お土産商品の開発なども手掛けています。広域でお客様が回遊できるような「滞在型旅行商品」を企画し、経済活動を促す取り組みを行っています。インバウンド向け旅行商品の開発や受け入れ態勢の整備にも力を入れています。

3 ながい黒獅子の里案内人

平成 13 年に観光ボランティアガイド「ながい黒獅子の里案内人」が発足しました。桜、あやめの時期には各まつり会場に常駐してお客様をご案内します。他にも、市内のまちなか案内や、最上川フットパスルートの案内も行っており、訪れた観光客を笑顔でおもてなししています。

4 けん玉のふる里プロジェクト

競技用けん玉の生産量日本一を誇る長井市のけん玉でまちづくりを推進するため、平成 26 年にプロジェクトが始動しました。観光誘客の受け皿と仕組みを作り、けん玉に親しめる環境整備とけん玉人口を増やすことを目指して活動しています。

5 特定非営利活動法人 最上川リバーツーリズムネットワーク

自然豊かな最上川と沿川の地域資源をつないだリバーツーリズムを歩き主体の散策・探訪の充実、美しい川なみ・街なみの形成、地域づくりの人材育成を行っています。また、リバーツーリズムの調査研究事業を通じて発展させ、旅行者にも流域住民にとっても魅力的な最上川リバーツーリズムを流域が一体になって推進し、もって豊かな自然と文化を持つ最上川を保全し、持続可能で市民の活力があふれる地域社会の実現に寄与することを目的としています。

7 長井のキャラクター

長井北中学校まちなかデザインプロジェクト2008



ししまいく



ししまいこ



あや姫

長井ダムシンボルキャラクター



ながい黒獅子大綱引き

ながい雪灯り回廊まつり イメージキャラクター



雪ん子ちゃん

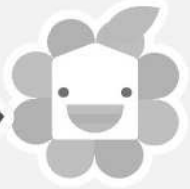


あそぼうず

フラワー長井線 イメージキャラクター



もっちぃ駅長



花笑(はなえ)ちゃん

長井商工会議所 公認キャラクター



バーニック・ナガイ

ながいファン倶楽部 公認キャラクター



あやめちゃん

レインボープラン 公認キャラクター



レインボー王子(プリンス)

第三章

ながいの水・緑・花

吾妻連峰に発した母なる川、最上川は、米沢盆地を北流し、やがて、小規模な狭窄部の通称「伊佐沢峡」から長井盆地に入ります。その狭窄部の出口で磐梯朝日国立公園の一角をなす、飯豊連峰から発した白川が左岸側に合流すると、最上川は一気に豊かな流れとなります。

以前は、ここから下流を最上川と呼んだことから、合流地点に「最上川発祥の地」の石碑を設け、最上川ビューポイントの一つになっています。さらに、南北に細長く伸びた長井盆地を、北流する最上川に沿うように市街地が広がり、かつては、最上川舟運の舟着場が設けられ、米沢藩の表玄関として繁栄しました。そして、朝日連峰を水源とする野川が西方より流れ、分水された清涼な水が市街地を縦横に走り、台所の一角に川の水を引き込んだ洗い場「入れかわど」などをはじめ、生活用水や遊水機能を持たせ、洪水対策にも利用されてきました。

このように、飯豊連峰や朝日連峰から流れ出た河川が、長井で母なる川、最上川に合流しています。まさに、水質の良さだけでなく地理的特性からも水の長井と称される由縁です。

さらに、磐梯朝日国立公園の一角を占める野川源流域や、通称「西山」で親しまれている葉山連山をはじめ、長井盆地周辺の山々は、花崗岩質の古い岩盤からなり、緑豊かな森を形成しています。盆地の東側には平成元年に制定された市の条例による「不伐の森」を設け、緑を育んでいます。また、市街地郊外の豊かな水田地帯には、数十本の杉の大木で囲まれた屋敷群が見事な散居集落を形成しています。

国の天然記念物に指定されている伊佐沢の久保ザクラや草岡の大明神ザクラをはじめ、最上川堤防千本桜、あやめ公園、白つつじ公園、はぎ公園、梅花藻など、四季折々に花々が咲き誇る郷になっています。平成12年にはせせらぎ緑道が甦る水100選、三階滝の湧水が山形県里の湧水100選に選ばれています。このように、水と緑と花に恵まれ、長年育んできた長井は、平成8年に全国水の郷百選にも選ばれています。

1 河川

1 最上川

西吾妻連峰に源流を発し、ほぼ一貫して北流したのち、新庄盆地で西に流れを変え、酒田で日本海に注ぎ、県内だけを流れる母なる川として親しまれてきました。米沢市大平地区の近くにある、火焔滝を源流としたときの河川長は229kmで、国内の一級河川の中で7番目。流域面積は同じく9番目の7,040㎢であり、県土面積の76%を占めています。さらに、流域人口は県総人口の80%余りになります。周囲の山々は、全国でも有数の豪雪地帯なので、水量が豊富で全国屈指の流量を誇ります。このことから、古くより舟運が栄え、地域の経済文化を育んできました。

流程のほとんどが上中流的景観をなし、庄内平野に入って日本海までの30kmほどの区間が、ようやく下流らしい景観になります。このように、盆地と狭窄部が数多く連なり、難所の多い河川であることから、日本三大急流のひとつに数えられてきました。水質においても、途中の狭窄部で自浄作用が働き、中下流部が良好な傾向にある珍しい河川となっています。最上川が流れる長井の市街地は、上流部における中核都市になっています。



2 置賜白川（白川）

飯豊連峰の主峰である飯豊山の南東側に連座する、種蒔山に源流を発し、ほぼ一貫して北東方向に流れ、長井市豊田地内で最上川左岸に合流します。市民の多くは、ここから下流を最上川、上流を松川とよんできましたが、今では松川も含めて最上川と称しています。白川の長さは42.4km、流域面積は322.8㎢あり、最上川上流域では最大の支川になっています。したがって、白川の合流により最上川の流域面積が急増し、東北の大河らしい様相に変わります。

途中の中津川須郷付近で広河原川を合わせた後、昭和56年に竣工した白川ダムに入ります。なお、広河原川上流には広河原温泉が湧出しています。地質は源流域が花崗岩、石英安山岩、石英粗面岩などからなり、中流域は第三系の凝灰岩、砂岩、頁岩から、下流域は長井盆地を構成する扇状地と第四系の砂礫粘土層で構成され、水質も比較的良好に保たれています。



3 置賜野川（野川）

朝日連峰の南斜面をなす平岩山に源流を発し、急落を繰り返す急流となっています。20kmほど南下すると、熊野山の北麓（石渕）で進路を北東に急変し、やがて、長井市街地で最上川左岸に合流します。河川の長さは22.65km、流域面積は125.3㎢と小規模な河川ですが、古来より大雨のたびに氾濫し、暴れ川として恐れられてきました。近年は治水、利水、発電目的で管野ダムや木地山ダムが相次いで建設され、平成23年に管野ダムを水没させる形で、より大規模な長井ダムが完成しました。

朝日連峰の花崗岩を洗う流れは、谷の深い野川渓谷としても知られ、とくに三淵の景観は見事です。さらに、上流に人家がないことから水質はきわめて良好で、県下でも有数の清流となっています。長井市では、その伏流水を汲み上げて水道に用いています。


【野川渓谷・三淵】

2 滝・湖・沼

1 不動滝（三階滝）

長井市寺泉地内の五所神社より北西方向の不動沢に3～4km分け入った、海抜約450mに位置します。春には、葉山連山の一角より流れ出た豊富な雪解け水が、落差約15mで豪快に落ち込み、その迫力に思わず圧倒され、心魂まで洗われます。三段に落下する様子から、別名「三階滝」ともよばれています。

また、不動明王の鎮座する聖地であり、朝日岳につながる修験の道でもありました。周辺は深山幽谷の雰囲気を醸し出しており、神秘的なパワースポットです。新緑や紅葉の季節はもちろん、四季折々に楽しめる場所です。

2 ながい百秋湖

平成23年に竣工した長井ダムのダム湖の名称です。地名の「ながい」と、朝日山系の山々の紅葉が水面に映え、いくつもの素晴らしい景観を満喫できるイメージの「百秋」という言葉を繋げてつくられました。また、「百秋」は、古事記の中の「豊葦原之千秋長五百秋之水穂国」を引用しています。

また、竜神大橋から見る百秋湖の景観は山形景観物語に登録された山形県を代表する素晴らしい景観です。

3 中里堤（なかざとづつみ）

西根草岡地内の古代の丘、縄文村の一角にある農業用溜池で、古くは江戸時代に築堤されたといわれています。湖面は台形に近い形状をしており、湖岸周囲の長さは約500m、湖表面積は約13,000㎡となっています。

周辺には、古代の丘資料館や復元された竪穴住居（たてあなじゅうきょ）、さらに、バンガローや体験交流センター、蕎麦屋などが整備されており、長井盆地を一望できることもあって、市民の散策に利用されています。



4 大石沼（おおいしぬま）

上伊佐沢大石地内にあり、白鷹山地の支脈をなす東山丘陵地の一角、松葉沢山の東側斜面に湛水（たんすい）した、湖面標高530mの小湖沼です。その長径は約150m、南北方向の短径は約50m、湖表面積は約7,300㎡で、周囲の森は、平成元年に長井市不伐の森条例を制定し、永久保存されています。中には、長井市の天然記念物に指定されているモミジも見られます。

また、湖を越流した水は伊佐沢地内を貫流して、最上川右岸に注ぐ逆川（さかさがわ）の源流にもなっています。



3 ダム

1 長井ダム

昭和42年8月に発生した集中豪雨は、最上川上流域や荒川、胎内川を中心に、甚大な被害をもたらしました。これを契機に、最上川水系河川整備計画が見直され、白川、野川のダム建設が計画されました。長井ダムは、管野ダムを水没させる形で、より大規模なダム建設が計画され、国土交通省の直轄ダムとして平成23年に竣工しました。

形式は重力式コンクリートダムで、堤体の高さは125.5m、長さ381m、総貯水容量5,100万tで県内屈指の規模を誇り、洪水調節流量が管野ダムの毎秒225㎥から、長井ダムの毎秒780㎥に大幅に増加しました。そのほかにも、農業用水、水道用水、水力発電、野川の流量維持などの役割を持つ多目的ダムです。



2 木地山ダム

野川本流の上流部に洪水調節、発電、農業用水の目的で建設され、昭和35年に竣工した県営ダムです。堤体の高さは46m、長さ168.2mと小規模ですが、中空重力式コンクリートダムとよばれる珍しいダムで、県内には蔵王ダムと2ヵ所しかありません。

清涼な水を湛（たた）えたダム湖は、東北のマッターホルンと称される祝瓶山（いわいがめやま）の山容が映る絶景ポイントです。また、湖水は野川第二発電所に導水されて発電に供されています。



4 長井フットパス

1 長井フットパスのはじまり

長井市のフットパスは、平成14年に国土交通省のフットパスモデル地区として選定され、翌15年度から白川ルートの整備に着手したのが始まりです。

その後、最上川下流域の市街地までのフットパスとして、川沿いルートとまちなかのルートを検討するため、市民13名によるワークショップ「フットパス推進会議」が発足。勉強会や検討会を重ね、フットパスルートの選定のほか、案内標識やガイドマップのデザインの検討、さらにホームページの制作や運営など、それぞれの得意分野で持ち味を発揮し、平成15年には、その集大成としてガイドマップ「みずはの小道」を発行しました。

長井市のフットパスは官民が協力して整備しています。

2 まちなか水路

「長井」の地名由来は、水の集まるところを意味し、文字どおり川が多く流れています。

まちなかには、いたるところに水路があり、清らかな風景が楽しめます。初夏から初秋にかけて清流には、「梅花藻」が白くかわいい花を咲かせます。

また、平行水路、交差水路、家に入り込む水路など珍しい水路が多く、梅花藻の開花（7月～8月）に合わせて、川を見ながらのまち歩きが人気です。まち歩きをしながら探してみてはいかがでしょうか。





まちなか南方面

おさんぽコース
1.6ｋｍ　22分

長井駅
↓
砂押川
↓
御殿通り
↓
桑島記念館
↓
長井駅西広場
↓
長井駅

白つつじコース
3.4ｋｍ　45分

白つつじ公園駐車場
↓
やませ蔵
↓
長遠寺
↓
斎藤家住宅
↓
山一醤油店
↓
薬師寺
↓
小出舟着場跡
↓
白つつじ公園駐車場

まちなか北方面

あやめコース
2.5ｋｍ　34分

長井駅
↓
工藤家脇の水路
↓
小桜館
↓
旧丸大扇屋
↓
長沼酒造・鍋屋本店
↓
總宮神社
↓
長井駅

小桜コース
3.3ｋｍ　45分

小桜館駐車場
↓
旧丸大扇屋
↓
長沼酒造・鍋屋本店
↓
ぬくもりの郷あやっか
↓
宮舟着場跡
↓
撞木橋
↓
青苧蔵門
↓
小桜館駐車場

最上川舟運コース
6.2ｋｍ　75分

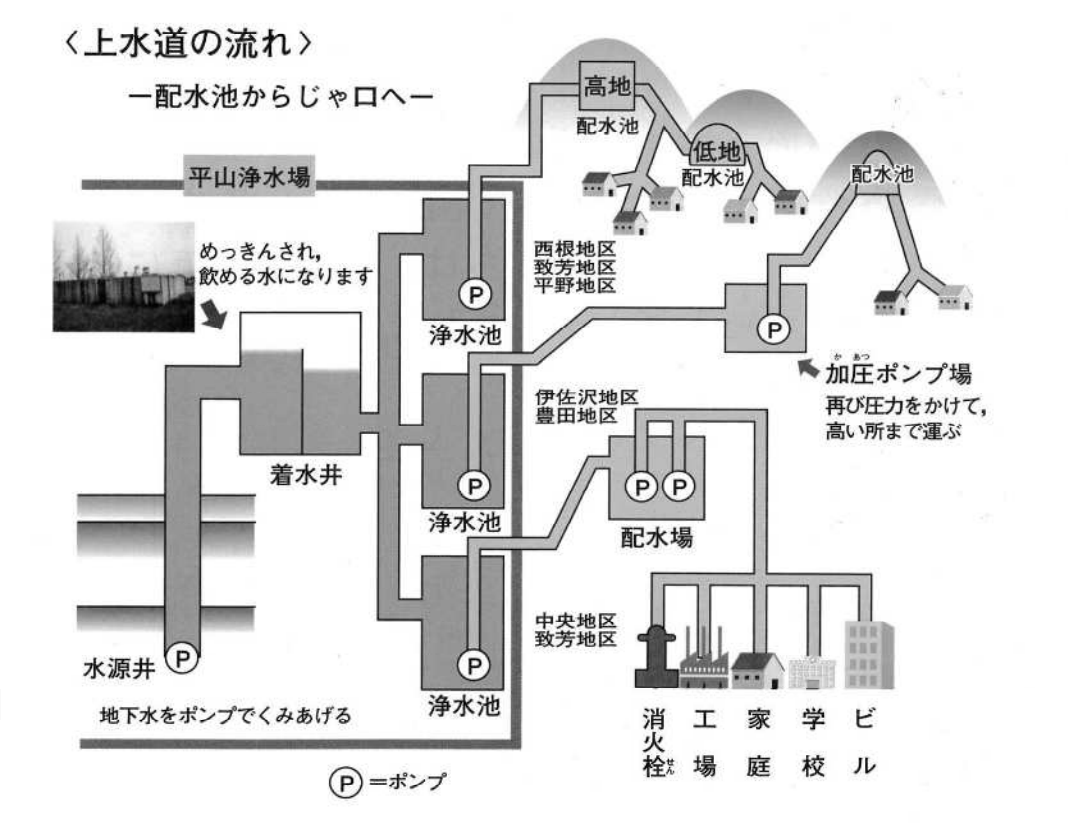
小桜館駐車場 → 旧丸大扇屋 → ぬくもりの郷あやっか → 宮舟着場跡 → 小出舟着場跡 → やませ蔵 → 芳賀醤油店 → 小桜館駐車場

5 おいしい水と生活用水

1 水道水源

朝日連峰の一角をなす平岩山から流れ出た野川は、その急流が運んだ大量の砂礫が下流部に厚く堆積し、扇状地を形成しています。

この扇状地沿いの野川において、数ヵ所で地下40m以上の深さから汲み上げた地下水を、水道水源として使用しています。水質は極めて良質で、硬度20前後の軟水で県内の水道水の中でも、最も恵まれた水質を誇っています。



2 消流雪用水

消流雪用水路は国のモデル事業として、長井市と旭川市が全国で最初に採択されました。平成12年12月に消流雪用水導入水路の供用を開始し、翌13年11月に消流雪用水導入水路が長井市に移管され、通水が開始されました。

冬期間の消雪利用にとどまらず、年間を通して市街地水路への水量調整等の役割も担っております。

3 野川三堰（のがわさんせき）

野川の水を利用した農業用水の取り入れ口として、昔から三ヵ所の堰（せき）が設けられ、長井と飯豊の水田を潤してきました。

上流より左岸に一の堰（栃の木堰（とちのきぜき））、右岸側に二の堰（中村堰、荒川堰）と三の堰（木蓮堰）があり、厳しい定めのもとに運用してきました。

また、堰の建設にあたっては、それぞれに逸話が伝えられています。昭和28年の管野ダムと野川第一発電所の完成にともない、三堰合同の統水施設が完成し、現在は野川土地改良区によって運用されています。

6 温泉

1 卯の花温泉はぎ乃湯



野川の左岸に湧出する温泉で、平成17年にボーリングによる温泉掘削で得られたものです。

泉質はナトリウム、塩化物を主とする低張性のアルカリ泉で、加温して卯の花温泉はぎ乃湯として営業しています。

宿泊施設も併設されていますが、日帰り入浴も可能となっています。





2 あやめ温泉ニュー桜湯



朝日連峰の支脈である西山の裾野に位置し、寺泉地内にあります。施設は、長井盆地を一望する場所に建っており、日帰り入浴に利用されています。

ボーリングによる温泉の泉質は、ナトリウムイオンと硫酸イオン、および塩化物イオンを主成分とする弱アルカリ性を示し、源泉温度40.5℃を多少加温して浴用に供しています。





7 山岳

・やまがた百名山について

平成28年、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日」として、8月11日が「山の日」に制定されました。これを契機に、地域の宝である”山“に光を当て、山形県の山に愛着を持つ皆さんから県内の魅力的な山を広く募集し、山岳観光の振興につなげることを目的として「やまがた百名山」が選定されました。



選定された山々の中には、日本百名山に数えられる本格登山者向けの名峰から、地元で愛される里山、気軽に散策・トレッキングができる低山など、多彩な魅力と歴史的背景、暮らしとの関わりが深い100座がそろっています。

長井市からは「祝瓶山」「置賜葉山」「熊野山」が選ばれており、地元はもちろん県内外からも多くの登山客が訪れています。

1 祝瓶山(1,417m)

野川沿いの山道を進むと、木地山ダムの辺りから祝瓶山の正三角錐の山容が見えます。祝瓶山荘までは車で行けますが、山荘からは徒歩になります。角楢吊橋を渡り、桑住平になります。

角楢沢、ヌルミ沢を渡り、二つの沢に挟まれた狭い稜線の尾根を登り、視界が開けると、ヌルミ沢源頭のほぼ垂直に見える、壮絶な岩場があり、この断崖は、朝日連峰三大雪蝕障壁の一つとなっています。頂上直下は、雪崩に磨かれた岩肌を確かめながら、斜面の横断と急登をして頂上に上がります。

山頂は四方の展望がよく、東北のマッターホルンの名称は積雪期だけではないと実感します。

2 祝瓶山荘

長井駅から約22km、木地山ダム湖までは県道で、その先は林道と造林作業道になります。杉林の中の角楢平に、長井山岳会の祝瓶山荘があります。山荘のすぐそばには、市指定天然記念物のオオヤマザクラもあります。

施錠されているので、利用者は事前に山荘の鍵管理者から鍵を借り、使用後返却します。私営の山小屋ですが、南朝日連峰登山の基地としての役割を果たしています。

3 置賜葉山(1,237m)

標高1,200m前後の葉山一帯は、ゆるやかな傾斜の高原状になっています。長井盆地からは急勾配な葉山東斜面になり、葉山断層崖といいます。

葉山は作神様が祀られ、祖先の霊魂が宿る山、お葉山信仰の山であり、里人には水源の山です。草岡ではおけさ堀、勧進代では嘉永堰・昭和堰など、昔からの水田用水確保の努力がしのばれます。なお、おけさ堀、嘉永堰・昭和堰は長井市史跡に指定されています。

Ｖ字状にえぐられた白兎尾根登山道は深層風化花崗岩帯のため、先人の祈りの踏み跡と雨と雪がさらに踏み跡を深く刻み、葉山参道の特徴を示します。

4 葉山奥の院(1,237.1m)

葉山山荘からお田代湿原を左に進み、標札に従って南東方向に向かうと、小さい独立峰があります。

修験者が祝瓶山や大朝日岳を拝んだとされる場所なので、奥の院と称されています。この地から見ると、祝瓶山の名称の由来が、大朝日の神(朝日権現)を祝ぐ瓶子（口が細い壺の一種で、主として酒器として用いられるもの)といわれたのがわかります。

5　葉山山荘

昭和 42 年、山形県・長井市・白兎財産区で建設しました。以後、葉山山荘は積雪期をはじめ、四季の山岳活動の基地として、多くの山岳人が育ち、市民や学校などの登山活動の普及や自然観察と自然保護活動の拠り所として貢献しています。

常時無人利用、宿泊 40 名程度、沢水利用、ストーブ有、別棟トイレ、冬季使用可能です。

葉山高原は、朝日山系森林生態系保護地域に含まれています。保護地域には、保存地区と保全利用地区があります。葉山山荘西側のエリアから保全利用地区になり、標識が五葉松に付けられています。

6　熊野山(670m)

中腹に熊野神社があり、平山地区の産土神(うぶすなかみ)として祀られています。登山路を兼ねた参道の上部が有志により伐採され、野川流域の散居集落と市街地が一望できる景観を満喫できます。

神社周辺、および御神木の大杉に回廊が設置され、御神木を三度回りながら願い事をすれば叶うといわれています。

神社から登路を進むと、片屋根だけの小施設が 2 ヵ所あり、ダムと祝瓶山が望めます。

・長井の山々

1　三体山(さんたいさん)(1,255.9m)

三体山は季節の到来を示します。初冠雪で冬支度を急かされ、なごり雪が無くなると真夏を知らされます。山に登るには、県道木地山九野本線から前野、桂谷の造林地へ行く吊橋を渡り、林道から三体山に登る踏み跡をたどると、鉈目(なため)が登路を示します。樹林の狭い、痩せた尾根で急な登りが続きます。

山頂には、伽羅(きゃら)の老木が豪雪に逆らっているような存在感があります。山頂からわずか西に降りると、西斜面に西山新道跡を見つけることができます。

2　管野山(かんのやま)(神尾山(かんのやま))(661.5m)

長井市内から野川渓谷に眼を移すと、左は熊野山と西の葉山断層崖(だんそうがい)の南端に(頂上は鴨石(かもいし))挟まれて、管野山が頭を持ち上げ、その背景に三体山を含む連山になります。

地形図は神尾山ですが、管野ダム、管野部落がなくなっても管野山が適当です。ながい百秋湖のほぼ全容が眼下に見られます。

3　平岩山(ひらいわやま)(1,609m)

長井市の最高標高の山で唯一の磐梯朝日国立公園です。大朝日岳の南東面の基部にあたる平岩山は、平頂の風衝地(ふうしょうち)で、砂礫の間に高山植物の群生があります。野川源流五貫目沢(ごかんめざわ)の支流、ガッコ沢の先が野川源頭、平岩山となります。

4　合地(がっち)の峰(1,283m)

国土地理院の三角点地図では、「三体山」と記載され、一等三角点の補点です。

このあたりでは、一等三角点はここだけで、山頂から見通しが良いためです。

5　八形峰(はちがたみね)

まばらな林とヤブの登山路が稜線に変わると、八形峰になり、葉山高原が終わり、次の峰が小八形峰です。

名前の由来は、残雪期に野川木流し作業の人たちが、この山の残雪が八の字形に見えたからといわれています。

6 焼野平(1,275m)

原生林帯の中の焼野平は笹ヤブです。風衝地なので、森林が発達できなかったと考えられます。

昭和 33 年、朝日連峰に至る登山路開設のとき、焼野平の中腹のルートが朝日軍道と一致しており、昔も今も同じ考えの選択だったと気づかされます。

7 大沢峰 (1,474m)

朝日俣沢と野川源流部をわける稜線に 5 つのピークがあり櫛形尾根といわれ、その主峰が大沢峰です。

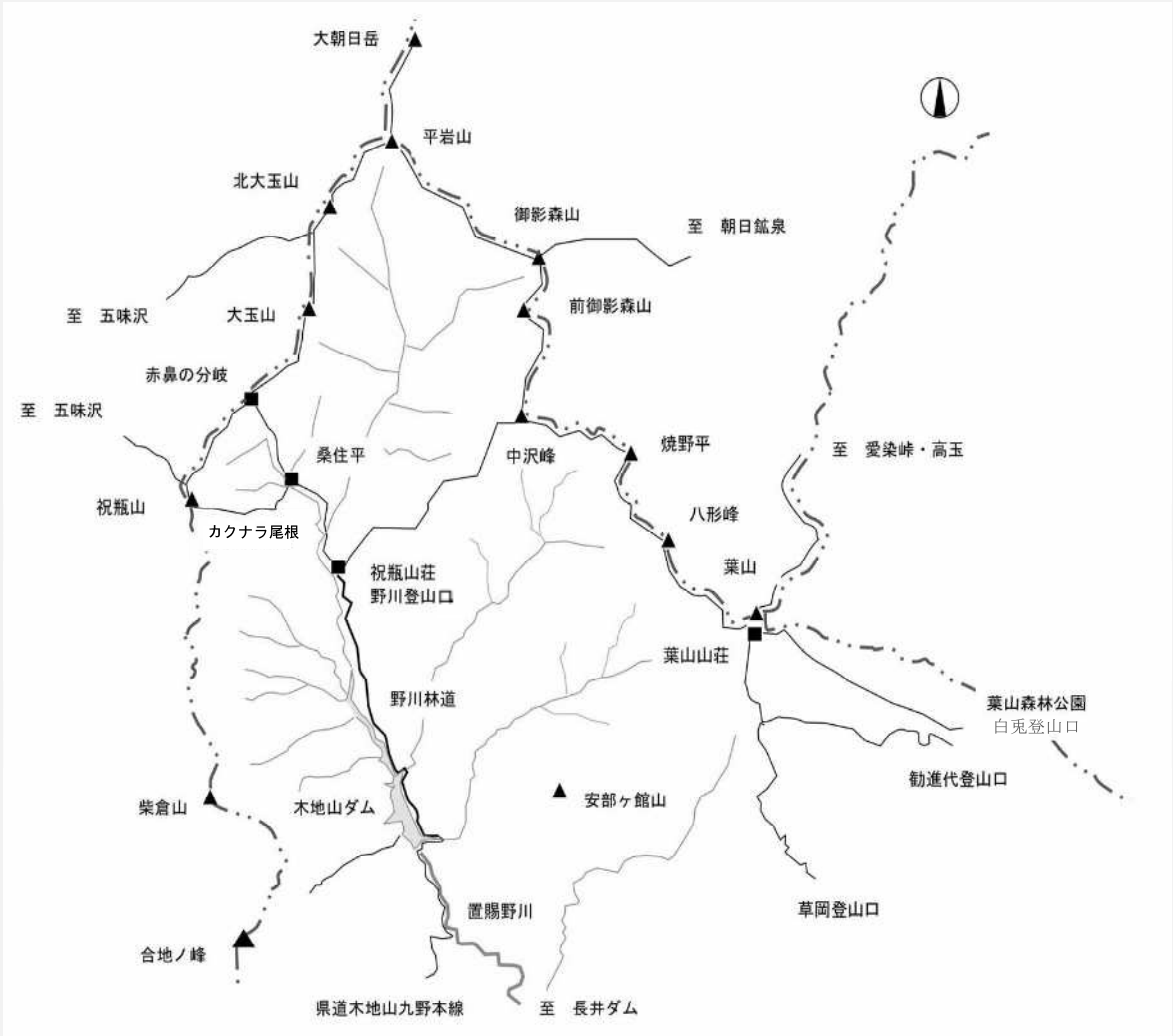
8 中沢峰(1,343.3m)

焼野平西面のブナ原生林を降りると、最低鞍部の原生林のなかに広場があります。「大留鞍部」という幕営地です。慶長の頃は小屋場として、広くブナが伐採されたと考えられます。

中沢峰の積雪期は祝瓶山、北大玉山東面の雪蝕断崖の景観が楽しめます。

9 御影森山(1,539.5m)

白鷹町の北東方面や最上川沿いの国道348号から、西方の山なみの上に白亜の三角錐に見えるのが御影森山です。朝日修験のなごりのためか、明治までは小朝日山とよんでいました。



8 盆地

1 長井盆地

長井盆地は、海抜230～180mに渡って、幅4～6km、長さ約20kmの南北方向に細長く伸び、東西の山地とは断層によって仕切られています。西側は朝日連峰の南西端を形成する、葉山連山が屏風のごとく連なり、地元市民からは「西山」として親しまれています。そして、逆断層型からなる長井盆地西縁断層が走り、その累積運動によって急崖をなす葉山連山と、盆地部の明瞭な境界をなしています。

この葉山連山より、多くの小河川が東方に向かって流下し、扇状地を形成して、最上川本流を盆地の東縁に押しやっています。

2 伊佐沢盆地

伊佐沢は北に高く南に傾斜し、平地は南部に開けた細長い地域で、伊佐沢盆地とよばれます。

9 地質

1 長井の地質

長井の地質は大まかに、長井盆地の東縁を流れる最上川に沿って、ほぼ南北方向に帯状に特徴づけられます。つまり、最上川や白川、野川の現河床を中心に両側に沖積層が分布し、その外側に更新世の段丘堆積層があり、さらに外側の山地部には、基盤である白亜紀の花崗岩類が広がっています。その花崗岩の縁に沿った南部の一部には、新第三系の凝灰岩や頁岩が見られます。

東西の山地を構成する花崗岩とは断層によって区切られ、とくに、西側の長井盆地西縁断層は、逆断層型の累積運動により、第四紀層が厚く堆積しています。



長井の地質

2 洞雲寺の大石

市指定天然記念物

長井盆地の東側山地は、花崗岩体からなる鷹戸屋山山塊からなり、伊佐沢地区のほとんどがこれに含まれます。中央部を流れる逆川に沿って、上伊佐沢の洞雲寺周辺も同様であり、花崗岩の巨石が散在します。とくに、境内にある大石は周囲が34m、高さが3mを超え、地区名にもなっているほどで、市指定天然記念物に指定されています。



3 長井隕石

大正11年(1922)5月30日午前10時頃、長井市森地区の井上徳助氏(故人)が、農作業の合間に休息をとっている時、目の前の水田に南西方向から大音響とともに落下しました。直ちに、深さ30～40cmの土中から取り出したときは、まだ熱かったといわれています。

鑑定は昭和52年、当時の国立科学博物館村山定男氏によって石質隕石と確認されました。大きさは14×13×10cm、重量は1.81kgで日本の隕石リスト33番目に加えられました。

10 森林・公園

1 不伐の森

「水と緑と花のながい」を提唱する長井市が、地球の財産であり、生命の源である森を守り、後世も緑豊かな地球であることを願い、平成元年に「不伐の森条例」を制定し、20.3haの市有林を永久保存することにした森です。長井市の伊佐沢地区にあり、森の中にある「大石沼」では、夏になるとジュンサイも採れます。不伐の森に親しむ会では、「不伐の森」を守り育てようと、春、夏、秋、冬にも不伐の森へと足を運べる交流事業を毎年実施しています。



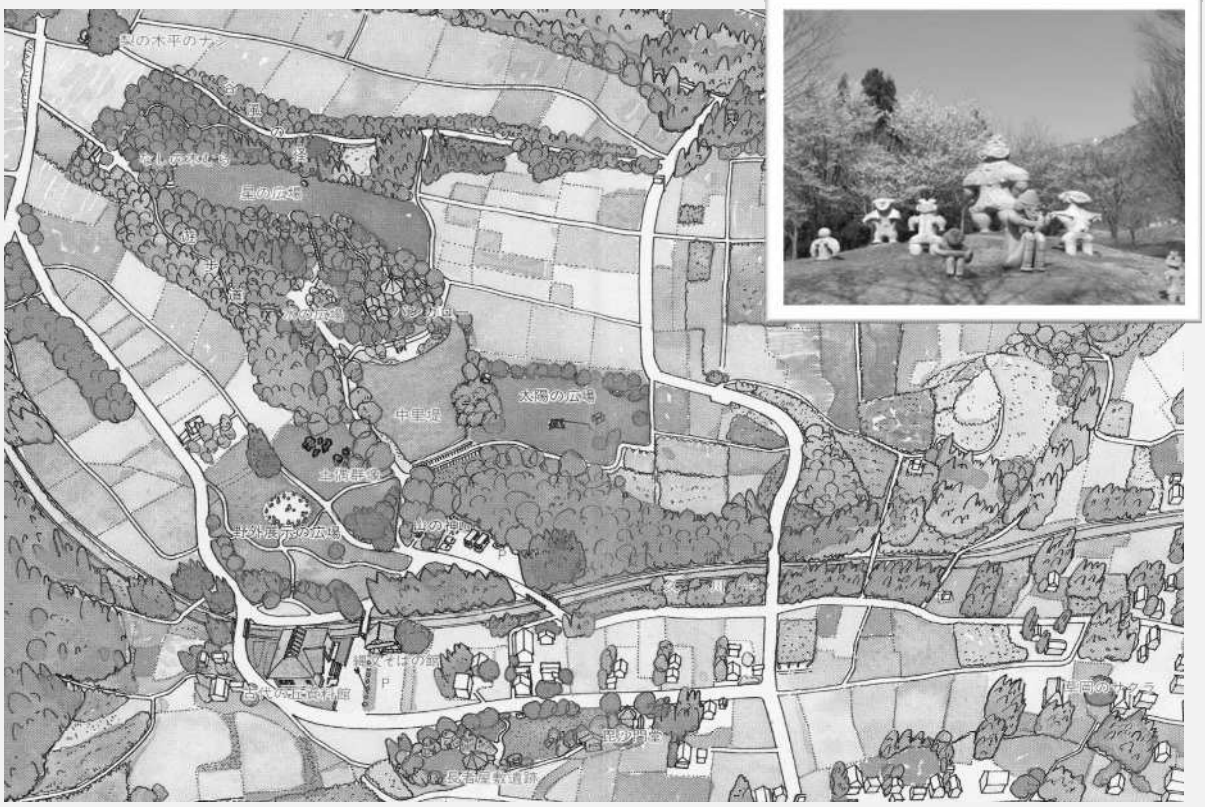
2 21世紀不伐の森

21世紀不伐の森は、元は長井ダム建設工事にともない発生した残土処分地でした。
ダム建設工事のために消えた森を、もう一度復活させようという思いを込めて、21世紀不伐の森はつくられました。原石山や残土受入地については、一部のエリアに、市民が育てたブナなどの植樹や苗育成運動を継続的に実施しています。原石山では、沢の付替えを自然に配慮した工法で行い、水辺環境の復元を図っています。更地が森に戻るには何十年もかかりますが、人の手と自然の力の共同作業でこの場所を森に戻す計画です。



3 古代の丘

長井市草岡地区にある古代の丘は、朝日山系の麓に位置し、周辺では旧石器時代から戦国時代に至るまで数多くの遺跡が見つかっています。体験施設や野外展示施設をはじめ、古代の丘資料館など、ここには、縄文時代の雰囲気が漂っています。また、桜や紅葉などの四季折々の美しい風景を楽しめる場所でもあります。



4 葉山森林公園

昭和63年、長井市地域活性化事業の第1号の指定を受け、平成2年に白兎地区民が一丸となってつくり上げた公園です。象徴となるバンガローは、「兎夢創観」と命名され、地区民のボランティアで維持管理に努め、平成11年より14年にかけて、山形県の生活環境保全事業によりさらに広範囲の公園として整備され、平成21年、山形県みどり環境公募事業の認定を受けました。緑豊かな杉林に囲まれた林間キャンプ場で、脇を流れる小川では水遊びができます。朝日、飯豊、蔵王、吾妻の見晴らしが良く、秋の紅葉は絶景です。



5 八ヶ森公園

豊田今泉地区にある今泉山は、通称「八ヶ森」とよばれ、北八ヶ森と南八ヶ森からなる周囲の山々を眺望できる景勝地で、「八ヶ森自然公園」として、長井市民の憩いの場となっています。

八ヶ森の由来は、平安時代後期の安倍貞任と源義家（八幡太郎義家）の合戦に関する伝説があることにちなみ、「八ヶ森」とよばれています。自然環境が豊かで、歴史を彷彿させる地となっています。



11 樹木銘木

1 總宮神社の直江杉



直江杉は横町の總宮神社にあります。慶長３年(1598)、直江兼続が植えたといわれています。幹廻り約3～4m、高さ約25～30mで9本あります。東西に一文字に見えることから「宮の一文字杉」ともよばれ、最上川舟運の船頭たちの目印となりました。

2 芦沢観音のスギ

市指定天然記念物



芦沢地内の曹洞宗雲洞庵の参道にある1本の杉で、高さは43mもあり、市指定の天然記念物の中でも1番背の高い巨木です。樹齢は定かではありませんが、下から見上げると実に見事な杉で、その樹姿の荘厳さに圧倒されます。長い年月にわたって観音様とともに、地元の人たちの安全と幸せを見守ってきました。

3 蘊安神社のスギ

市指定天然記念物

五十川地内の蘊安神社の正面右側の杉が、市天然記念物に指定されています。高さは30mほどですが、市内にある門杉の中では1番太く、根元で11.55m、幹廻り10.50mもあります。樹齢は推定600年といわれています。毎年9月の祭礼の際は、太くどっしりとした大木のある境内では近年久しぶりに復活した五十川獅子踊が奉納されています。



4 岩切不動の門スギ

市指定天然記念物

2本の門杉の樹齢は定かではありませんが、高さは、およそ28mあります。東側の杉は、幹回り4m、西側の杉は幹廻り5.08mもあり、不動尊の門杉らしく、強さと逞しさを感じます。伊達輝宗(1544～1585)の頃、不動尊を現在の場所に移した時に、門杉として植えられたと伝えられています。



5 遍照寺の大イチョウ

市指定天然記念物

高さ23m、根元が8.25m、幹廻り6.49mもあるこの銀杏の大木は、遍照寺中興の祖といわれる宥日上人が、手植えしたと言い伝えられています。

根元から約8mの所で樹幹を大きく5分岐しており、太い枝の基部から古木にできる「乳」(気根)がみられます。雌株で樹齢は約600年とされています。



6 白山神社の大ケヤキ

市指定天然記念物

この欅は鎌倉時代初期に、地頭がこの地に館を構え、やがて、集落ができた頃に植えられたといわれています。

地上4mのあたりから3枝に分かれ、幹廻りは6.25m、高さは16mあります。

樹齢は750年。白山神社の御神木にふさわしく、姿、形はもちろんのこと、堂々として重みと風格がただよっています。



7 上伊佐沢のブナ

市指定天然記念物

ブナは山地に生育するのが普通ですが、低山地で高さ24mもある巨樹のブナは珍しいといわれています。自然木で、根元は4.40m、幹廻りは3.10m、そして、枝張は東西17.50mもあります。

樹勢も盛んで、新緑の時節はまぶしく、紅葉の時期もまた見事なものです。

8 梨木平のナシ

市指定天然記念物

草岡地内の梨木平の原野にあり、いつからここにあるかは定かではありません。山形県を代表する梨の原種(岩手山梨という品種)で、高さは13mほどあります。

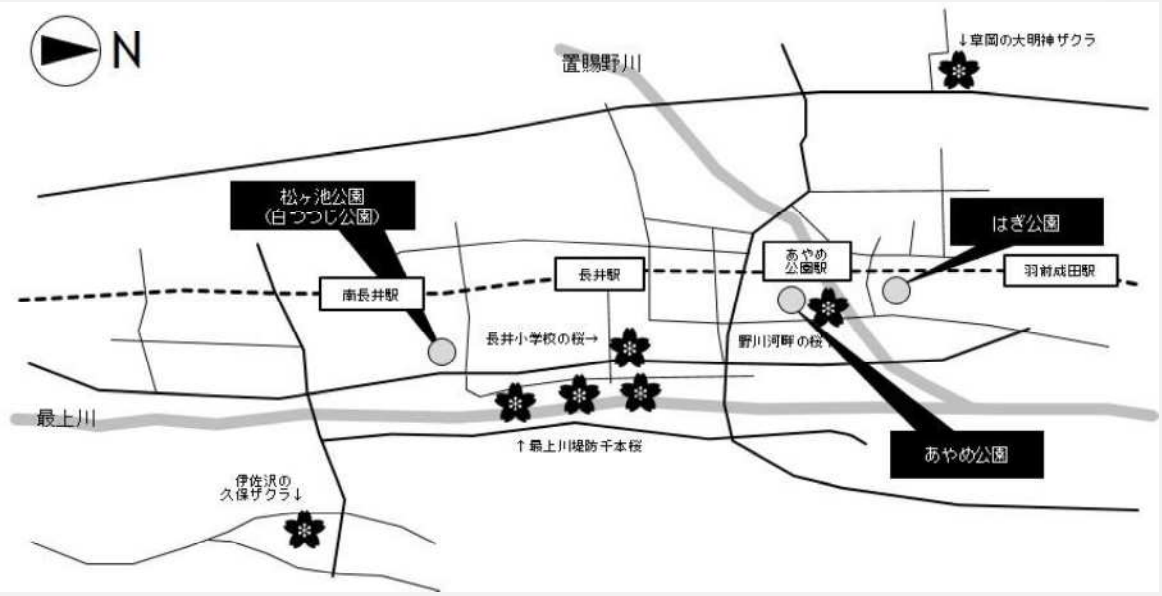
秋には、たわわに実った梨が谷風に揺れている光景が見られます。結城哀草果の歌碑「高原に枝ひろげたる山梨の独立樹ありて鳥らあつまる」があります。





12 花の長井

公園と桜の地図



あやめ公園



明治43年に長井市横町の金田勝見（かねだかつみ）という人物が、伐採した杉林の跡地に湧く、湧水の周りに数十株の花菖蒲（はなしょうぶ）を植え、傍らに茶店を開いたのが現在の公園の始まりです。

あやめは、「水と緑と花のまち」長井市のシンボルになっています。あやめ公園は、令和2年で開園110周年を迎えました。3.3haの園内には、数百種の「花菖蒲（あやめ）」が鮮やかな彩りを見せてくれます。

また、数や種類もさることながら、「長井古種」とよばれる希少な原種に近い、固有の品種が見どころのひとつになっています。

1 「山形県一名所」最高当選記念碑

昭和5年、山形新聞が主催して「山形県一名所」人気投票を行いました。町民の熱烈な運動が実って、投票で第一位の栄誉をつかみました。それを記念して建てられた碑です。戦前のあやめ公園の、繁栄を築きあげるきっかけになった大切な碑です。

2 蒲生直英（がもうなおえい）詩碑

郷土長井の詩人、蒲生直英の詩集「四季流転」の巻頭の詩です。

緑の里

山は連なり　　川は流れる
緑の里に　　花は咲き
町には幸せが　　優しく佇んでいる

3 開園記念川柳句碑

この碑は、昭和12年7月11日に町内有志からの寄付で建てられました。「開園記念」の揮ごうは、長井第一高等学校・長井高等学校で長年教鞭をとり校長を務めた俳人、佐藤柊坡です。

明治43年7月、川のほとりに数十株のあやめを咲かせ、川柳を吟（ぎん）じた茶店の主人の金田勝見という川柳人がいました。以来、あやめの咲く時期に川柳大会を開いていたそうです。

名園の　花を生かして　絵雪洞　（白河　五花村）
人去りて　地にむらさきの　詩が残り（東京　剣花坊）
魂は　ゆかりの色へ　よみがへり　（東京　飴ン坊）

4 あやめと花菖蒲、かきつばたの違い

	あやめ	花菖蒲	カキツバタ
花の特徴	小輪咲 花弁の中心の核が網の目模様	大輪咲 野生種は小輪 花弁の中心が黄色	中輪咲 花弁の中心が淡い黄色か白色
花の位置	葉より高い	葉より高い	葉より低い
葉の特徴	幅が狭く濃い緑色 主脈は不明瞭	幅は中程度 主脈が太い	幅が広く黄緑色か緑色 主脈は細小
適地	乾燥地	湿地または乾燥地	湿地
開花期	5月下旬～6月下旬	6月中旬～7月上旬	5月下旬～6月上旬

5 長井古種

花菖蒲は、ノハナショウブを観賞用に改良した園芸種ですが、長井古種は原種に近いといわれ、江戸中期の花菖蒲の姿を今に伝える希少性が高い存在です。現在34種が「長井古種」として大切に育てられています。うち、次の13種が平成2年6月に市の天然記念物に指定されました。


1　朝日の峰


2　郭公鳥


3　小桜姫


4　日月


5　爪紅


6　出羽娘


7　長井小町


8　長井小紫


9　野川の鷺


10　三淵の流


11　藍島


12　竜の髭


13　麗人

※「長井古種」13種の読み

1. あさひのみね　2. かっこうどり　3. こざくらひめ　4. じつげつ　5. つまべに
6. でわむすめ　7. ながいこまち　8. ながいこむらさき　9. のがわのさぎ
10. みふちのながれ　11. らんじま　12. りゅうのひげ　13. れいじん

白つつじ公園（松ヶ池公園）

白つつじ公園は毎年5月になると、5.6haの園内に、約3,000株のつつじが咲き誇ります。「水と緑と花」の公園には、大噴水、滝、松ヶ池とひょうたん池を結ぶせせらぎ、子供向けの遊具があり、市民と観光客の憩いの場として愛されています。

公園には、白一色のつつじだけが植栽され、「七兵衛ツツジ」とよばれる樹齢約750年の古木群もあります。



1 つつじ公園のはじまり

長井町の発展と産業振興に功績を残した横山孫助は、明治29年、小出の地に名所をつくろうと、皇大神社がある小出公園に、古くから有名な「七兵衛ツツジ」を中央に置き季節の草木花や風流を楽しめる場や子供の遊び場、神仏を崇敬する場としての公園づくりを手掛けました。

その後、園内には長井市生まれの俳人「川崎玄子」の句碑や「中山きりを」の歌碑、南画家「菅原白龍」の記念碑が建立され、公園づくりに尽力した長井町名誉町民「横山孫助」の胸像も、当時の長井町役場（ままの上地区）の東から七兵衛ツツジのそばへと移転されました。



2 七兵衛（しちべえ）ツツジ

白つつじ公園中央部の古木群、27株が長井市天然記念物に指定されています。いずれも琉球種で、それぞれ、樹高は1m以上、根元周は0.35m以上、枝張は東西で1m以上、株立ち数は2本以上あります。

天明3年(1783)の飢饉（ききん）のとき、現在の花作町の豪農鈴木七兵衛が、飢饉の救済事業として白つつじの築山を造らせました。やがて、明治29年に町民の憩いの場所として、松ヶ池公園の建設、整備拡充が行われましたが、その際、二度にわたりこの白つつじを譲り受けました。それが白つつじ公園のもとになったのです。



はぎ公園

はぎ公園はあやめ公園の外苑といわれ、昭和4年に安部林蔵氏が曙園と命名し開園しました。あやめ公園の北、野川左岸にある、約0.6haの日本庭園風の静かな公園です。8月下旬から9月にかけて紫やピンク、白などのたおやかなはぎの花に包まれ、風情を楽しめます。

モミジやバラも彩りを加え、四季を通じて竹、杉、檜といった樹木が訪れる人々を魅了します。







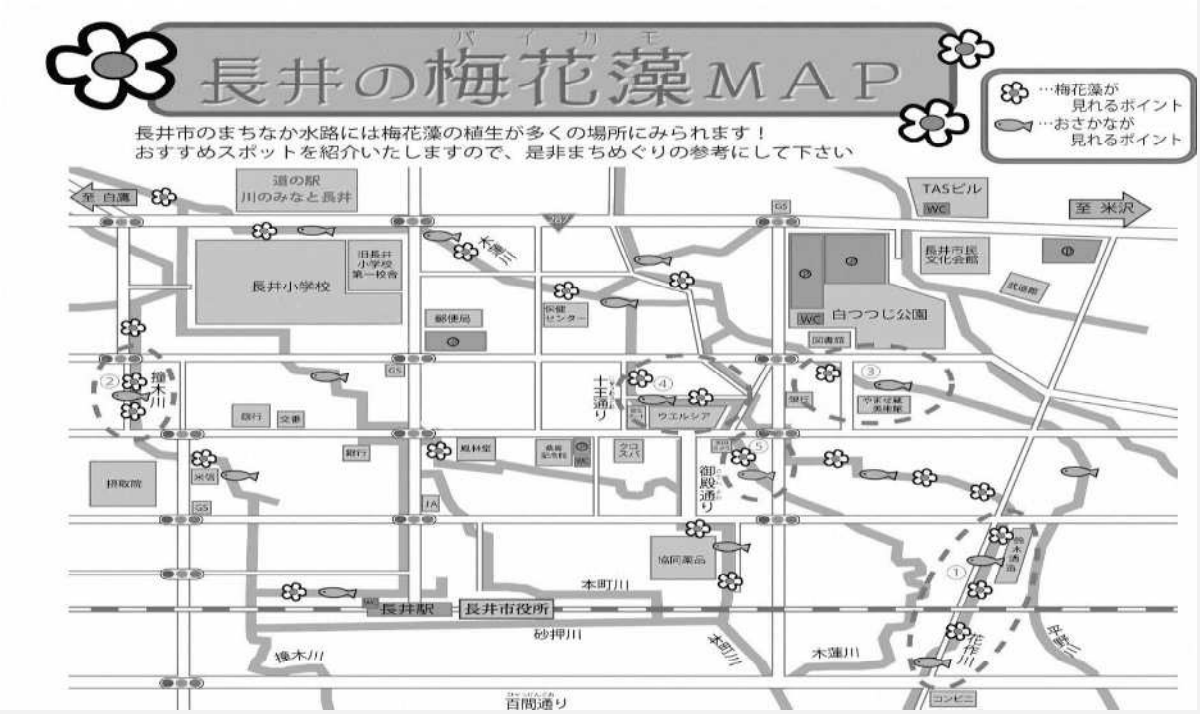
梅花藻

梅花藻はキンポウゲ科キンポウゲ属の植物です。梅の花に似た、5枚の花弁の小さな花を咲かせることが名前の由来です。砂質の水底に固着し、体全体を水中に漂わせて生活しています。水温が14℃前後の、水質汚染の少ないきれいな川でしか育たず、山形県でも準絶滅危惧種に指定されています。

そんな希少な梅花藻は、長井市内の多くの場所で見ることができ、まち歩きスポットの一つにもなっています。見頃は７月中旬から８月下旬です。







13 桜

1 伊佐沢の久保ザクラ

国指定天然記念物

上伊佐沢地内にあるエドヒガンの古木で、樹齢は坂上田村麻呂（さかのうえのたむらまろ）の伝説によると約1,200年、桑島将監の言い伝えでは約450年余りと推定されます。

根元の部分が腐朽し樹勢が衰えたため、市や地域が一体となって、専門家の指導を受けながら、土壌の入れ替えや支柱の設置など、樹勢回復作業を実施してきました。近年では、新たな根の発生を促す不定根誘導に一定の成果がみられ、新しい枝が少しずつ伸びてきました。昭和25年（旧法大正13年）に国の天然記念物に指定されています。

毎年4月第3土曜日には隣接する伊佐沢小学校グラウンドで「伊佐沢念仏踊」が披露されます。



2 草岡の大明神（だいみょうじん）ザクラ

国指定天然記念物

草岡地内の個人宅にあるエドヒガンの古木で、樹齢は坂上田村麻呂の伝説によると約1,200年、伊達政宗の伝説では約450年余りと推定されます。

地元では、古くから「種まき桜」として春の農作業の目安とされてきた桜です。以前は、施肥等を行ってきましたが、現在は樹勢が安定してきているため、強風による枝折れ対策としてのケーブリングのみ実施しています。平成17年に国の天然記念物に指定されています。



3 最上川堤防千本桜（もがみがわていぼうせんぼんざくら）

大正4年(1915)に大正天皇御即位を記念して、長井大橋(現在のさくら大橋)と長井橋の間約2kmの右岸堤防に植えられ、昭和13～15年には左岸にも広がり、両岸が桜で彩られました。

当時はソメイヨシノを300本植え、「千本桜」や「土手の桜」として親しまれてきました。春には二百数十本が見事な桜並木となります。



4 野川河畔の桜

昭和20年代から30年代にかけて、野川の谷地橋付近から旧成田橋付近までの右岸に植えられた100本を超えるソメイヨシノです。

その途中にはフラワー長井線の鉄橋やあやめ公園があり、西山の残雪とともに美しさを際立たせています。

5 長井小学校の桜

現在の旧第一校舎は、昭和8年に建てられました。桜は当時の皇太子殿下（現 明仁上皇陛下）誕生を記念して昭和9年に敷地の周囲に植えられたものです。樹齢は約80年にもなるソメイヨシノです。とくに、正門脇の桜は、「旧教育委員会庁舎前の桜」とともに、市内でも1番先に見ごろを迎えます。

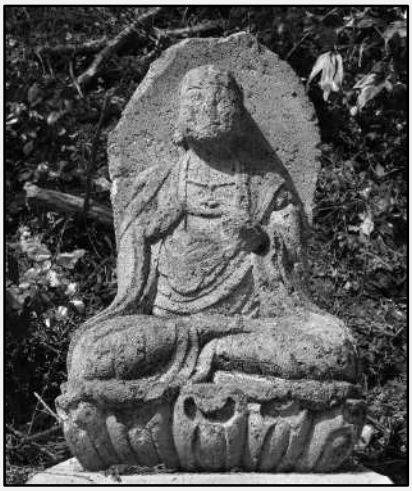
14 流し木

野川山の流し木の歴史は古く、江戸時代にはすでに始まっており、以後、昭和 28 年頃まで行われていましたが、伝統的な流木作業も管野ダム着工とともになくなりました。当時野川から木蓮川を利用して木を流し「小出木場」と「宮町木場」で水揚げされており、その大部分は、酒屋や醤油屋、製ろう場に引き取られていたといわれています。

危険で苦労が多く大変な流し木は、まだ雪の深い春彼岸に奥山に入り、泊りがけで木を伐りだしたあと、かた雪を利用して少しでも沢の近くに「まくり落とす」という作業を繰り返し、日当たりのよい平地で乾燥させました。乾燥した木々を出すには、その年の初冬、水をせき止める「半筒」（＝小型のダム）という仕掛けを沢の所々につくり、貯めた大量の水と共に一気に沢から本流（野川）に流し出すという巧妙で豪快なものだったと伝えられています。



流し木置き場（沢の近くの平地）
昭和 28 年（1953）頃撮影



流し木作業の安全を祈念した地蔵
明治 37 年（1905）建立

15 文化的景観

1 「文化的景観」とは

・「文化的景観」と「重要文化的景観」

文化的景観とは文化財のカテゴリの一つで、文化財保護法では「地域における人々の生活または生業（せいぎょう）の理解のために欠くことのできないもの」と定められています。この地域の風土と生業の特色を示すものであり、人々の暮らしと自然が折り重なって作られた景観のことを指しています。なかでも、地域の特色を示す代表的なものや他に例を見ない独特なものとして国が選定したものを「重要文化的景観」とし、令和 5 年 3 月現在、全国で 72 件が選定を受けています。

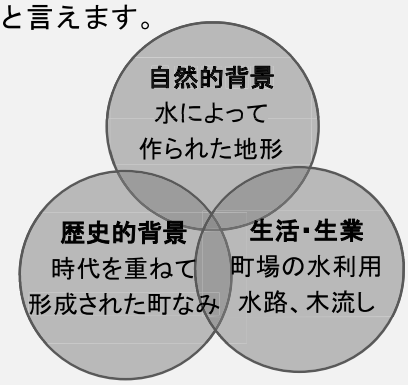
長井市では平成 23 年度に調査検討委員会を立ち上げ、「自然条件」「歴史背景」「生活・生業」の視点に基づき調査を実施し、平成 30 年 2 月に「最上川上流域における長井の町場景観」として選定されました。

2 長井の文化的景観

長井市は市域の 3 分の 2 が山地であり、市街地は南北を野川と白川に挟まれた最上川沿いに展開しています。

現在の市街地・長井の町場は、中世にさかのぼると宮と小出という二つの核を持ち、近世には最上川舟運によって大きく発展しました。近代に入ると鉄道や道路整備による交通の発達に応じてまちの姿が変化し、宮と小出が一体となった現代の“長井”が形作られました。

現在の長井は、各時代のまちの姿を継承しつつ時代に沿った変化を経て形成された様子と、水とともに暮らす様子が折り重なり形作られたものと言えます。



・選定基準（重要文化的景観の選定基準 8 項目のうち以下が該当）

(5)　ため池・水路・港などの水の利用に関する景観地

(7)　道・広場などの流通・往来に関する景観地

3 水とともに暮らす風景

長井のまちなかにはたくさんの河川や水路が流れています。立体交差する大樋川と野呂川、家と家の間を流れる細かい水路などは、水を引くためだけではなく、水を分け被害を避けるためであったとも言われています。

また、屋敷へ水を引く「入り水（いりみず）」や「入れかわど」、水を使うための段差「かわど」が今でも残っています。冬期間でも水が流れる水路が多いことから消雪にも利用されています。

4 時代の重なる町場

中世以前から存在する宮と小出は、それぞれ政治的な拠点である館や寺社が置かれ、在郷町として発展しました。

近世になると、新潟や庄内、出羽三山などへ向かう街道が交差する陸上交通の要衝となり最上川舟運開通によって物資の集積地・商業地として栄えました。

近代には長井軽便鉄道が開通し、宮村と小出村の中間である境町に長井駅が設置され、一つの町場となりました。

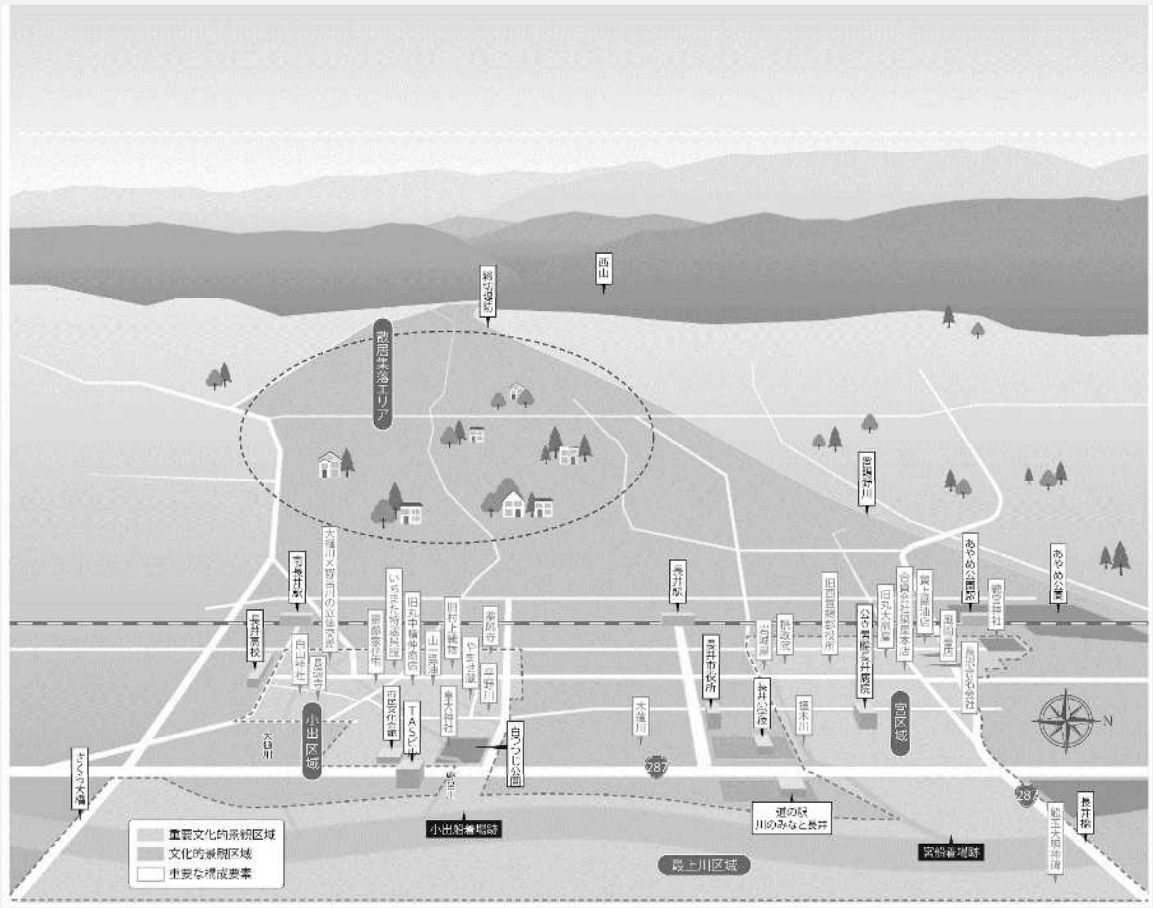
それぞれの時代で発展してきた長井の町場には、その時代の様子を今に伝える多彩な建造物が残っています。

5 町場の発展



町場の発展を今に伝えるのは、江戸時代から続く通り沿いに並ぶ商家群です。質素倹約を重んじた時代にあり、きらびやかなものは数少ないものの、堅強なクリやケヤキの木材や上等な高畠石など、贅沢な材を使い建てられた店や蔵が舟運時代の繁栄を今に伝えています。

そして、江戸時代から引き継ぐ、通りに面して店～母屋～蔵など奥行きのある敷地に水を引く土地利用の形を今も見ることができます。



6 未来へどう伝える？

「文化的景観」とは、「自然」に「人」が関与し形作られた景観です。時代ごとに様々な要素が縦糸と横糸となって折り重なり、現代の私たちが暮らす長井の町場が作られてきました。これまでの長井の町がそうであったように、まちは時代に合わせて求められる機能が変わり、変化していきます。この景観を未来に引き継いでいくために、どう保存し活用していくのかが問われています。

7 文化的景観における重要な構成要素

No.	名　称	名　称	備　考	No.	名　称	名　称	備　考
1	河川	最上川	一級河川	24	橋梁	長井橋	国道
2		新町川	準用河川	25		さくら大橋	県道
3		撞木川	準用河川	26		撞木橋	主要地方道
4		木蓮川	準用河川	27	宮のまちなみ	屋城町地区・舟場地区・栄町地区・高野町地区・大町地区・十日町地区・新町地区・横町地区	8 地区
5		平野川	準用河川	28	小出のまちなみ	館町北地区・四ツ谷地区・あら町地区・神明町地区・片田町・本町南地区・東町地区	7 地区
6		花作川	準用河川	29	建造物	總宮神社	
7		大樋川	準用河川	30		摂取院	
8		野呂川	準用河川	31		貿上醤油店	
9		本町川	準用河川	32		旧西置賜郡役所	
10	道路	国道 287 号線	国道	33		旧丸大扇屋	
11		寺泉舟場線	一般県道	34		風間書店	
12		長井大江線	主要地方道	35		長沼合名会社	
13		久保桜線	一般県道	36		合資会社鍋屋本店	
14		西裏線	市道	37		岩城屋	
15		館町線	市道	38		長遠寺	
16		本町西３号線	市道	39		薬師寺	
17		堀切粡町線	市道	40		白山神社	
18		大町船場線	市道	41		皇大神社	
19		花作平山線	市道	42		やませ蔵	
20		船場清水町線	市道	43		山一醤油	
21		片田神明町線	市道	44		旧丸中横仲商店	
22		遍照寺前線	市道	45		旧村上織物	
23		東裏線	市道	46		特選呉服いちまた	

第四章

ながいの歴史

長井盆地は西高東低、南開北閉の地形で人々が住みやすく、古代から現代まで豊かな暮らしが営まれてきました。縄文時代には、古代の丘周辺や最上川の流域に、人々が住みついて集団生活をしていました。平安時代には、坂上田村麻呂とお玉の悲話や卵の花姫の悲恋物語があり、中世には長井氏と伊達氏との戦い、あの片倉小十郎で有名な片倉一族の活躍などがありました。

最上戦争での畑谷、長谷堂の戦いでは、直江兼続がこの長井の地（伊佐沢）を通り、御楯稲荷神社で勝利を祈願しながら戦場に向かっています。江戸時代に入り商品経済が進むと、上方との取引が盛んになり、米沢藩の代表的な川港として宮船場が開設されました。江戸時代の末には長井は最上川舟運の影響もあって、藩内で有数の商業の町といわれるまで伸びていきます。明治になると、中央集権的な枠組みの中で郡制が布かれ、西置賜郡役所が置かれたため、長井は西置賜の経済、行政の中心の町としてその役割を担っていきます。産業面では繊維、電気産業の町として、県下でも工業生産高の多いまちとして知られていくようになります。昭和29年に長井町、長井村、西根村、平野村、豊田村、伊佐沢村の1町5ヵ村が合併して新しい長井市が誕生しました。令和6年には、その市制施行から70周年を迎えており、益々の発展が期待されています。



【昭和30年代 中央商店街のにぎわい】

1 原始・古代

西暦	紀元前	1	2	3	4	5	6	7世紀	8世紀	9	10	11世紀	12
長井（置賜）の出来事	四千百年前 四本柱が建てられる（長者屋敷遺跡） 三千百年前 高畠町押出遺跡で漆ぬりの土器 二千数年前 長者屋敷遺跡で杉久保型ナイフが使われる				四世紀 南陽市稲荷森古墳が築造 四世紀前半 川西町天神森古墳が築造			七世紀後半 陸奥国優嗜曇郡（置賜地方）に含まれる	七一二 出羽国が成立 八～九世紀 長井盆地の南部および最上川上流の白川以北一帯で集落が発達。（長井郷と想定される）			一〇八三～後三年の合戦（～一〇八七） 一二世紀前期 奥州では安倍貞任の伝承が多く残される 一〇五一～前九年の合戦（～一〇六二）	
全国の出来事				二三九 邪馬台国卑弥呼が魏に使いを送る			五九三 聖徳太子が摂政となる	六四五 大化の改新	七〇一 大宝律令制定 七一〇 平城京に遷都 七九四 平安京に遷都 七九七 坂上田村麻呂が征夷大将軍に任命される	八六六 藤原良房が摂政になる	九三五 平将門の乱	一〇一六 藤原道長が摂政になる 一〇六九 後三条天皇が荘園整理令を出す	一一八五 壇の浦平氏滅亡 一一六七 平清盛が太政大臣になる
時代	旧石器時代	縄文時代		弥生時代	古墳・飛鳥時代				奈良時代	平安時代			

1 原始時代

三方を山地に囲まれ大小河川が発達した長井盆地は、古くから人々の生活の場となってきました。当時は狩猟・採集の時代で、クリやクルミ、トチなどの堅果類をはじめ、シカやイノシシ、魚や山菜などを食料としていました。特にトチの実は手軽に大量に採集され、アクを抜き粉状にすることで保存ができる食べ物でした。これとは別に、秋に遡上するサケも縄文人にとって貴重な食料となりました。干物や燻製などに加工され、冬季間の保存食として必要不可欠な食べ物でした。

市の中央、十日町郵便局の所からも住居跡や縄文土器が多数発掘されました。（宮遺跡）ここは、最上川と野川と東山に近く豊かな食糧に恵まれ、集落ができたと思われます。

2 古代

古墳時代も後半になると、長井市域でも古墳が造られるようになります。古墳の造営は地域リーダーに与えられた特権で、大きさや形態は中央勢力との結びつきを示すもので、長井盆地も飛鳥地方の影響下にあったと考えられます。

その後、畿内を中心に天皇を頂点とする中央集権国家が確立します。中央勢力は7世紀末に置賜盆地に入ってきます。長井市域では9世紀代の塩ノ上遺跡（平山地区）や台遺跡（中央地区）が当時の役所的機能をもった遺跡と考えられています。

3 長井の遺跡

●縄文時代

長井市内では、現在230ヵ所の遺跡が見つかっており、旧石器時代から近世までの時代に分類されます。発掘調査が行われた遺跡として、西根地区の長者屋敷遺跡があります。西山山麓に所在し、旧石器、縄文、弥生時代の土器や石器が出土し、中でも縄文時代中期（約4,000年前）のムラの跡が発見されました。住居跡は半地下式の竪穴住居で、中央部の広場を囲むように環状に配置されていました。特徴的な施設跡は4本柱跡があり、季節の節目となる春、秋分の時期に朝日を望むと、柱列の中央部から日の出が観察できます。

●古代

市街地中央部の台遺跡で、平安時代（約1200年前）の集落跡が発見され、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、河跡、柱列跡などが検出されました。柱列跡は長さ30mにおよび、塀で囲まれた施設跡と推定されます。

また、須恵器とよばれる土器底には「市」、「生」、「吉」という文字が墨書きされ、仏教に関わる祭祀が執り行われていたと推測されます。したがって、台遺跡は長井郷の中心的な役割を担った遺跡のひとつと推定されます。

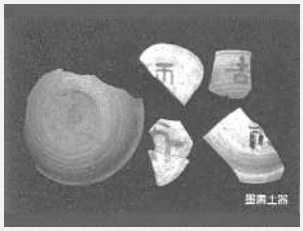


↑4本柱を復元、秋分の時期の日の出を望む（長者屋敷遺跡）



←復元された竪穴住居（長者屋敷遺跡）

↓墨書きされた須恵器（台遺跡）





←発掘された建物跡（台遺跡）

2 中世

1 中世の長井

(1)古代の終わりから、中世のはじまり

平安時代、長井は出羽国置賜郡に属し、古代の郡から荘園まで入り込んでいました。置賜郡は成島荘、北条荘、屋代荘などに分かれ、残るところが公領置賜郡となっていました。鎌倉時代になると、置賜一円を長井荘とよんだり、上長井荘、下長井荘と、わけることもありました。

10世紀になり、東北地方を支配するために中央から役人が送られてきますが、それには関東地方の名族ある平氏、藤原氏、源氏らが任命されました。これに対して、在地の豪族である安倍頼良(あべのよりよし)が反乱を起こして税を納めなかったので、京都にある朝廷側は源頼義(みなもとのよりよし)、義家を派遣して鎮圧しました。

これが「前九年の合戦」です。11世紀末には「後三年の合戦」も起こりました。

合戦がおさまると、藤原清衡が平泉に、政庁や中尊寺で構成される中世都市を構築し、長く繁栄をほこりました。

(2)平泉藤原氏の滅亡(古代の終わり)と鎌倉幕府

平家を倒して勢力を強めた源頼朝(みなもとのよりとも)でしたが、政権の基盤を強固にするためには、奥州藤原氏を打倒する必要がありました。四代目泰衡(やすひら)の時代になると、鎌倉の圧力に屈して義経の館を焼いてしまいました。その後、建久3年(1192)、源頼朝は征夷大将軍に任命されました。

奥羽合戦に勝利した頼朝は、論功行賞(ろんこうこうしょう)を行い、関東御家人に新しい領地を与えました。長井を含む置賜地方には、大江氏が地頭として選ばれ、長期にわたり支配していきます。この長井時代のものとして五十川西館の大日板碑(だいにちいたび)(県指定文化財)や飯沢文書(県指定文化財)などが伝わっています。



西暦	12世紀	13世紀	14世紀	15世紀	16世紀
長井の出来事	一二八　長井氏の時代		一三九六　鮎貝成宗鮎貝城完成 一三八〇　宗遠　置賜各豪族に安堵状を出す 以後伊達氏の時代 一三五六　飯沢文書記される(県指定文化財) 一三三七　長井庄地頭、長井貞頼北朝より出羽守に任命 一三一八　馬頭観音堂再建 前長門守春朝	一四七一　下長井遍照寺僧宥日入寂す 一四三六　僧宥日、宮村遍照寺を中興す	一五八七　政宗　鮎貝城を焼討 一五八四　小出村白山権現社再建
全国の出来事	一一八九　奥州平泉藤原氏滅ぶ	一一九二　源頼朝　征夷大将軍に任命される 一二二一　承久の乱 一二五五　僧徒の兵杖禁止令 一二八一　弘安の役　文永の役　蒙古襲来 一二九九　幕府徳政令発布以後頻発	一三三三　室町幕府京都に開く 一三三三　鎌倉幕府滅亡　建武中興 一三三一　元弘の乱 一三四九　足利基氏関東管領 一三六〇　幕府と関東管領　対立 一三九七　足利義満　金閣寺建立 一三九二　南北朝統一	一四六七　応仁の乱(～七七)	一五八六　秀吉　太政大臣となる 一五八五　豊臣秀吉　惣無事令 一五八二　本能寺の変 一五七八　足利幕府滅亡 一五六〇　織田信長桶狭間の戦い 一五四〇　天文の乱(～四八)
時代	鎌倉時代		室町時代		

(3) 中世の争乱

天授6年(1380)頃、福島に勢力を持っていた伊達宗遠が置賜地方に侵攻し、長井氏は置賜を放棄しました。大永2年(1522)に伊達稙宗は室町幕府から陸奥国守護に任命され、さらに、稙宗は天文元年(1532)に居城を置賜に直結する桑折に移し、七ヶ宿街道を通った長井地方を狙いました。天文11年(1542)には、稙宗と晴宗親子による争い「天文の乱」が起こりました。このとき、野川周辺も戦場となりました。

天文の乱では、長井地方の農民も両派に分かれ、7年間にわたる戦をくりひろげました。両派は和睦し、稙宗は隠居、晴宗は家督を継ぎ米沢城を本拠としました。永禄10年(1567)、伊達家17代政宗が米沢で生まれ、その重臣として片倉小十郎が登場してきます。

天正18年(1590)、豊臣秀吉の小田原攻めに政宗は遅れて参陣し、秀吉にくだりました。同年に「奥州仕置」が行われ、伊達政宗は岩出沢城(後の岩出山城)に転封になり、蒲生氏郷が米沢に入ってきました。こうして秀吉による全国統一が成され、長く続いた戦乱は終わりました。

平成7年の県の中世城館址調査で、長井市内には46ヵ所の館跡が報告されていますが、こうした激しい戦いのあとを物語るものといえます。

2　長井氏の時代

(1) 鎌倉時代の長井氏

文治5年(1189)、奥州合戦で功績のあった大江広元の次男時広は、長井荘(現在の置賜地方)の地頭になり、長井氏と名乗りました。おなじく、藤原朝宗の子も軍功によって伊達郡に移り、伊達氏と称するようになりました。

長井氏は代々幕府の中枢にあり、引付衆や評定衆を担当していました。置賜で地頭となった長井氏は宮内の熊野宮、成島八幡などを修復し、屋代の資福寺を建立しました。

(2) 大江氏と長井氏について

建暦3年(1213)、「和田氏の乱」を鎮圧した北条氏は所領を全国に拡大し、幕政を強化していきました。この和田氏の乱での功績により、大江広元には横山荘(八王子市)が与えられ、所領は武蔵、相模、備前、備後、出羽の5ヵ国となりました。大江総領家は横山荘で、長男の親広の知行地は出羽、寒河江荘で分領です。

(3) 鎌倉幕府滅亡と南北朝時代の長井氏

大江総領家の領地は、戦乱の中で敗れたため、長井氏に譲られました。3代の時秀のときです。その家臣、大須賀長任は小出に居館を築き、「新館」といわれ、館町の起源となりました。

鎌倉幕府滅亡で6代広秀と一族は足利尊氏の側近として仕えました。一方、伊達氏は長く南朝方の北畠顕家一族の最有力武将であり、関東地方まで出陣し、南朝方の回復に尽力しました。

(4) 長井氏の終焉

貞和4年(1348)の成島八幡宮の棟札に、「幕府引付衆長井時春」の名が記されていますが、これが長井荘の地頭として最後のものです。

長井道広は大江長井氏の系図にはありませんが、一説によると、道広は評定衆筆頭の要職で八王子の片倉城の建設、名刹広園寺の開基などに努めたそうです。

長井氏は、武蔵の横山荘(八王子市)を中心に武蔵、相模で勢力を持っていましたが、関東公方の内紛により、永正元年(1504)に滅亡しました。

■ 長井氏と繋がる毛利家

大江広元の四男季光は、大江総領家を継ぎ、関東評定衆であり、相模毛利荘(厚木市)地頭でもありました。北条時頼に抵抗した三浦氏と一緒に自刃し、三浦氏とともに滅びます。季光の子孫は長井氏に養われました。長井氏の本拠である片倉城落城のとき、大江師親(後の毛利元春)は、安芸に逃れ、地頭の地位を固め長州毛利家となりました。

大江家と長井氏と毛利氏の家紋「一文字三つ星」は大江広元が決めたと伝えられています。

■ 長井氏の文化

長井氏は、武人と行政家に人材を多く育てました。4代宗秀や6代広英、8代広房の短歌は勅撰集に3名で120首も載っています。当代一流の歌人でした。その後の私撰集にも、一門の和歌が収められています。宗秀と5代貞秀は蔵書家として知られ、長井文庫は中世の学術振興に役立ち、金沢文庫とともに宮内庁書陵部に保存されています。中国から伝来の茶の湯を、将軍家や貴族だけから、武士に普及させたのも長井氏です。

3 大須賀氏の一族

鎌倉時代、大江時広が長井荘の総地頭に任じられましたが、長井氏の小出村の地頭には大須賀長光という人物がが命じられたと言い伝えられています。大須賀氏の出身は利根川下流の大須賀郷です。

長井の居館は、新館といわれました。東西112m南北70m約1ha、長方形の屋敷で、その外側に幅6mの館堀を作り、内側にその土を盛り上げ土塁とした環濠武家屋敷です。また、館内には長遠寺と白山宮を勧請し、白山神社を建立しました。

大須賀氏の役割は、村の政治と税の取り立てでしたが、館の中に田や畑、小作人の家もありまわりに家が建ち、小出村の発祥の地となりました。長光は文永3年(1266)に46歳で死去しています。その子孫は、出家し、領地が長井氏から伊達氏に代わってからも、寺にこもり伊達氏には仕えず、長井の地で長く暮らしていました。

4 長井氏に仕えた新田遠江守

新田遠江守は、平泉藤原氏の庶流の子孫であり、米沢の舘山城主で長井氏に仕えた豪族です。伊達宗遠に謀殺され、歌丸の金鐘寺に多層塔の墓があります。



5 伊達氏の時代

(1) 伊達氏系図

①朝宗・・・⑧宗遠　ー　⑨政宗(儀山) ー
⑩氏宗　ー　⑪持宗　ー　⑫成宗　ー
⑬尚宗　ー　⑭稙宗　ー　⑮晴宗　ー
⑯輝宗　ー　⑰政宗(貞山)　ー　⑱忠宗・・・

(2) 伊達氏の置賜支配

天授6年(1380)、伊達宗遠が置賜地方を侵略しました。当時、置賜地方は長井氏の支配でしたが、現地を代官に任せて、警戒が手薄でしたので、伊達氏から狙われることになりました。宗遠の代には屋代、米沢、南陽を掌握します。その後、9代政宗のときに、長井氏を破り置賜全体を支配しました。

(3) 伊達領国の展開

宗遠の父行宗は南朝方(宮方)の武将で、長井氏は北朝方(武家方)でした。南北朝、両派のもみ合いが続く中で、置賜地方では南朝方の伊達氏が長井氏に勝り、力を伸ばしていきます。片倉氏や萩生の国分氏などの土豪も、伊達氏に近づいていきました。

11代持宗のときに、白鷹町高玉の瑞龍院を開いたという記録もあり、15世紀初頭までには伊達、信夫とともに、長井地域も伊達領国の中核になっていきました。

(4)天文の乱　稙宗と晴宗

稙宗と晴宗の親子の争いは、伊達家中ばかりでなく奥州中、南部を巻き込んだ騒乱でした。ことの発端は、稙宗の三男時宗丸の越後上杉家への養子問題です。天文11年(1542)から7年間、両派入り乱れて争いました。このとき、長井市域も戦場となり、特に野川下流域での戦いは激しいものでした。この争乱で勝利した晴宗は置賜地方の武士たちを伊達家家臣団として取り組むと同時に、米沢城を建設し、本拠地としていきました。

6　伊達政宗(貞山)



天正12年(1584)、伊達家の相続内紛があり、輝宗は18歳の政宗に家督を相続させ、隠居しました。以後、小手森城合戦、人取橋の合戦から始まり、父輝宗の仇討ちである二本松城攻撃と続けました。

天正17年(1589)には、秀吉と仲の良かった蘆名氏を攻め滅ぼした後（摺上原の戦い）、周辺の大名と天正18年(1590)まで合戦を続けていました。

秀吉の「惣無事令」(大名間の戦闘を中止する令)に背き、合戦を続けたこともあって、小田原参陣で安堵された置賜から陸奥国玉造郡(現在の宮城県大崎市岩出山)に移封されました。

7　片倉小十郎とその一族

(1)片倉家の由来

片倉家の名が初めて出てくる資料は、永正6年(1509)の13代伊達尚宗が出した出陣要請の回状です。これには、片倉右京の名前が出てきますが、すでにこの地方の有力豪族でした。

(2)梵天丸と喜多と小十郎景綱

羽州米沢八幡の神主である片倉式部景重は、直子と再婚し、弘治3年(1557)、男児を出産し「小十郎」と名付けます。母の舅に、飯田小十郎という武の誉れ高い人物がいましたが、彼を慕い、以後、片倉家は代々小十郎と号しました。

平成25年白石市教育委員会編集の「片倉代々記」に、「弘治3年(1557)羽州置賜郡下長井荘宮村で生まれる」とあります。晴宗公采地下賜録によると、片倉式部は黒沢と小松に領地を与えられています。片倉家系図には、片倉式部少輔景重、羽州置賜郡屋代荘八幡宮神職領百貫とあります。

小十郎には、18歳年上の姉、喜多がいます。美しく聡明で、祖父鬼庭元直に愛されて学問と武芸を仕込まれました。梵天丸(政宗の幼名)が生まれると乳母(教育係)になり、後に、政宗に嫁いだ田村家の愛姫の侍女となりました。

小十郎は、9歳の天正3年(1575)のとき、梵天丸の傅役(指導役)に任じられ、姉の喜多とともに教育にあたり、政宗が成人しても、ともに側で仕えました。

梵天丸は幼児の頃、疱瘡の毒で右目を失明し、右目の肉が腫れ上がって目じりの外に出たのを、小十郎がいっきに切り取りました。鬱屈していた梵天丸は、目の荒療治で明るい性格を取りもどし、まわりの人々は、小十郎にいっそう信頼を寄せたといわれています。

(3)片倉壱岐守景親

天正2年(1574)頃、伊達輝宗のときの史料『普段帳』に「壱岐守の軍勢は馬上72、鉄砲23、弓72、鑓250」とあり、置賜地方の伊達家家臣の中でもトップクラスの動員兵力を有していました。壱岐守は晴宗から政宗の3代に仕え、軍奉行を務め、後に意休斉と称しました。

晴宗公采地下賜録には、片倉壱岐守に天正11年6月までの知行の通りと、宮村の支配を認め、片倉伊賀守は下長井成島などが知行されたとあります。

片倉家系図では、景親の子頼久と小十郎景綱が縁組をして、片倉総領家を継いでいます。壱岐守は、税を免除された片倉館主です。

(4)政宗と景綱

天正5年(1577)、政宗が元服しますが、そのとき、小十郎景綱は剃刀役を務めます。景綱は、天正12年(1584)から下長井で奉行を務めています。同年、羽州置賜郡下長井荘宮村片倉館で子どもが生まれ、彼が2代目小十郎重綱(のちの重長)となりました。

天正14年(1586)、景綱は大森城主(現在の福島市)を命ぜられました。片倉代々記には「羽州長井荘片倉館より奥州大森城に移る」とあります。

政宗は小田原で本領を安堵されましたが、天正19年(1591)長井、米沢など父祖伝来の置賜地方の領地が没収になり、大崎の領地が与えられ岩出山に移されました。景綱も5年間務めた大森城を後に、与えられた亘理城に移りました。

(5)小十郎景綱の死

江戸時代になり、伊達政宗は仙台に城を築き、片倉小十郎景綱は白石城主となって、1万8千石を給されました。徳川家康は景綱を陪臣ながら、大名と同じ扱いにし、一国一城令の中、伊達家だけは仙台と白石の二つの城が認められました。

景綱は元和元年(1615)、59歳で亡くなりました。遺言によって墓地には杉が一本植えられ、景綱の雅号「傑山」にちなむ、常英山傑山寺(臨済宗、白石市)に葬られました。杉は巨木となり、傑山寺の墓所にそびえています。

(6)その後の片倉家

2代目片倉小十郎重長は、豊臣家が滅亡する慶長19年(1614)の大坂夏の陣に参戦し、真田幸村勢と戦い武功をあげました。

この戦いの中で、幸村の一人の息子と四人の娘を助け、白石に匿いました。長女の阿梅は、後に、重長の後妻になり、養子を迎え、3代目小十郎景長

8 桑島将監の一族

桑島将監は、伊達政宗の家臣で、伊佐沢周辺を治めていました。上伊佐沢の館久保内には、現在も館堀跡が残っています。

小松蔵人はあら町の商人代表と思われます。将監は、伊達氏から派遣された町奉行的な役割をもった人物と考えられます。

また、伊達氏は金と馬を都へ運び驚かせていますが、その馬の世話をしたりしたのが桑島家でした。

将監は、妻のお玉と息子の供養のため、菩提寺玉林寺を創建し、遺品を埋めて桜の木を植えました。それが成長して、現在の久保ザクラになったともいわれています。

玉林寺は、永禄12年(1569)に建立されましたが、お玉の戒名「当本開基如意院殿玉林妙江大姉」の字をもらい、寺の名前としました。伊達家の岩出山への移封には従わず、出家して高野山へ向かいました。

桑島氏と馬のかかわりに関する資料は山形県史でも紹介されており、桑島氏の花押は馬の横顔に似ていることでも知られています。



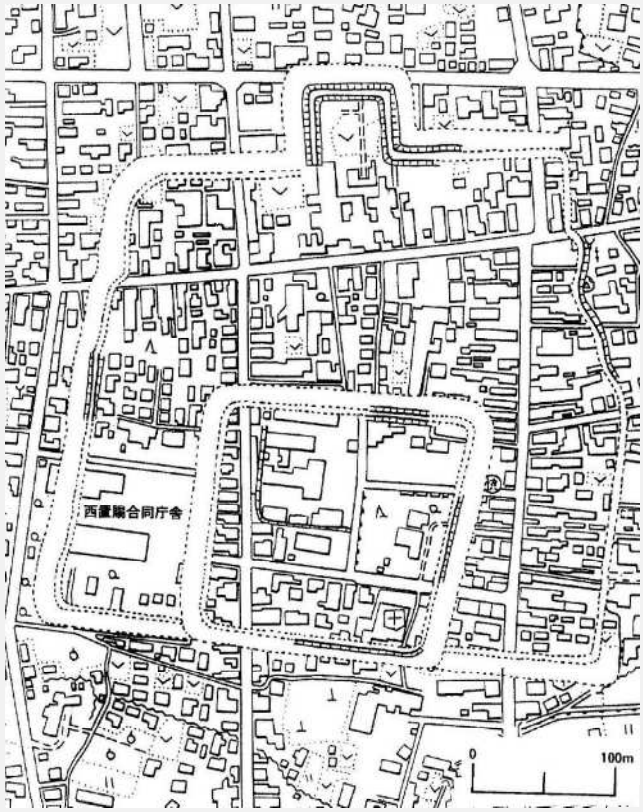
【菩提寺玉林寺】

9 中世の城館跡

長井市内には、戦国期の城館跡が54ヵ所確認されています。これらは、平地に築かれた館跡（たてあと）と、山頂部につくられた山城跡（やましろあと）や砦跡（とりであと）に分けられ、日常は平地の館で生活し、戦が始まると山城や砦に移り住み、戦いに備えたといわれています。現代に伝わる土手状の高まりや堀跡、「館」という小字名は、平地に築かれた館跡の名残です。

また、山頂付近に構築された階段状の平場や、尾根を立ち切るような溝跡は、山城の施設の一部です。十日町、大町、高野町地区にまたがる宮村館は、旧郡役所跡を中心に約400m四方が館の範囲と推定され、つい最近まで、県道寺泉舟場線沿いに宮村館にともなう土塁と堀跡が残っていました。旧宮村は、この館跡を核として町並みが形成されてきました。

館町に所在する白山館は、白山神社と長遠寺を中心に、約100m四方が館の範囲と推定されています。白山神社の南西部から西側に伸びる高台は、当時の土塁跡で、西側には堀跡が残っていました。旧小出村は、白山館を核に門前町が形成され、町並みが形成されてきたといわれています。



【宮村館の縄張図】


【宮村館土塁（北西部）】


【白山館の土塁（西側）】


【白山館の土塁（南西側）】

3 近世

1 近世の長井

慶長5年(1600)、関ヶ原の戦いで上杉景勝は西軍へ味方し、最上義光を攻撃したために、戦後、徳川家康は、景勝より会津90万石を没収し、30万石に減封しました。これにより、景勝は米沢に入り、初代藩主となりました。このため、藩は財政上大変な危機に陥りました。ここで、直江兼続などの諸将は、まず領内諸制度の改革を行ないました。2代定勝は土地開拓と検地、キリシタンの禁制に力を注ぎました。

こうして、藩がようやく体制を整え、経済も安定を見ようとするとき、3代綱勝が急逝しました。綱勝はまだ若く、跡継ぎがなかったので、上杉家はお家断絶、藩のお取りつぶしの危機に直面しました。家臣たちは、綱勝の義父にあたる保科正之(第三代将軍徳川家光の弟)を頼りました。その力添えもあり、吉良家から養子を迎えるということで、15万石に削られただけで済みました。しかし、これによって米沢藩はますます困窮し、9代藩主治憲（鷹山）は大胆な藩政改革を行いました。



【上杉鷹山公】

斉憲は斉定の跡を継ぎ、天保10年(1839)から明治維新に至るまでの約30年間、幕末時代の藩主でした。その時代は、近代日本の脱皮を図るべく、どの藩も必死にもがいていたときでした。そうしたなかで、米沢藩は奥州諸藩の盟主の地位にありました。しかし、天下の体制はどうにもならず、徳川幕府は、慶応3年(1867)10月に大政奉還、12月に王政復古の大号令となったので、藩主茂憲もついに、明治3年(1870)6月に版籍奉還を決意しました。ここで、米沢藩は初代景勝の慶長3年(1598)の米沢入部以来、13代茂憲まで272年の永きにわたる置賜支配に終止符をうちました。この間、長井は最上川舟運の川港として商業などの産業が起こり、藩内有数の在郷町として発展していきます。

西暦	16世紀										17世紀										18世紀									
長井の出来事	一五九一 伊達政宗、岩出山に移封代わって蒲生氏が治める	一五九八 蒲生氏郷、長井郷の神社を合併して總宮大明神とすることを命ずる	一五九九 蒲生氏、宇都宮に国替	一五九九 朝日軍道がつくられる 草岡村源右衛門に山番所監督を命じ、草岡村より鶴岡に至る	一六〇〇 慶長出羽合戦 直江兼続、最上軍を攻撃して長谷堂まで進撃する。勧進代、寺泉、宮、伊佐沢の土豪等従軍						一六一四 草岡村の肝煎である青木新左衛門が減税を訴え処刑される	一六五一 小出村、宮村に馬市が始まる	一六五五 小出村に御蔵が建つ	一六八九 小出村に御筒屋をつくり漆ろうをつくる	一六九四 西村久左衛門が最上川（黒滝）を開削	一六九四 宮船場ができる	一七〇二 馬頭観音堂大破につき再興	一七一五 米沢で富豪の家の打壊し	一七一七 野川の締切堤防破れ、大洪水、死者あり	一七一八 小出横沢四郎兵衛、川崎次郎右衛門ら六人を絹糸真綿問屋に指定する								
全国の出来事	一五九〇 豊臣秀吉 全国を統一				一六〇〇 関ヶ原の戦い						一六〇三 徳川幕府の成立	一六三五 参勤交代始まる	一六六四 米沢藩が三十万石から十五万石に減封							一七一六 徳川吉宗将軍となる	一七一六 享保の改革								
時代	安土桃山時代										江戸時代																			

2 蒲生氏による統治

伊達氏の後に、置賜に入ってきたのが蒲生氏郷です。天正18年(1590)、豊臣秀吉の天下統一が成ると、奥州仕置があり、東北の藩の組み替えが行われます。氏郷は秀吉の有力な家臣で、その後の戦でたびたびの大功をたてていたので、氏郷には、陸奥出羽の抑え役として、会津、仙道、置賜など73万石が与えられます。小田原参陣に遅れた伊達政宗は、会津、米沢などを没収され、岩出山地方に移されます。政宗の旧領伊達、信夫、長井の3郡は氏郷に加増され、米沢3万8千石は氏郷の家臣郷安に与えられます。蒲生氏は、すぐに領内の検地を実施し、神社の合併などを進めました。

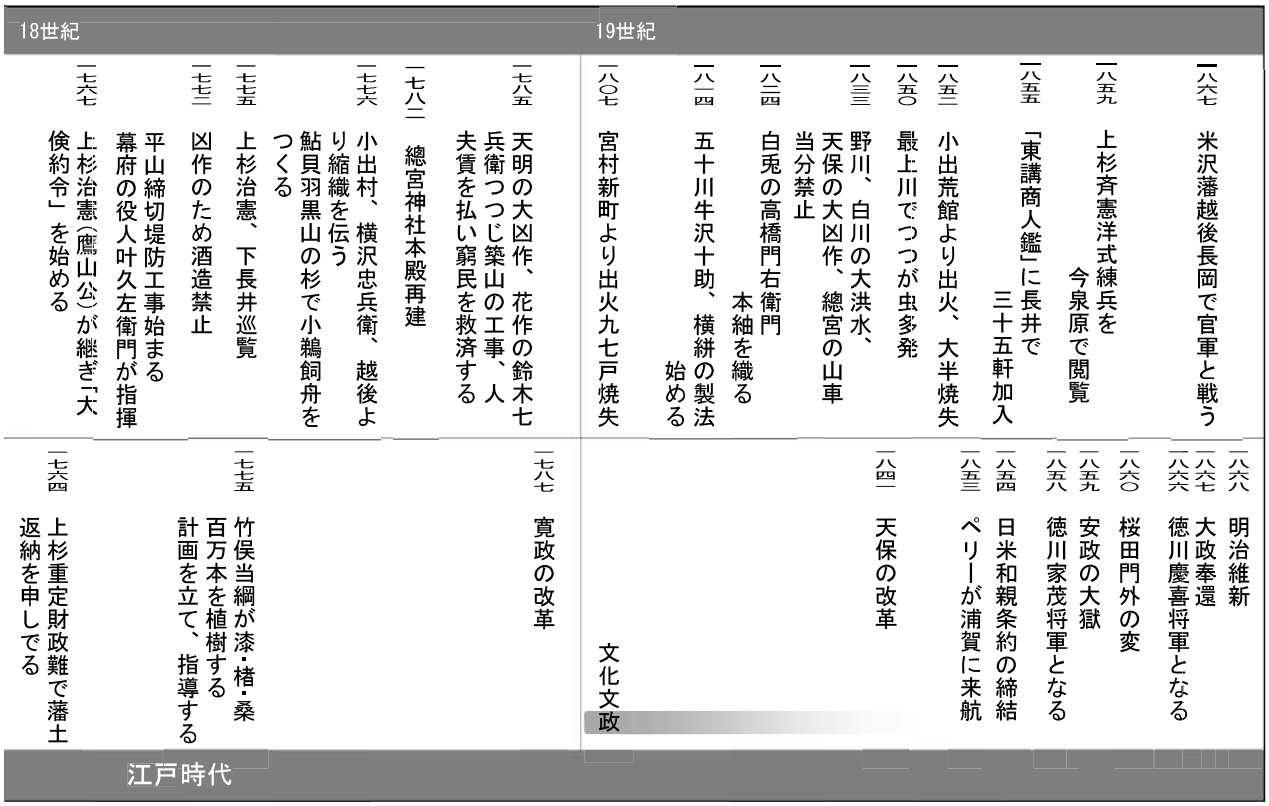
文禄4年(1595)、氏郷は京都で没し、嫡子秀行が13歳で家督を相続します。しかし、慶長2年(1597)に内紛が起き、秀行に統治能力がないとみた秀吉は、翌3年(1598)正月、秀行を宇都宮に移封します。こうして、蒲生氏の置賜領有はわずか8年間でした。その後、上杉時代が始まります。

3 直江兼続による統治

上杉謙信の後を継いだ上杉景勝は、慶長3年(1598)に越後より会津、米沢など120万石に加増されますが、このとき、長井(置賜郡)30万石は、秀吉の指名で直江兼続に与えられました。

兼続は、最上軍との戦に備えるため、すぐに置賜と庄内の連絡路として、長井草岡～葉山～朝日岳～以東岳～庄内を結ぶ軍用道路づくりにとりかかりました。この大工事には、長井の農民や修験者（山伏）、山人らを総動員して、短期間でつくりました。これは、地元の人たちが日ごろ使用している道を改修したものでした。上杉方の武将で、酒田城を守っていた志駄義秀は、多くの将兵を連れて雪の朝日軍道を通って米沢に撤退しました。その道の完成後、上杉軍と最上軍が畑谷や長谷堂で激しい戦いを繰り広げますが、そのときには、長井から数百人が援軍としてかり出されました。その戦いの戦勝を祈願して總宮神社にお参りしたといわれています。

兼続は、農業の振興にも力を注ぎましたが、とくに、織物の材料となる「青苧」（麻織物の原料）を植えつけさせました。これは後に、長井地方の特産物になっていきます。直江兼続は、幼名を樋口与六といいました。その樋口家から直江家に婿入りしたのですが、兼続の実家の子孫は、越後から移って現在、飯豊町に住んでいます。



4 上杉による統治

関ヶ原の戦いで西軍に味方した上杉景勝は、120万石から30万石に減封されました。120万石を支えていた6,000人を超える家臣団が、すべて会津から米沢に入城したので、市内は相当の混乱になりました。「義を重んじる謙信の精神」が上杉家には代々受け継がれ、この教えから、一人も放免しなかったといわれています。

しかし、家臣の知行(給与)は減らさざるを得なかったので、生活は困り、内職や村に出て開拓などをしました。長井でも勧進代新地などで、新田開発を行い、生計をたてていきます。

30万石に減封されて約60年間が経ち、藩の体制も安定しかけたとき、後継ぎ問題があり15万石に減らされてしまいました。

米沢藩は、江戸時代中期を過ぎると借金が膨らみ、どうにもならなくなってしまいました。借金は10万両で、藩の年収の4年分にもなりました。その原因は、人件費の増加、藩主のぜいたくな支出、幕府の工事の肩代わりなどです。ここで、9代藩主上杉鷹山(治憲)はこの借金を返済するために財政改革に乗り出します。上杉鷹山は第9代の上杉治憲(はるのり)です。当時、貧乏のどん底にあった藩財政に大胆なメスを入れて、立て直していった人物です。改革は「大倹令」から始まります。衣食住や娯楽などに、細かい決まりをつくり、質素倹約させていきました。鷹山の食事は一汁一菜、着物は木綿など、自ら範を示しています。

また、諸産業の振興ということで、米作の副業として漆(うるし)、桑(くわ)、楮(こうぞ)の3種目を100万本ずつ植えさせて、増収しようとしました。長井地方でも、この政策は隅々まで浸透していきます。置賜北部では、桑を植えて繭を取る養蚕業の方が活発になります。数年も経たないうちに、この地域の繭の生産は藩全体の70%を占めるまで進展していきました。

また、鷹山は長井に何回も訪れ、とくに成田の佐々木家には5泊もしたといわれています。

安永4年(1775)の「下長井巡覧」では、最上川や野川、白川の河川を視察し、川狩などして楽しんでいます。野川の締切堤防、宮原、平山の開墾も見ています。鷹山の大改革で、なんとか借金を返済できたのは、数十年後になります。



鷹山は「なせば成る　なさねば成らぬ何事も成らぬは人の　なさぬなりけり」という名言を残しています。總宮神社の本殿は、鷹山からいただいた木材で、天明2年(1782)に再建したものです。

江戸後期になると、貨幣経済の発展で世の中はめまぐるしく変化していきます。そのなかで、勢力を伸ばしてくるのが商業で、手広く商いをする商人が出てきます。長井商人は、値段の高値な生糸が一番有利な商品であることを知っていたので、近郷の農家に桑を植えることを要請し、生産した生糸は責任を持って買い上げるというシステムをつくりました。このやり方は順調に進展し、下長井は大養蚕地帯に発展しました。安政2年(1855)に出版された「東講商人鑑(あずまこうあきんどかがみ)」には、長井の商人が35軒も載っています。城下町米沢の37軒に匹敵するので、にぎやかな商業の町だったといえます。長井の最上川舟運で栄えた商人はあら町に多く、川崎八郎右衛門(かわさきはちろうえもん)、竹田五兵衛(たけだごへえ)、川村利兵衛(かわむらりへえ)、斎藤弥助(さいとうやすけ)などが知られていますが、藩からは「お借り上げ」という名目で何回も金を借り上げられています。ちなみに、川崎家からは6,470両借り上げられました。

幕末の戊辰戦争で、米沢藩は仙台藩と共に奥羽越列藩同盟の盟主として、27歳の家老千坂高雅(ちさかたかまさ)を総督にし、越後戦線を中心に戦いますが、敗北し、同盟は事実上終息しました。米沢藩に対する裁断は、藩主斉憲の隠居、茂憲の家督相続、4万石の召し上げという穏便なものでした。

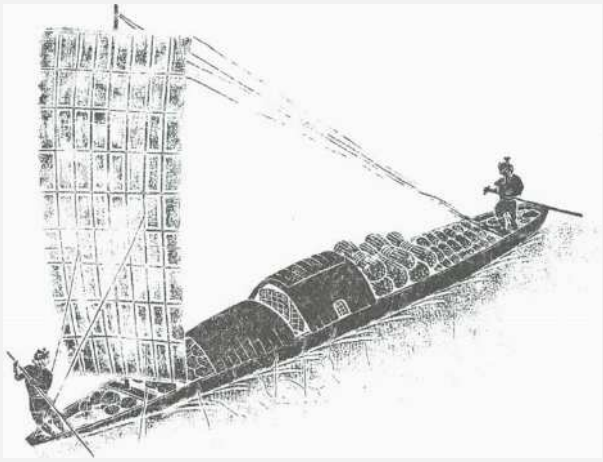
5 最上川の舟運文化

江戸時代、元禄7年(1694)に米沢藩の御用商人、西村久左衛門は、幕府と藩の許可を得て、左沢＝荒砥間の難所黒滝の岩を削りとり、最上川の舟を長井の宮まで通すことに成功しました。総工費は1万7千両といわれ、今のお金に換算すると、約20億円に相当するものでした。

米沢藩では左沢、荒砥、宮、糠野目に船場を設置しました。宮船場は、このときから米沢藩の表玄関となり、米、青苧の収穫が終わった時期には米沢領内の各地から宮へ荷車がにぎやかに往来しました。最上川をさかのぼる帰り舟には、京・大坂・能登の商品が積まれ、長井の町には商店、問屋が続々と建ち、その商品を運ぶ人足でにぎわいました。長井が藩内屈指の商業都市に成長したのは、この頃からです。

最上川通船による置賜地方の利益については、書籍に次のように書かれています。

「松川から最上川への通船は、米、青苧の上方への積み出しのため、黒滝の岩石を取り除いて始まったが、航路は険悪で運送は困難であった。安政元年(1772)に阿武隈川に使われている、小鵜飼舟(こうかいぶね)が急流の航行に適していることに目をつけ、舟大工を頼み、山口村羽黒山の杉を伐って小鵜飼舟をつくり、2万俵を酒田に輸送し、上米を売ったところ、その利益は大変なものであった。米沢は昔から米価が非常に安く、百姓も貧乏な生活に甘んじていたが、最上川舟運が開けてからは、米も下長井の商人たちが小鵜飼舟に積んで自由に売り出したので、自然と米の値段も高くなり、百姓の利益はきわめて大きくなった」



【左沢より上流の最上川舟運の主役を担っていた小鵜飼舟】

黒滝の開削によって、長井の舟場からの荷は海を渡り遠く江戸・大坂まで届くようになり、舟による大量輸送が可能になりました。この輸送ルートに長井、荒砥が加わったことは、画期的な「交通革命」、「流通革命」でした。舟によって長井から運ばれたものは米、豆、青苧、真綿、生糸、蝋で、逆に長井に運ばれたものは塩、古着、綿、小間物、塩魚などでした。

川舟の運行中は危険だったので、船頭やその家族たちは、舟乗りの安全と舟の無事故を願って「舩玉大明神(ふなだまだいみょうじん)」を祀っていました。東山の麓には、その大明神の石碑が2基残っています。



【羽州川通絵図(山形県立博物館所蔵)】

4 近代・現代

1 近代・現代の長井

明治4年(1871)に米沢藩を米沢県と改め、その年の内に置賜県となりました。長井町は置賜郡から西置賜郡に入りましたが、長井町は西置賜郡の中心となり、町には役所、税務署、裁判所などが次々に建てられていきます。

明治11年(1878)、長井町に西置賜郡役所が設置されると、そこにつながるように、道路や橋が整備されていきます。明治22年(1889)に町村合併があり、江戸時代の村が合併して新しく、大きな町村になりました。長井町、長井村、西根村、平野村、豊田村、伊佐沢村が誕生しました。



【「堤塘記念 山形縣 長井町 41.10.17」の記念スタンプ入り絵葉書　】

(旧西置賜郡役所)



【長井線開業時の様子】

大正3年(1914)には、鉄道が長井線として赤湯から長井まで開通します。平成26年（2014）は、その開通からちょうど100年周年という記念すべき年となりました。一本の線路ができると、郡是製糸工場や長井中学校、長井高等女学校などができ、長井は目覚ましく変貌していきます。昭和に入り、大凶作などで困窮した一方、あやめ公園などで市民が楽しみ、繁盛する一面もありました。

昭和17年（1942）に東京芝浦電気長井工場が誘致されると、経済は伸びていきます。昭和29年（1954）には、昭和の町村合併があり、1町5ヵ村が合併して、人口37,429人の新しい長井市ができました。

| 西暦 | 19世紀 | | |

2 産業の移り変わり

江戸時代に宮村や小出村は定期市が開催され、宿屋もあって、在町として地域商業の拠点となりました。明治になってからも養蚕、生糸ブームは続き、製糸業を営む人が続出しました。経済が活気を帯び、西置賜の中心として発展の道を前進しました。

長井紬は、越後から技師を招いて始まっていましたが、竹田清五郎（たけだせいごろう）・斎藤新吉（さいとうしんきち）らはさらに優れた技術を求めて、西方吉太郎（にしかたきちたろう）を新潟から招いて、複雑な紬を織れるまでに発展させていきました。長井紬は、それ以来昭和40年頃まで、長井の重要な特産物でした。



【現代も続く長井紬の機織りの様子】

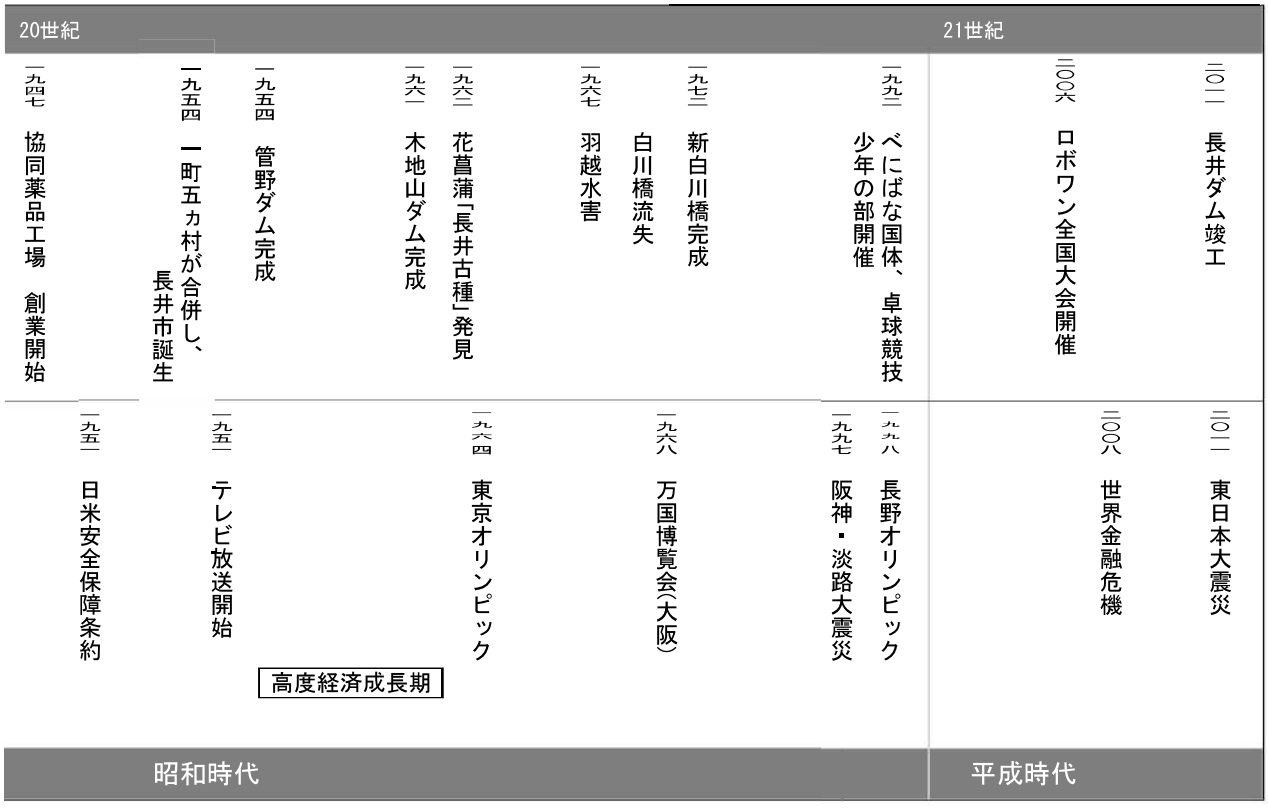


【川舟での稲の運搬の様子】

大正3年（1914）は長井の産業、文化に大きな変化をもたらした「長井の文明開化元年」といわれています。それは、町民が夢に描いていた長井線が開通したからです。このとき以来、長井線は西置賜の人や物資の輸送の大動脈となり、産業の振興発展に偉大な力を発揮しました。

大正9年（1920）には郡是製糸工場、昭和17年（1942）には東京芝浦電気の工場の企業誘致があり、長井の産業は一段と発展していきます。

昭和40年代になると、技術革新が進む中で、長井の工業は、マルコン電子、ハイマン電子、郡是、協同薬品などの大きな企業が発展していきますが、産業構造の変化などにより、苦戦を強いられていきます。



3　昭和と平成

昭和初期の農村不況はひどいもので、収入の半分を地主に小作料として取られる地主制度、昭和9年（1934）を前後とする東北大冷害もあり、生活に困り始めた農家では、娘を金になる工場などに売るという人身売買が話題となりました。

ようやく世の中が落ち着いてきた昭和29年（1954）、「昭和の町村合併」が行われ、長井町（現在の中央地区）、長井村（現在の致芳地区）、西根村、平野村、豊田村、伊佐沢村の1町5ヵ村が合併して長井市が誕生しました。長井市は最上川、野川、白川に囲まれ、農業と商業、工業が一体となった市になりました。

平成26年（2014）は市制施行60周年を迎えて新たなステージの幕がひらき、さまざまな記念行事を展開しました。



【昭和10年　長井駅前の歓迎門】



【昭和40年代初期　長井市駅前通勤通学者の様子】



【平成23年　長井ダム竣工式の様子】

沈滞していた長井に活気をもたらしたのは、長井でのダム工事でした。明治以来の課題であった洪水防止、用水確保、水力発電の総合ダムの建設工事は市民の暮らしに大きく貢献しました。管野ダムが昭和29年（1954）、木地山ダムが昭和36年（1961）、さらに平成23年（2011）には東北でも有数の重力式コンクリートダムの長井ダムが完成しました。

昭和の終わりから平成にかけて、「長井市レインボープラン」が話し合われ、実施されました。このプランは、「地域資源循環型の社会のシステムの構築化を目指すもの」ですが、具体的には生ごみの堆肥化と、それを利用した農作物の地域流通を図るものであり、「台所と農業をつなぐ長井計画」ともいわれています。この計画と実践は市民、行政、農家が一体となり取り組んだこともあり全国でも有名になり、長井には多数の見学者が訪れました。

「環境にやさしく」という長井の人々の願いは、このプランだけでなく、環境問題はダム、発電などにも生かされ注目を浴びています。

平成26年度からは、長井市第5次総合計画がスタートしました。この計画では、「みんなで創るしあわせに暮らせるまち長井～人にぎわい心かよう水のふるさと～」という将来像です。

「みんなで創る」は、市民と行政による協働のまちづくりに、引き続き取り組んでいる姿を表わしています。市民の一人ひとりが努力して、幸せに暮らせるまちにしていきたいものです。

5 寺院・神社

寺　院

1 金剛山 胎蔵院 遍照寺（へんじょうじ）

長井市横町14-8

■宗旨　真言宗豊山派　■中興開山　宥日上人
■本尊　大日如来　■本寺　奈良県長谷寺
■開基　万条清



古来、奥の高野と称され、明治維新前は末寺37ヵ寺を有する格式高い寺でした。

3,000坪を越す大境内には、大門、大本堂、庫裡（くり）、鐘楼（しょうろう）、地蔵堂が整然と建っています。

延亨2年(1745)の宝篋印塔（ほうきょういんとう）と宥日上人による、手植えの大銀杏は名刹のシンボルです。

2 向陽山 法讃寺（ほうさんじ）

長井市四ツ谷 5-8

■宗旨 浄土真宗　■開基 浄西法師(慶長3年頃)
■本尊 阿弥陀如来　■本寺 京都市東本願寺



本町にありましたが、嘉永5年(1852)に類焼し、安政3年(1856)に現在地に再建されました。鐘楼堂（しょうろうどう）を建設したのが9代法潤です。12代豊忠は私立置賜図書館を設立し、一般に貸し出しをしていました。

戦時中、強制的に供出させられた梵鐘（ぼんしょう）は、信徒により復活し、朝晩2回時を告げています。

3 館照山 玉林寺（ぎょくりんじ）

長井市上伊佐沢2916

■宗旨　曹洞宗　■創立　永正元年(1504)
■本尊　釈迦牟尼仏　■本寺　神奈川県海蔵寺



伊達政宗の家臣、桑島将監が、妻お玉と息子の新太郎の供養のため建立し、お玉の戒名「玉林妙江大姉」から玉林寺としました。

4 妙理山 長遠寺

長井市館町北 10-49-12

■宗旨 真言宗豊山派　■開基 西光院殿大須賀長任
■本尊 大日如来　■本寺 奈良県長谷寺



史料がなく詳細は不明ですが、暦仁元年（1238）大須賀長光がここに館を作ったとき、加賀白山の分神と寺を建立したという伝承が残っています。寺は次第に荒廃しましたが、伊達時代に子孫の長任が義昌と名乗って出家し、中興しました。別堂の黒仁王尊には、大草鞋が奉納されており、近年、築山などに十三重石塔と十六羅漢が安置されました。

5 瑠璃光山 薬師寺

長井市あら町 2-1

■宗旨 真言宗豊山派　■創立 鎌倉期以前と推測
■本尊 大日如来・薬師寺如来　■本寺 奈良県長谷寺



創立以来、何度か火災に遭い、寺史は不明ですが、安置する仏像や書籍で推測されています。十指に余る宝物や石碑など文化財が多くあり、薬師堂には本尊と日光、月光など諸仏が祀られ、最近では、位牌堂、本堂、薬師堂玄関の桁に、荘厳な彫刻の四季の絵柄や、長井四季十二飛天曼荼羅の襖絵が備えられました。

6 恵日山 宥日寺 常楽院

長井市栄町10-38

■宗旨 真言宗豊山派　■開基 宥日上人
■本尊 不動明王　■本寺 奈良県長谷寺

室町時代の高僧、宥日上人の閑居寺として七堂伽藍が整えられていました。

大正6年(1917)の長井大火により類焼しましたが、同10年(1921)に宥日堂宇を再建、昭和35年に現在の寺閣になりました。あかざ祭りや火伏せの行事が有名です。

7 三峯山 洞松寺

長井市草岡1367

■宗旨　曹洞宗　■創立　応仁の頃(1470～)
■本尊　釈迦牟尼仏　■本寺　南陽市盛興院

瑞龍院五哲の一人、月窓正印が、南陽市にある盛興院の次に洞松寺を建立しました。

火災により諸記録は焼失しています。延亨3年(1746)に再建し、高世八兵衛、高世次兵衛がこの地に建てました。

8 桜本山 正寿院

長井市五十川2253

■宗旨 真言宗豊山派　■開基 宥日上人
■本尊 大日如来　■本寺 奈良県長谷寺

正徳4年(1714)、東五十川の生僧寺を現在地に移建したことをきっかけに開かれました。

その歴史は、応永年間(1394～)にさかのぼるといわれます。

9 岩切不動尊

長井市下伊佐沢

■創建　永正元年(1504)　■別当　龍雲寺
■本尊　木像不動尊

領主の伊達輝宗が寄進したという伝承が残っている御堂は、寛政6年、文政12年と明治になってから再建されました。昔、近くの最上川は川幅が狭く、毎年氾濫していました。平安時代の初め、円仁(慈覚大師)と地区民が川底を削る工事を行った時に、お不動様が現れ、固い岩盤を大きな足で壊し、工事を助けたと伝わっています。

10 西光山 摂取院（せっしゅいん）

長井市大町 1-13

■宗旨 真言宗豊山派　■開基 行道上人
■本尊 大日如来　■本寺 奈良県長谷寺

創立は寛仁元年(1017)、法相宗に所属後、浄土宗になり、宥日上人により真言宗となりました。天保14年(1843)に荒廃した寺を再建し平成元年 (1989)に寺閣を一新しました。

11 正徳山 福蔵院（ふくぞういん）

長井市成田 1524

■宗旨　真言宗豊山派　■創立　永享元年
■本尊　大日如来　■本寺　奈良県長谷寺

二度の火災により寺伝は不詳ですが、観音堂は神亀2年(725)の創建と伝えられています金色堂に馬鳴菩薩が祀られています。

米沢藩のお抱え絵師、小田切寒松軒が作った東庭と8枚の見事な襖絵が飾られています。

神　社

1 總宮神社

長井市横町 14-24



言い伝えによると、白鳥大明神、宮の明神と称しました。文禄2年(1593)、蒲生氏郷が下長井郷の神仏を合祀し、總宮神社としました。

明治13年に県社列格になり、本殿は天明2年(1782)に竣工されました。現在の参道は、昭和8年に皇太子殿下（現 明仁上皇陛下）御生誕を記念しで造られました。境内には末社15社が祀られています。

2 小出白山神社

長井市館町北10-21



史料がなく詳細は不明ですが、暦仁元年(1238)に長井時広の家臣大須賀長光が、この地に館を構え、加賀白山神社の分霊を勧請したという伝承が残っています。

さらに、天正年中(1573～)に伊達輝宗の家臣桑島将監、小松蔵人などが再興しています。慶安4年(1651)に改築したのが現社殿です。明和4年(1767)に仁王門を建立しましたが、大正7年(1918)に長遠寺に移転しました。

3 葉山神社

長井市白兎2258



置賜葉山の白兎から登る道を「葉山参道」と呼び、山頂には奥宮月山宮と羽黒宮があります。葉山神社は、この2社の里宮となっています。

田の神様として信仰されており、大宮子易神社に次ぐ社格で、21年毎の式年改築をされています。

4　白山神社(十日町)

長井市十日町 1-8-12

小桜城の鬼門に当たるこの地に建てたとの記録があります。宮村館の外郭、館堀の北東角に当たります。

本殿は一間4面、拝殿は二間5尺、白山寺は四間に八間の大伽藍でした。寺は明治6年(1873)に遍照寺に併合されました。

5　皇大神社

長井市神明町 3-8

元治元年(1864)の火災により記録が焼失し、創立は不詳。文政13年(1830)の銘の常夜灯があります。

慶応2年(1866)、四釜清五郎が伊勢参宮の際に、分霊を勧請し現在地に再建しました。

昭和34年(1959)に東北地方では初めて伊勢神宮の神殿一宇を拝受して、当社の本殿として移築し、翌年拝殿を改築しました。

6　五所神社

長井市寺泉2303

1090年、当麻秀則が源義家の命により、朝日岳、祝瓶岳、小朝日、月ヶ峰、三渕の5カ所の尊霊を遷座合祀しました。

さらに、大正2年（1913）に山、三淵、八幡、大沢、熊野の五神社を合併し、地名の五祭所の由来になりました。

7　津島神社(森)

長井市森山田4-1

天和2年(1682)に創建されました。小出村安松寺の僧、宥昌が疱瘡の治療と毒蛇退治の功徳により建てられました。

暴風で破損した拝殿を昭和14年（1939)、松木左七郎の寄進で再建されました。牛頭天王が祭神であるため「お天王様」とも呼ばれています。

8　伊佐沢神社

長井市上伊佐沢2986-2

大同年間(806～)に創建されたと伝わっています。

上伊佐沢八幡前に八幡神社が祀られていましたが、明治49年(1916)に大石神社、天羽神社、山祇神社、白山神社を合祀、さらに、大正8年(1919)に稲荷神社を合祀し、現在地に至っています。

昭和60年に氏子の寄付により再建しています。

9　若宮八幡神社

長井市成田1184

天喜年中(1053～)に源頼義が造ったといわれています。鎌倉の鶴岡八幡宮を勧請し、社を建て、若宮八幡とよばれました。

明治42年（1909）に三嶋、飯綱、羽黒を合祀しました。例祭には演芸、芝居、カラオケ大会でにぎわい、獅子舞と神輿が地区内を巡ります。

10　津嶋神社(草岡)

長井市草岡 1246

文化年中(1804～)に別当の歓喜院が火災に遭ったため、記録が消失していますが、正平13年(1358)の創建と伝えられています。

文化6年(1810)に再建され、社殿に木瓜の紋が刻まれ神紋としています。明治23年(1890)に再建され、昭和48年（1973）に大規模改修をしました。

11　豊里神社

長井市時庭375

正平3年(1348)の創建と伝えられています。宝永5年(1708)に社殿を再建しています。寛政9年(1797)に建立とある本殿は荘厳美麗です。

大正元年(1912)に八幡・稲荷の2社を、同9年(1920)に諏訪神社を合祀し、豊里神社と改称しました。

祭日には、黒獅子舞が六角の神輿とともに地区を巡ります。

12 蘊安神社

長井市五十川896

社記によれば、元慶2年(878)に鎮守府将軍小野春風が出羽に出兵しました。藤原蘊安は軍役の強制をせず、戦闘をさけて元慶の乱を治めました。領民はその善政を仰ぎ、祠を造り奉賛しました。明治42年(1909)に熊野神社を合祀しました。

昭和24年、上杉家宝庫より蘊安公木像を譲り受け、御神体として祀っています。征服者の将軍を祀った、数少ない神社です。



13 八雲神社

長井市九野本463-1

大治3年(1128)に京都祇園八坂神社から分霊を勧請したといわれています。御神体は宥日上人作と伝えられ、木彫の牛頭天王です。

地域では、初もののキュウリを神社に供えてから自宅で食する風習があります。

14 稲荷神社(今泉)

長井市今泉字本地ー1013-3

古くは、正一位稲荷大明神と称していました。明治34年(1901)の今泉大火で全焼し、その後再建され、白山神社と統合しました。

平成2年に新たに申請し、神社庁から認可されました。

15 稲荷神社（九野本）

長井市九野本2946

大同2年(807)に伏見稲荷から分霊を勧請したといわれています。天保12年(1841)に再建しましたが、明治32年(1899)に類焼し、45年(1912)に再建しています。

昭和42年に拝殿などを改築し、皇大神社を合祀しました。境内に梅沢山神社、琴平神社の2社が祀られています。

16 羽黒神社（泉）

長井市泉381

建武2年(1335)の創建と伝えられています。昭和35年までは黒獅子が最上川を渡り、勇壮華麗でした。昭和36年に雪害により現在の場所に移転し、昭和52年に改築されました。

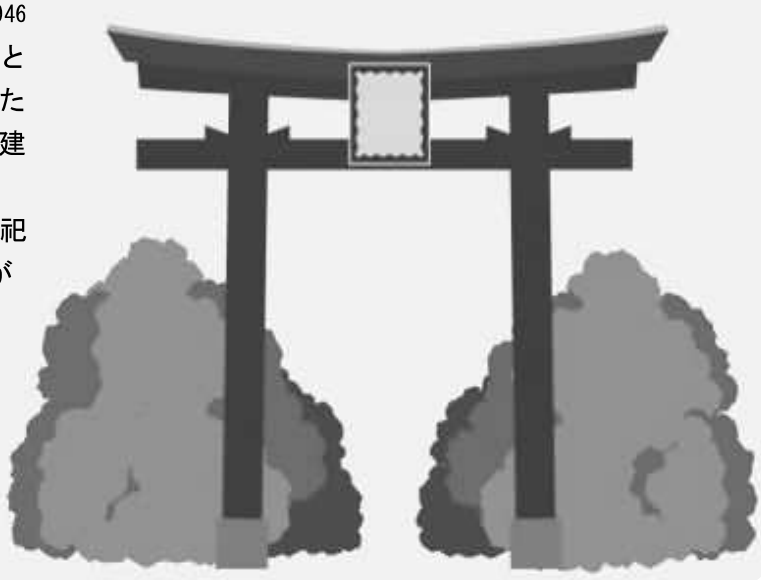
御神体の「こも包み観音像」は、「みのわ」から拾い上げて祀っています。

17 熊野神社（平山）

長井市平山2766-8

大治4年(1129)に伊勢熊野大権現より勧請したといわれています。奥の宮が熊野山(669.5m)の山腹にあり、寛政3年(1791)に社殿が再建されています。

昭和9年に羽黒神社を合祀し、11年には菅原、諏訪、藤白、白山、稲荷の5社を合祀し、平山地区の鎮守、産土神として信仰されています。



置賜三十三観音

・観音信仰について

観音菩薩は、平安時代末から民間から一番信仰された仏で、世に光を与える音の持ち主であり、悩める衆生がその名を唱えるとすぐ救済されるとされています。観音が衆生を救うため、三十三に身を変えるという仏の教えから、観音菩薩を祀る三十三箇所の霊場に、札を納めて回る巡礼が始まりました。

県内には最上、庄内と置賜にそれぞれ三十三観音があり、その三つをあわせて出羽百観音といわれています。置賜三十三観音は上杉家の重臣であった直江兼続の奥方、お船の方が霊場を定めたと伝えられ、その霊場は素朴でありながらも厳かで、今でも地域の人々の手により大切に守られています。

1　九野本観音　観音寺

置賜第五番札所	
■宗派　曹洞宗 ■創建　寛文8年(1668)　■再建　嘉永7年(1854)	
■本尊　十一面観世音菩薩	
ご詠歌	九野本を　救う誓いの　深ければ 頼みをかけて　安楽の世に

観音堂は、寛文8年(1668)に梅津萬右衛門が造営し、嘉永7年(1854)に観音寺とともに再建されました。寺は伊達持宗の時代、長禄元年(1457)に九野本金城の豪族梅津将監が創建しました。観音寺は合併したと思われます。



長井市九野本2047

2　時庭観音　正法寺

置賜第六番札所	
■宗派　曹洞宗 ■創建　和文3年(1354)　■再建　明和5年(1768)	
■本尊　聖観世音菩薩	
ご詠歌	庭をたて　土をたたえて　時庭の 前の古木も　浄土なるらん

開基は、文和3年(1354)に能登の総持寺の行脚僧の道叟愛禅師が悟りを開き、この地に寺と観音堂を建てたと伝えられています。その昔、豪族の馬乗の練習場に建てられたといわれ、毎年7月17日に観音まつりが開かれます。梅花講によりご詠歌が唱和されています。



長井市時庭1428

3　宮の観音　普門坊

置賜第十番札所	
■宗派　真言宗 ■創建　天保年間(1830～43)に再建	
■本尊　馬頭観世音菩薩	
ご詠歌	夜もすがら　月をみあげて　おがむなり 沖の川瀬に　たつは白波

25坪の観音堂は古式豊かな建築様式を誇っています。鎌倉時代から馬の産地として、この地方の信仰と繁栄の象徴でもありました。卯の花姫が、乗馬の上達を願って夢枕に立った観音を、運慶に彫らせた伝承があります。



長井市横町14

4　芦沢観音　雲洞庵

置賜第十七番札所	
■宗派　曹洞宗 ■創建500年以上前　■再建　享保尾8年(1723)	
■本尊　十一面観世音菩薩	
ご詠歌	誓いあれ　さかゆる世々の　ためしには 難波のことも　よしや芦沢

長い石段と両側にそびえる千年松は霊域を感じさせます。石段は、芦沢氏子と講中が正徳2年(1712)に築きました。その昔、宮中儀式を担当した旧家の色摩家の屋敷鎮守を移築したのが始まりといわれています。享保8年(1723)に鮮やかな朱塗りの観音堂が再建されました。



長井市芦沢1689

5 五十川観音　正寿院

置賜第三十一番札所	
■宗派 真言宗 ■創建 大同元年(806)　■再建 宝暦9年(1759)	
■本尊 千手観世音菩薩	
ご詠歌	いかがわと　思うは人の 迷いなり 千手の誓い　いつも絶えせぬ

宥日上人の母親が、上人が産まれる前にここで「子供が授かるように」と願いを掛けたという説話から推測すると、応永2年(1395)以前からあったと考えられます。現在のお堂は、宝暦9年(1759)に再建されました。お堂正面の唐獅子などは装飾性が高く、壮麗です。



長井市東五十川生僧

6 森の観音　遍照寺

置賜第三十二番札所	
■宗派 真言宗　■再建 享保7年(1722)	
■本尊 千手観世音菩薩	
ご詠歌	ありがたや　教えにまかす　此の身こそ 念彼観音の　ちかいなるらん

近くに塔の入りという山中に平らな土地があり、千手観音跡とよばれています。かつての別当は真光寺で、明治初年廃寺になり、現在遍照寺が別当となっています。明治35年(1902)に村中の寄進で御前坂を造りました。



長井市森地内

6 神事・伝統芸能

ながいの黒獅子「おしっさま」

長井の守り神である黒獅子は、「おしっさま」とよばれ、地域の人に親しまれています。

漆黒の面に目玉が丸く飛出し、眉は目玉の後方まで下がり、前後に面長で、顔を覆う真っ白なたてがみと鼻毛が特徴です。また、その面持ちは「蛇頭」とよばれ、この地域固有のものです。黒獅子舞は、獅子頭に波頭を表した大幕をつけ、その中に大勢の舞手が入り、境内やまちの中を練り歩きます。幕の下から沢山の足が見えることから「百足獅子」ともよばれています。



その舞の特徴は、頭を上下させず、滑らかで蛇が水面を進む様を模した動きとされています。厄除け、身体堅固、五穀豊穣、安産や子供の成長を祈願する神事として市内の神社に伝わっており、各神社の例祭日には、警護（相撲または角力）に先導された黒獅子が各地区の氏子一軒一軒を練り歩き、祓い清めます。

黒獅子舞の歴史



源頼義が前九年の合戦(1051～1062)の戦勝祝いとあわせ、總宮神社の社殿を再建した時、兵士たちに獅子舞をさせたのが、長井の獅子舞の始まりといわれています。この獅子舞は、野川上流の三淵に身を投じた卯の花姫が龍神となり、神社の例祭に招かれ、野川の流れを下る姿を表したものです。

ながいの獅子踊り

1　川井獅子踊　市指定無形文化財（芸能の部）

江戸時代元禄年間のこと、老いたキツネがたわわに実った稲穂をくわえてやってきたので、村では豊作の前ぶれとしてこれを歓迎し、八幡神社にお礼を兼ねて越後の豊年踊りを習い、奉納したのが始まりと言われています。

踊りは、纏(まとい)持ち、警護、獅子、踊り子（女装）、伴奏（笛と歌）、火の輪（世話役）など少なくとも15名の演者で構成されています。

2　平山獅子踊　市指定無形文化財（芸能の部）

江戸時代慶長年間に、直江兼続の家来青木丹波守(あおきたんばのかみ)がこの地に移住した際、人々の生活に潤いを持たせようと越後の獅子舞を広めたのが始まりと言われています。保存会が結成されて以来、演目の伝承はもちろん、後継者の育成に取り組むなど伝統文化の継承と発展に情熱を注いでいます。



まとい、獅子、笛、踊、火の輪、面すりなどの役割があり、三十数名で構成された豊年踊りです。

3　五十川獅子踊　市指定無形文化財（芸能の部）

文政10年（1827）に蘊安神社が再建された際、川井獅子踊を習って奉納したのが始まりと言われています。牡獅子(おじし)、牝獅子(めじし)、友獅子(ともじし)が牡丹の花とたわむれて喜び踊る様子が表現されています。また、和紙で作られたカラクリ仕様の火の輪に飛び込む場面は、迫力があり、見どころとなっています。



4　勧進代獅子踊　市指定無形文化財（芸能の部）

天保3年（1832）、村が凶作で飢饉に見舞われた際、その苦しみをやわらげ、豊作を祈願するために現在の總宮神社に奉納されたのが始まりと言われています。

この獅子踊は五十川の獅子踊を習ったといわれ、牡獅子、牝獅子、友獅子を中心に多数の女装の踊り手が演じます。一時は途絶えたものの昭和48年に復活し、保存会を中心に伝承されています。

伊佐沢念仏踊

県指定無形民俗文化財

室町時代永禄年間に、上伊佐沢の玉林寺の落慶法要に奉納したのが始まりと言われ、そもそもは豊作を祈願した踊だったものが、年月を経るごとに美しさと複雑さが加わり、盛大になったと伝わっています。50名近くの踊り手が十数種類の役を演じ、曲や鳴り物に合わせてそれぞれの振りで踊り、かつては伊佐沢の久保ザクラの下で行われました。

地区の子どもたちとともに地域一丸となって伝承されており、多くの人たちに愛され親しまれています。



7 歴史的建造物

国登録有形文化財

1 鍋屋本店（なべやほんてん）　国登録有形文化財

店構えは、明治30年代に建て替えられたものの、創業が江戸後期頃の金物屋です。店は茅葺（かやぶき）、つし造り（二階部分が低いつくり）で東が切妻屋根、西が寄棟、平入り（軒先）には下屋がついていました。店内の当初の畳部分は撤去され、すべて土間となっています。店に続く主屋も、明治33年（1900）頃の建築で、木造平屋切妻造りで茅葺、煙出しがついています。

店、主屋ともに創建時の状態を維持しており、たいへん貴重な建物です。



2 長沼合名会社　国登録有形文化財

以前は呉服商でしたが、大正5年（1916）に醸造業を創業。広大な敷地に、店舗兼主屋、仕込み蔵、前蔵、内蔵、新蔵、中蔵の6棟の有形文化財が点在しています。

主屋は木造平屋建て切妻鉄板葺（以前は茅葺）平入りで、天保9年（1838）の創建です。土間から茶の間、二の間、上段と続く江戸期の商家造りです。仕込み蔵は平屋建て、大正期の建築です。前蔵は、3棟続きで明治4年（1871）建築。ほかの3棟は、木造二階建て土蔵造りです。



3 齋藤家住宅　国登録有形文化財

あら町通りの南端で「四ツ家」があったことから、町名が四ツ谷になったということですが、大正10年（1921）、道路の延伸とともに齋藤家も現在地に移転しました。その主屋は、茅葺木造二階建て鉄砲梁によるつし造り（二階部分が低い造り）で、その間取りや骨組みなどから、江戸後期の創建といわれています。

付属の蔵は、置屋根二階建てで明治期の創建です。往時の街道沿いの町屋の風情を伝える貴重な建物です。



4 旧長井小学校第一校舎

国登録有形文化財

大正３年(1914)の長井線開通時に、旧市役所前十字路付近にあった校舎を、昭和８年に道路延長のため現在地に新築しました。木造二階建て瓦葺、舟底天井、内部正面の折り返し板階段の堂々とした木造校舎です。

平成31年４月に交流と学びの拠点として整備され、リニューアルオープンしました。



5　丸や芳賀醤油店　国登録有形文化財

文政4年(1821)創業。当時の店構えはありませんが、穀蔵と火入れ蔵の2棟が有形文化財です。そのほかに、もろみ蔵、家財蔵があります。穀蔵は、間口2間半、桁行6間、木造二階建て鉄板葺置屋根の土蔵造りです。漆喰壁で腰は鎧板囲い、蔵内に、墨書で「明治22年(1889)造」とあります。火入れ蔵は間口3間、桁行5間、木造平屋建て鉄板葺置屋根の土蔵造りです。漆喰壁で腰は鎧板囲いで、こちらも明治期の建物といわれています。

南に面して4つの窓があるのが特徴で、味噌醤油の製造に適した温度、湿度の調整機能を持つ日本独自の貴重な建物です。



6　山一醤油店　国登録有形文化財

醤油所の創業は弘化3年(1845)で、現在の店は大正9年(1920)頃に再建されたものです。店に続き、若衆の間、醤油蔵、仕込み場、味噌蔵と約100mの長さがあります。

店は、木造二階建て鉄板葺、切妻平入りで下屋付、二階の前面格子、一階の格子付ガラス戸が建物を一体的に見せています。店内は、再建当時のまま、土間と板の間です。醤油蔵は木造平屋建て鉄板葺、間口5間、桁行12間の洋風トラス小屋の蔵造りで、長井では希少な建物です。木造平屋の仕込み場内には、江戸時代からの水路があり、ここで桶を洗った姿をそのままとどめています。



7　山形鉄道フラワー長井線 羽前成田駅本屋

国登録有形文化財

羽前成田駅は、国鉄長井線が長井駅から鮎貝駅まで延伸開通した大正11年（1922年）に開業しました。洒落た半切妻のポーチが乗降客を迎える洋風基調の駅舎です。構内カウンターを支える持ち送りには幾何学的な意匠、荷物受付窓口の腰板は一枚板の掘り込み、屋根の破風板端部にも装飾的な彫りが施され、大正期からの鉄道の歴史を伝える貴重な建築と言われています。

平成27年（2015年）8月4日、駅本屋が西大塚駅と共に国登録有形文化財に登録されました。地元の「羽前成田駅前おらだの会」によって年間を通した維持活動が行われています。



8　旧丸中横仲商店蔵群

国登録有形文化財

最上川舟運で栄えた商家が軒を連ねるあら町に所在する土蔵群。桁行約12mの大型の砂糖蔵、土蔵・質蔵、粉蔵・江戸蔵の5つの蔵が敷地内に3列に並んでいます。土蔵と質蔵は、漆喰塗の外壁の要所に黒漆喰を用いて装飾的に仕上げており、江戸蔵は東面に縦長窓を設け掛子塗の土戸をつけるなど、当時の高い左官技術を今に伝えています。



写真提供：長井市教育委員会

9　旧松岡家住宅

国登録有形文化財

旧松岡家住宅は、歌丸地区に所在する農家の屋敷で、茅葺きの主屋を含む５棟は、屋敷林に囲まれ水田に浮かぶような屋敷構えをし、稲作農家の歴史的景観を伝えています。

主屋は木造平屋建て寄棟造鉄板葺き（以前は茅葺）平入りで、江戸時代後期の建築です。屋根正面中央に煙出しの破風を付け、その下に上段口と勝手口の二か所の入口を設けており、大農家の様子を伝えています。前蔵は土蔵造平屋建て鉄板葺置屋根式の平入り、明治20年（1887）の建築です。後の蔵は土蔵二階建て鉄板葺置屋根式の平入り、明治32年（1899）の増築です。馬屋は木造二階建て鉄板葺（以前は茅葺）平入りで、昭和7年（1932）の建築です。作業小屋及び牛舎は木造平屋建て切妻造鉄板葺（以前は茅葺）妻入り、明治41年（1908）建築の作業小屋に、木造平屋建て切妻造鉄板葺妻入りの牛舎が増築されたものです。



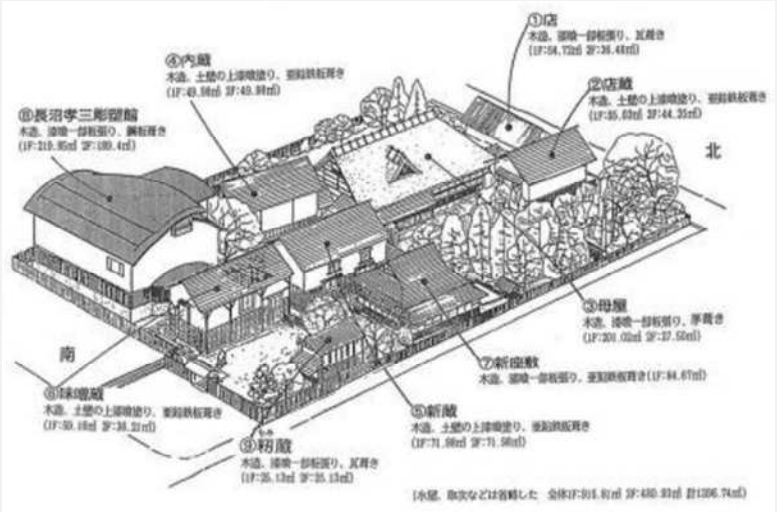
最上川舟運文化

1　旧丸大扇屋（きゅうまるだいおうぎや）　県指定有形文化財

十日町通りにある、江戸時代から続く最上川舟運で栄えた商家「丸大扇屋」の家屋敷です。主屋の旧長沼忠兵衛（ながぬまちゅうべえ）宅を中心に、店、店蔵、内蔵、座敷蔵、新座敷の6棟が、平成15年に県の指定を受けました。

主屋の合掌小屋と茅屋根、店の落とし雨戸や箱階段、商品をしまう店蔵、生活物品をしまう内蔵、お客様をもてなす座敷蔵などが、通路や庭と一体的に造られ、明治期の商家の姿を後世に伝える貴重な建物です。





住所：長井市十日町 1-11-7
休館日：月曜日・月末日
〇冬季休館 12 月 29 日～3 月 31 日

提供：(一財)文教の杜

2　やませ蔵

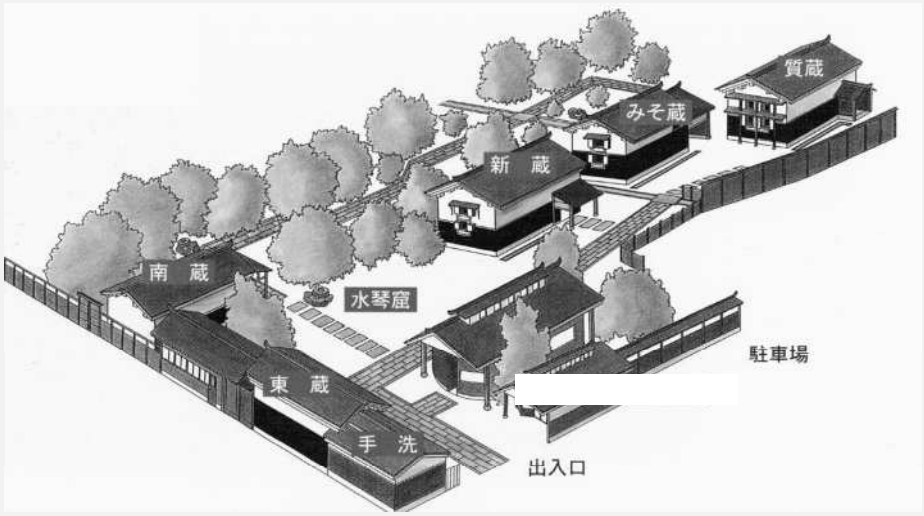
竹田清五郎は、宮船場ができた元禄の頃、山形から現在のあら町に移り、「最上屋」として、主に太物(綿の既製品＝足袋や風合羽)、古手(古着＝普段着や作業着)を中心にした商売を始めました。文化文政以後の長井では、指折りの豪商になっています。

慶応元年(1865)生まれの清五郎(当主が代々襲名)は、長井紬の改良に努め、その最盛期をつくったといわれています。明治36年(1903)の竹田紬工場の紬生産は、町全体の半分を超す勢いだったといいます。

当時の店構えは、北から店蔵、店屋、小間屋門と続いています。昭和5年に造られた蔵座敷は、長井では一番立派に造られたものだそうです。



やませ蔵建物配置図



3　岩城屋

正面入り口の小間屋門をはさんで、北側に店、南側に店蔵が並んでいる、長井の店屋の典型的な建物です。店蔵は江戸時代からのものですが、店と主屋は、大正6年(1917)の大火の後も、まったく同じ形に新築されています。入口の格子戸と小間屋門の「のれん」、店の格子窓とその上の「キリヨケ」とよばれる丸く反った小屋根、雨風から漆喰のアオリ戸や窓を守るために店蔵の窓につけた出窓風の「ワサヤ」など、雪国の風土と長井が商業都市として栄えた頃の面影を残しています。屋敷の奥には「団雪庵」と称される銅板葺寄棟造りの客間があります。



4　青苧蔵門

宮村青苧蔵は、宮村館(現在の小桜館のある所)の東にあったもので、現在残っているのは青苧蔵に付随する門だけです。青苧は、漆とともに米沢藩の最大の産物で「からむし」ともよばれ、専売作物でした。青苧蔵が建てられたのは、寛文3年(1663)で、西置賜の青苧は集荷された後、米沢の青苧蔵に運ばれ、そこから奈良(関西)方面に晒の原料として送られました。長井では、中伊佐沢や白兎が主産地で、質も良く、生産量も多かったといわれています。この青苧蔵は、明治4年(1871)に藩の廃止とともにその役目を終えました。



近代

1　小桜館(旧西置賜郡役所)

市指定有形文化財

明治11年(1878)12月、洋館造りの郡役所として建築されました。建築費用3,500円は西置賜郡46ヵ村で調達し、建設地は高台で水はけのよい現在地になりました。欧米の建築工法を取り入れながら、日本人の棟梁の手による「擬洋風」造りです。石積みの連続基礎や全面ペンキ塗りの下見板張に「上げ下げ窓」が並ぶ外壁、バルコニーのついた神社のような玄関ポーチなど、数多くの特徴があります。周辺環境とともに復元工事が行われ、現在に至っています。



2　桑島記念館(旧桑島眼科医院)

市指定有形文化財

昭和2年、初代院長桑島五郎氏が「擬洋風」の粋を集めて竣工した建物です。ゴシック建築名残の棟飾りやドーマーウィンドウ、バルコニー付玄関などの特徴があります。

コンクリートに見えますが、実際は木造です。

当初の場所から120m曳移転され、現在に至っています。



3　旧小池医院

昭和6年に完成した、産婦人科医の診療室と病室です。建築様式は、ヨーロッパ17世紀のチューダー朝のスタイルです。樫の木を思わせる褐色の柱が何本も並行して直立し、梁がそれに直角に交叉して、美しい幾何学模様をつくっています。屋根を支える柱やアーチ型の窓も美しく、木組みの間にリズミカルな斜材や円状の木の装飾が並ぶ軽快なハーフティンバーの二階部分、急勾配の屋根とその中央にそそり立つ8角形の塔とその意匠がヨーロッパ中世の建築美を作り出しています。



4　旧羽前銀行

昭和9年に、現在のあら町に建てられたギリシャ風の銀行建築です。現在は個人の所有になっています。外側の太い円柱の並立している形や、柱の上の日本でいう肘木にあたる部分の渦巻き模様も美しく、全体としてどっしりとした重厚感を与えています。



・銀行建築とギリシャ神殿

明治 33 年（1900）、ロンドンにイングランド銀行の本店が建設され、その外観には「古くはギリシャの神官が農民や商工業者に金を貸していた」という伝承から、ギリシャ風神殿造りが採用されていました。そのデザインは日本の銀行建築にも多くの影響を与え、ギリシャ神殿風の外観は国内外の多くの銀行の本店・支店に取り入れられました。昭和 38 年（1938）、戦時下との理由から銀行建築が禁止され、戦前最後の銀行建築となったのは大正 13 年竣工の日本銀行松江支店でした。（島根県松江市に工芸館「カラコロ工房」として現存）

8 歴史的遺構・産業遺産

1 森鉱山

永禄年間(1558～)に伊達家が開発させました。文政11年(1828)、森村の人口が320人と多いのは、鉱山の採掘のためと考えられます。

あるとき、坑内で落盤事故があり多数の死亡者が出ました。その霊を慰めるため、観音山の参道に三十三観音を祀りました。文政8年(1825)に最上川舟運で栄えた商人竹田清五郎が古虚空蔵山参道に移しました。これが東山三十三観音の由来です。小出船場があった東町が、以前の祭礼を復活させました。

昭和18年の丸通長井運送株式会社の記録には、火薬類を毎日荷車3台に積んで鉱山に運び、毎日30tのマンガン鉱石を無蓋貨車(むがいかしゃ)に積み込み、月間約1,000t出荷したと伝えられています。

金、銀、銅、亜鉛、硫化鉄なども採取しましたが、戦後休山しました。

2 野川流域金鉱

草岡の新町は鉱山職人の町でした。田尻の臼(うす)ケ沢(がさわ)金山は記録にあり、鉱山跡も確認できますが、新町鉱山跡は不明です。野川渓谷の金山で、伊達の隠し金山の伝承と関係がありそうです。「伊達政宗が移封(領地替え)に際し、金山を塞ぎ道を壊し再開発されないようにした」と山形県鉱山史に記載があります。

●祝瓶鉱山

鉱種名　金　銀　銅　鉛　亜鉛　硫化鉄　珪石

野川源流五貫沢で金鉱石が発見され、山師たちは鉱区の設定で争いました。

●松沢金山

言い伝えでは、寛永以前から採掘したとあります。大正元年(1912)に120名雇って稼行しましたが、第一次世界大戦後の世界恐慌で休鉱しました。

●三体山鉱山

昭和29年に住友金属が稼行し、細々と採掘し、昭和51年に放棄されました。このほかに、採掘した鉱山跡が5～6ヵ所あります。

3 撞木橋(しゅもくばし)

大町と栄町の間を流れるのが撞木川(しゅもくがわ)です。室町時代の初期、当時、ここを流れていた野川の川幅が広く、そこに掛けられた長い橋が撞木橋です。

撞木橋は、二つの川の合流点に丁字形の橋をつくり、橋の形が撞木(鐘を打ち鳴らす槌)に似ていたからです。室町の中頃、摂取院の大門に向かって約170mもある木橋でした。

伊達氏の時代、宮村は衰え土橋でした。慶長4年(1599)、慶長出羽合戦のとき、直江兼続が宮村明神で戦勝祈願を行い、木橋にすると誓って、その板橋の擬宝珠(摂取院にあったとされていますが、現在消失)には、「朝散大夫兼城州刺史直江兼続寄付　干時慶長四年酉二月　大工　西江兵六」とあったそうです。今の橋は昭和6年に替えられ、先の大戦で供出した常夜灯を、戦後30周年記念事業として大町の有志が昔の「ともしび」形に復元し、建設省（当時）主催の「手づくり郷土賞」を受賞しました。

4 平山の締切堤防(しめきりていぼう)遺構　市指定史跡

平岩山に源を発した野川は、急流をなして南下し、その流れを平山地内の熊野山北麓の「石渕」といわれるところで北東方向に急転します。このため、大雨の度に平山地内で溢れた水が長井市の中心部を襲いました。その分流の一つが木蓮川です。とくに、宝暦7年の大洪水は大きな被害をもたらしました。そこで当時の米沢藩は、幕府の支援も得て、流れが急転する平山の野川右岸側に、20年近くの歳月をかけ、複数の堤防を築きました。

中でも、大締切堤防とよばれる石積みの堤防は基礎幅が12間(21.6m)、上端幅が7間(12.6m)、高さが1丈5尺(4.5m)、延長225間(450m)におよぶ大規模なもので、第9代藩主の上杉治憲(上杉鷹山)も2回ほど視察をしています。その一部が今も現存しており、江戸時代の石積みとあわせて、明治の大改修と昭和の改修の各堤防が3段に重層して、現在も治水機能を果たしているのは全国的に見てもきわめて貴重なものです。

5 嘉永堰・昭和堰　市指定史跡

置賜葉山山中に造られた嘉永堰は、嘉永年間の渇水対策として嘉永6年に開削されました。勧進代地区の田畑の主水源となる平沢川の水量を増やすために、山中の鍋割沢の水を平沢川に導入したものです。開削工事の経緯は「嘉永堰の日記」に詳細に記されており、当時の農業用水確保の地域住民の姿を捉える上でも貴重な史跡です。

また、昭和7年に開削された昭和堰は、昭和初期の水田改良に伴う農業用水の需要増加を受け、嘉永堰の堰幅の拡幅および嘉永堰の水源である鍋割沢からさらに奥にある御秘蔵沢まで堰を延長したものです。

新たに開削した堰とそれまで嘉永堰と呼ばれる堰も含め、「昭和堰」と名を改めました。昭和堰は、当時の水準としては優れた土木技術が用いられており、また、開削以来79年を経た嘉永堰を改良し、農業用水を新たに確保したという歴史を今に伝える貴重な史跡と言えます。

6 桶佐堀　市指定史跡

桶佐堀は、葉山の登山道（朝日軍道の一部）の標高800m付近に、勘三郎と妻おけさが掘った堰で、沢水を草岡まで引いて水不足を補ったといいます。草岡の赤地蔵堂前の勘三郎碑によれば、寛文10年（1671）に開削されたことになっています。

【嘉永堰】



【昭和堰】



9 街道・峠

1 朝日軍道

上杉景勝は、越後から会津、置賜、庄内へ移封になりました。山形の最上、越後の堀家と敵対関係であるため、置賜と庄内を結ぶ「庄内直道」（朝日軍道）が必要でした。

慶長3年（1598）、草岡から朝日連峰の山頂を辿って庄内の鱒淵（鶴岡市）へ至る山道を整備したと伝えられ、城主志駄義秀が守る酒田城へ武器弾薬を運び、庄内から金を内陸へ運びました。その後、上杉景勝が減封され、志駄義秀は慶長7年（1602）3月、庄内直道を通って米沢に引き上げたと言われています。以後、道は封鎖されましたが、昭和33年に葉山から直接朝日連峰に登る登山道を開設し、朝日軍道の復活と評価されました。

2 馬街道

越後街道の小国十三峠道に通じる馬街道は、小出船場までの街道だったといわれています。

台町の旧多田家西端の追分石記念碑から、片倉文六家（屋号）の前を通り抜け、街中を抜ける道を馬街道といいます。

石碑は台町が建立し、仲町裏（四ツ谷）にある伊藤武男氏の記念碑とともに、馬街道の記憶を蘇らせています。

馬街道の由来は不明です。今は狭い細道ですが、馬街道はあら町、本町境の十字路になり、片田を経て川原町の小出船場に出ました。

3 明神平峠(589m)

飯豊町の萩生川沿いの林道があり、明神平峠に出られます。野川上流の右岸思入沢から、踏跡と鉈目を探し、思入沢源流の右岸杉林を登り切り、林道を西進すると明神平峠に出ます。

昭和57年、平野地区公民館の西山新道出発地の栗の標柱が建っています。林道がないとき、大平から苦労して担ぎあげて建てました。

峠は展望がひらけ、三体連山と祝瓶山、大朝日岳と西山新道跡を望むことができます。

林道右下は、折草で西山新道開設時問屋があり、水や食料、物資の補給所でした。

4 西山新道

入野川～明神平峠～石滝～柳生戸～村上の西山道は、越後街道に出る十三峠道より距離が短く、峠超えも3箇所で済む便利のよい峠道でした。

慶長出羽合戦の直前、長期戦による領内の物資不足を見込んだ直江兼続は、この道を使って緊急に塩を運び入れたと言われています。平野郷の村民は関所がなく運搬費も少ないので、藩の許可を得て西山新道を通って魚油、魚粕を運びました。

明治維新直前、最上川舟運の経費がかさんだため、長井商人17名が5千両(約5億円)を出資し、西山道を拡幅、架橋をして、新潟の村上港から京都大坂に生糸など移出し、塩や古着を運び入れました。塩の道、絹の道として期待されましたが、明治元年(1868)の戊辰戦争の際に橋や道が棄却されました。



5 白兎六道辻

市指定史跡

白兎の六本の道が交わったこの辻は、昭和48年に長井市の史跡に指定されました。この地名は江戸時代初期からありました。辻から北は、道智道から大井沢方面、北東は西高玉から鮎貝方面、東は白兎、南は長井町、南西は萩生から越後街道、西は葉山に通じています。辻北左に、「享保18年導師全龍院」と刻まれた六面幢があり、角々には六地蔵を表す石があります。仏教の六道を示して祀られています。平安朝末、浄土宗が布教した時代に広まり、各地につくられました。

6 地蔵峠

小出と伊佐沢を結ぶ峠で、頂上に地蔵堂があったので地蔵峠の名称となりました。当時の二重坂は不便で、地蔵峠の方が多く利用され繁盛しており、茶店もありました。その頃、虚空蔵堂下り口の西方150間から松川の渡船があり、長井町へは地蔵峠経由が便利でした。渡船は伊佐沢村と小出で経費を負担し、無賃で貨物牛馬も乗せました。平常は綱越(綱で牽引)ですが、出水の場合は危険な小舟の流越しでした。

明治19年(1866)に飯沢儀八、鈴木千代太などが館町から日の出町の道をつくり、渡船場が下流になり、地蔵峠道は衰微し過去の峠道になりました。

7 小峠・大峠

明治以前、米沢から荒砥へ向かう道を中街道といいました。米沢→大塚→下伊佐沢→岩穴→大峠→杉沢→荒砥の経路です。大石はその街道があり、交通の要衝で、茶店や宿屋もあり、60世帯が暮らしていました。最上領とも境界が接し、道も通じており、漆山を経て宮内にも近く、慶長5年(1600)の直江兼続の長谷堂攻めには、この道筋を進軍したと逸話も残されています。

現在は、山形工科短期大学や不伐の森、ジュンサイ採りで有名な大石沼があります。二つの峠は今、やぶ道になっていますが、その近くを置賜東部線道路が通っています。

8 二重坂

地形から見て上の台側に坂道があり、南流する谷川が交差して下り道になり、登り返すジグザグの狭い道から日の出町に下るので、二重坂の地名になったと思われます。明治21年(1888)、有料の木橋大橋が完成。明治41年(1908)に改修され、大正12年(1923)に県道編入し、大橋(伊佐沢橋)も県道編入になりましたが、昭和4年の洪水で橋が大破してしまいました。

昭和6年には鉄鋼ワーレン式トラス4連の鉄橋が最上川河川敷内に完成し、昭和30年には頂上を3m掘削し通行が容易になりました。また、平成19年のさくら大橋架橋で二重坂が拡幅されました。

10 伝承・民話

1 久保のお玉

平安時代に、坂上田村麻呂が蝦夷を征伐するために東北に来たときの伝説が多く残されています。長井にも總宮神社、草岡の大明神ザクラ、そして伊佐沢の久保ザクラの伝説があります。伝説は次のような語りで始まっています。

「将軍田村麻呂は陸奥、出羽の蝦夷を征伐して千軍万馬に疲れた身を、わが郷土置賜郡久保の長者の宿に暫時軍旅を解くこととなった。長者の住家は鄙には珍しく深い濠をめぐらし、城郭のようであった。この長者の娘お玉は、容色才能二つながらすぐれ……後略」

久保氏の娘お玉は、親身になって将軍をもてなしました。将軍は喜び、しばらく滞在していましたが、蝦夷の反乱が鎮まると京都に帰りました。その後、娘は病気にかかり、将軍の面影を偲びながら、春も浅いある日の明け方に亡くなりました。それを聞いた田村麻呂は娘の死を悲しみ、摂津の真野山の桜を贈って娘の墓に植えさせました。その木が成長し、久保ザクラといわれ今も美しい花を咲かせています。

2 卯の花姫伝説

平安時代、奥州に拠点を置く安倍氏と源義家が激しい戦いを繰り広げたことは、長い間民衆の間で語られてきました。この頃、安倍貞任の娘である卯の花姫は宮村館に居を構えていました。安部貞任の勢力が衣川を越えて、置賜にまで及んでいたかは明確ではありませんが、次のような伝説が残っています。

安倍貞任の娘卯の花姫は、女でありながら兵馬の調練を行っていました。ある時、卯の花館の鎮守別当である妙澄に、調練が速やかに成就するよう仏(馬頭観音)に祈願させました。その夜、夢の中に容姿の立派な馬頭観音が登場したのです。夢に現れた馬頭観音を羽黒の僧に彫らせ、遍照寺に奉納したそうです。

安倍貞任の娘卯の花姫は、長井地方を治めていました。長井に攻めてきた源義家(八幡太郎義家)は「無益な争いをしたくないので和睦にしたい」と卯の花姫に伝え、源義家を信じた卯の花姫は、安倍の軍勢を引かせました。ところが、源義家は言葉とは裏腹に長井へと軍勢を進め、安倍貞任を打ちとりました。

卯の花姫が、「源義家にだまされ、父を殺したのは私だ」とさめざめと泣いているとき、朝日、祝瓶の堂坊の僧衆が駆けつけてきて、「義家の兵は間道を超え、祝瓶の堂坊を焼き払い、1万ばかりの源義家の軍勢がまもなくここに攻めて寄せます」と知らせました。卯の花姫は、もうこれ以上生き延びることはできないと考え、綾の表着で頭をおおい、絶壁の上から三淵の真ん中へ身を投げ、相従う女房、局34人の姫もつぎつぎと飛び落ちました。その後、卯の花姫の魂は野川の龍神となったといわれ、長井の獅子舞は、龍神が總宮神社の例大祭に招かれ、野川の流れを下る姿であると伝えられています。



3 宥日上人

長井の生んだ名僧に宥日上人がいます。応永3年(1396)に東五十川生僧の豪農村上新兵衛家に生まれました。その家の「おかま」という女は「どうか私に男児を一人授けてください」と、毎日観音様にお祈りしたら願い通り男児(宥日上人)を安産しました。

8歳にして大般若経六百巻を写しとるなど、若い時から才能を発揮します。その後、高野山で修業して、日本でも有名な高僧になりました。宥日上人の加持祈祷は、密教修行者としてきびしい修行をして身につけたものでした。日本各地に出かけ、病気の治療、安産、雨乞い、豊作祈願、防火鎮火などで評判をよんでいきます。とくに、防火鎮火の祈祷の名人として有名になり、郡内に多くの真言宗のお寺を建てて、遍照寺(横町)の発展に尽くしましたが、文明4年(1472)正月に亡くなりました。晩年は宮河原町(現在の栄町)に常楽院を建て、そこを隠居所として暮らしていたそうです。

現在でも、東五十川に産湯を使った池が残っており、毎年1月になると、近郷近在から、池の水をもらいにやってきます。その水を屋根にかけると、決して火災に遭わないといわれているそうです。



【「宥日上人産湯井」の石碑(東五十川)】

4 長沼牛翁

長沼牛翁は太沖ともいい、宝暦11年（1761）に生まれました。生家は十日町の太物商（現在の長沼酒造）で肝煎（現在の村長の役）も務めていた家柄でした。長男だったので、当然家業の呉服屋を継ぐ運命にありましたが、文化、医学への憧れを捨てることができず、家業を弟に譲って江戸に出ていきます。そこで蘭学（西洋の学問）を学び、医学、漢方医学などを学び医者として生活していました。しかし、暇をつくっては全国の旅に出て、その間に漢学、和楽、絵画を身に付けました。

歳をとってからは長井に帰り、撞木橋（現在の宮地区）のたもとに庵をつくり、医を業とする一方で、今まで旅先で見聞したことなどをまとめ、随筆集「牛の涎」60冊に書きつづりました。彼は、狭い日本のことだけでなく、蘭学を学んで世界に目を向けた先覚者であり、長井の生んだ偉大で博学な随筆家でありました。



5 おけさ堀の物語

西根草岡から葉山に登る途中、ちょうど尾根に達したところの左手に「おけさ堀」とよばれている堰があります。山かげの水を前山に落とすための堰で、勘三郎が妻おけさと艱難辛苦を克服して掘ったと伝えられています。



測量技術や機材もない時代に、自分の経験と勘に頼るしかないわけで、明かりを数人に持たせ、高低などを測りながらの工事であったといいます。上方から勘三郎が、下方からおけさが手分けして掘り進みましたが、二人が掘ったところは食い違いが出て、落差が生じ滝になりました。村人はこの滝を「おけさ滝」と名付けました。

水不足に悩む草岡村の百姓たちを、何とかして救いたいという願いが叶いました。草岡赤地蔵堂には、おけさと勘三郎を讃える碑がありますが、寛文10年（1670）と刻まれています。

6 諏訪堰

長井市の最上川にかかる長井橋の上流100mのところに、諏訪堰の頭首口（取水口）があり、そこから、水路が北に向かって通っています。最上川の水を分水し、最上川東岸の平地を森、浅立、広野、畔藤へと流れて、水田に配水する堰です。江戸時代の初期に米沢藩では、水田開発をおおいに奨励しましたが、長井では、浅立の沼沢伊勢と広野の新野和泉の二人が、この堰の開発にかかわりました。

工事は最上川の河原を通るところもあり、水漏れなどで難航しましたが、二人と村民は諏訪神社、熊野神社に願いをかけ、ようやく完成したと伝えられています。この堰の完成で新しく開田された新田は、面積にして266ha（3千9百石分）という広大なものです。

多くの百姓が二人の努力に感謝しました。諏訪堰はその後何度か手を加え、頭首口は平成25年に新しく改修されました。



【諏訪堰の頭首口】

7 栃の木堰

西山の東斜面は断層崖となっており、急で流れが短く、夏は涸れる川になるので、水田化は困難でした。その斜面に広がる西根の寺泉、川原沢、草岡などは微高地が多く、水には大変苦労しました。そうした原野を開拓して、水田化しようと江戸時代の承応年間(1652年、3代上杉綱勝の頃)に五十川の手塚源右衛門が発起人となり、成田、五十川、寺泉の3ヵ村が中心になって始められました。

野川から取水し、途中で交差する西根村の三合田川などの沢水も入れています。南西から北東へほぼ直線コースをとっています。ところが、水を通す工事は思わぬ難所に出会い、懸命に手をつくしましたが進まず、藩に約束の日が迫ってきました。



【おせきの塔】

源右衛門の家には、おせきという下女がおりました。おせきは源右衛門の苦労に心を痛め、未婚の娘が人柱にたつとどんな難工事でも完成するという村人の話を聞いて、人柱になることを願い出ました。その夜遅く、おせきは川の淵に身を投げました。

村人の奮起により堰は完成し、広く五十川一帯の田を潤すようになりました。しかし、源右衛門はおせきの人柱を承知のうえで黙認したということで、桧田で磔の刑に処せられ、家は断絶しました。

8 大喰い惣兵衛

「この里に惣兵衛という者あり。剛力にして餅を好み、五升餅を食す」という書き出しで、「牛の涎」に紹介されています。

草岡村の大沖に、孫田惣兵衛という者がいました。慶長3年(1598)に直江兼続が、置賜と庄内を結ぶ朝日軍道を開いたとき、その作業に従事して、働いたという話です。惣兵衛は餅食い惣兵衛といわれたほど餅が大好きで、この作業に従事するとき、一人で5升の餅を全部食べて山に登りました。はじめの二日間は腹いっぱいで苦しく、中三日は丁度良く、後の二日は腹が減ってやっとのことで家に帰ったといいます。七日間、一切何も食べなかったのです。

朝日軍道を切り開く工事は、途中にいくつかの深沢や急な坂があり、村からかり出された農民はおおいに苦しみましたが、このときも惣兵衛は大木を打ち倒して架橋し、昼夜兼行で働きました。そうした働きもあって、わずか七日で完成したといわれています。世話役からは大層ほめられ、槍を二筋頂きました。惣兵衛宅には、槍やそのときに使われた大臼が、今も残っているそうです。





第五章

文化・一般

長井市は、最上川の舟運により商業都市として成長し、豊かな文化が育まれてきました。先人たちは、明治に入ると産業をより発展させ、大正にはいち早く企業誘致に取り組み、長井の礎を築いてきました。

現在では、長井の特色である歴史や文化を身近に感じながら、地域に根ざした暮らしを次の世代へつなげていこうと、市民、行政が一体となり、さまざまな活動に取り組んでいます。

1 市の主な人物

名誉市民

1 孫田 秀春（法学博士）
1886～1976



名誉市民第1号（昭和50年12月26日）

草岡に生まれました。大正4年（1915）、東京帝国大学法学科独法科を卒業後、東京高等商業学校や東京商業大学（現一橋大学）の教授となりました。昭和5年、東京帝国大学から法学博士の学位を授与され、上智大学や日本大学など、数多くの大学で教授を務められました。

また、昭和40年に西根地区公民館敷地内に「愛郷の碑」を建てる他、母校である西根小学校に自身の著書、蔵書などを多く寄贈されました。我が国の労働法の権威で、日本労働法学会の名誉会員となり、昭和42年には勲二等瑞宝章を受章されました。

2 長沼 孝三（彫刻家）
1909～1993



名誉市民第2号（平成9年3月3日）

十日町に生まれました。昭和6年に東京美術学校を卒業後、帝展に「インテリゲンチャ」で初入選しました。昭和59年には日展参与に就任し、彫刻会の重鎮として活躍しました。昭和38年に本市の市章をデザインしていただくなど、作品は長井橋や市内公共施設に設置され、親しまれています。

平成元年には文教の杜整備計画に賛同され、生家である丸大扇屋の土地と建物を市へ寄贈していただきました。また、氏が記された「長井の心」は文教のまちづくりの指針とするものです。ながい百秋湖に湖のシンボルとして設置された「万手」は長沼氏の作品です。

3 七代目宇治 紫文（箏曲家）
1933～



名誉市民第3号（平成11年6月25日）

高野町に生まれました。（本名：梅津ふじ）昭和19年に、ヤマダ流箏曲家元の中田博之氏に師事。昭和39年からは古曲一中節宇治派家元六世の宇治紫文に学び、昭和57年と59年に文化庁芸術祭優秀賞を受賞されました。

その後、平成3年に一中節宇治派家元、七世宇治紫文を襲名されるとともに、財団法人古曲会理事に就任。平成9年には、紫綬褒章を受章され、平成11年6月、重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定、平成15年には、旭日中綬章を受章されています。平成26年度の市制60周年記念式典、平成29年フラワー都市交流連絡協議会総会の長井市開催に際し公演していただきました。

著名人

1 横山 孫助（政治家）

1864～1929



元治元年（1864）4月、旧長井町四ツ谷にある、江戸時代から蚕種問屋を営む旧家に生まれた横山孫助は、町長、郡会議員、県会議員などをつとめ、政治家としてはもちろん、企業家としても教育界においても長井の発展に尽力した人です。

その功績を讃え、長井町名誉町民として表彰し、昭和5年9月に長井町役場玄関前に銅像が建立されました。その後、昭和33年11月に町村合併により、市役所に移されましたが、昭和53年に孫助翁が原形を造り上げた白つつじ公園に移され、今に至っています。

2 上村 辰五郎（実業家）

1888～1972



小出本町の書籍文具店に生まれました。15歳から20歳まで見習い奉公に出て、厳しいしつけを受けたといわれています。奉公満了後は書籍文房具卸小売業に従事しました。

大正3年（1914）11月の長井線開通にあたり、鉄道貨物運輸業を開業。大正から昭和にかけ、長井市第一号の大手の工場誘致に尽力し長井の産業の発展に貢献しました。

3 菅原 白龍（南画家）

「白龍山人菅原先生の碑」は、昭和35年11月3日に建設されました。菅原白龍は、天保4年（1838）に当時の豊田村時庭で生まれました。青年期には、画学修行で全国を巡り、やがて、「明治南宗画壇の先駆者」とよばれました。シカゴ博覧会（1893）で銅牌を受賞した「黄金井春霽」と、「日光瀑布図」は、市の文化財に指定されています。白龍は、数多くの作品を残していますが、詩、書、画を兼ね備えた画家でもあり書家でもあり、たぐい稀な存在といわれています。

4 川崎 玄子（俳人）

「三の内　一つ小さし　初茄子」

川崎玄子は寛政10年（1798）小出の旧家川崎家に生まれました。若い頃から小出の俳人竹田太橘の指導を受け、後に20余年ほど全国を行脚し、俳諧の修行をしたといわれています。故郷に帰り、幕末から明治にかけ置賜俳壇の第一人者として崇められました。

松ヶ池公園に句碑があり、碑のある所は隠居住まい「桃崗庵」の跡とされています。

5 横山 八次（政治家）　1892～1976

本町の歯科医院の家に生まれました。歯科医、郵政マン、地方政治家として長井市の繁栄に力を注ぎました。後に、郵政関係のノーベル賞ともいわれる「前島賞」を受賞しました。

また、鉄道敷設運動については、長井線・米坂線の分岐点が今泉に決まったことや、東芝長井工場誘致、管野ダムの実現に尽力しました。

6 中山 きりを（俳人）

「定年の　法服たたむ　花胡桃」

中山きりをこと中山悟郎は、昭和32年から12年間、長井簡易裁判所判事として勤めました。そのかたわら「きりを」と号して俳句を嗜みました。松ヶ池公園にある碑の句は、裁判官退職の偶感を詠んだものといわれています。

句集「ながゐ」につぐ第2句集「氷滴」により、山形県俳人協会より顕彰されました。

日本一認定

長井市日本一の認定は、本市における日本一のものを奨励し、栄誉を称えています。これにより、全国に誇れる活力あるまちづくりを推進することを目的としています。

■認定第1号　初代名誉市民　孫田秀春博士　平成2年12月8日認定

大正13年、日本で最初の労働法講座を東京商科大と法政大に開設した。

■認定第2号　気象観測と河川水温水量調査　平成2年12月8日認定

平山の渋谷正吉氏は、明治34年以来の気象観測を親子二代にわたって継続し、ことに野川の流水温調査は世界に例のない長期的なものである。

■認定第3号　ランタン・リ初登頂　平成2年12月8日認定

昭和56年、岳人長井のパーティはネパール、中国国境にまたがる未踏峰ランタン・リ峰(7,239m)の初登頂に成功した。

■認定第4号　競技用けん玉生産　平成2年12月8日認定

寺泉の鈴木與三郎氏は、昭和50年から競技用けん玉づくりに取り組み、全国生産量の7割を生産している。

■認定第5号　択里志の楽土　平成2年12月8日認定

韓国の地理書「択里志」が説く楽土の地理的条件に、長井市地域が適合している旨の研究が発表され、本市が居住適地であることが証明された。

■認定第6号　不伐の森条例　平成2年12月8日認定

平成元年に制定施行された「長井市不伐の森条例」は、日本初の条例で、世界的に大きな反響を呼んだ。

■認定第7号　全国高等学校総合体育大会 女子100m障害競争　優勝　平成4年10月20日認定

平成4年度全国高等学校総合体育大会の陸上女子100m障害競走で、宮原地区出身の土屋恵さんが、13秒67の高校日本新記録で優勝。

■認定第8号　全国ホープス卓球大会　優勝　平成5年10月20日認定

平成5年に開催された財団法人日本卓球協会主催の第11回全国ホープス卓球大会で、長井南卓球スポーツ少年団が優勝。

■認定第9号　国土緑化運動標語　全国特選　平成6年10月1日認定

国土緑化推進機構が募集した、平成6年度国土緑化運動標語に応募した小学生　梅津太郎君の作品が全国特選に選定された。作品名「植えよう　ふやそう　未来の緑」

■認定第10号　国民体育大会秋季大会ビームライフル　平成7年11月3日認定
少年立射40発の部　優勝

平成6年に愛知県で開催された第49回国民体育大会秋季大会ビームライフル少年立射40発の部で、片田町出身の吉田麻希子さんが優勝。

■認定第11号　JOCジュニアオリンピックカップ全日本卓球選手権大会　平成7年11月3日認定
カデットの部男子ダブルス　優勝

JOCジュニアオリンピックカップ平成6年度全日本卓球選手権大会(カデットの部)男子ダブルスで、長井南中学校の青木大輔君、田勢(たせい)邦史君のペアが優勝。

■認定第12号　全国中学校体育大会全日本中学校陸上競技選手権大会　平成8年10月4日認定
女子100m競走　優勝

平成8年度全国中学校体育大会第23回全日本中学校陸上競技選手権大会女子100m競走で、長井北中学校の五十嵐陽子さんが12秒90のタイムで優勝。

■認定第13号　日本学生陸上競技対抗選手権大会　平成8年10月4日認定
女子400m障害競走　優勝

平成8年に開催された第65回日本学生日本学生陸上競技対抗選手権大会女子400m障害競走で、宮原出身の土屋恵さん(東京学芸大)が59秒62のタイムで優勝。

■認定第14号　全国高校総体卓球競技　男子ダブルス　優勝　平成10年10月6日認定
男子学校対抗　優勝

香川県で開催された平成10年度全国高校総体卓球競技で、館町北の田勢邦史君(青森山田高校)が、男子ダブルス、および学校対抗で優勝し、2冠を獲得。

■認定第15号　銀行業務検定税務3級試験　団体最優秀賞　平成10年10月6日認定

銀行業務検定協会の平成9年度銀行業務検定試験税務3級部門で、山形中央信用組合が団体最優秀賞を受賞。

■認定第16号　少年の主張全国大会　内閣総理大臣賞　平成10年12月1日認定

平成10年に開催された社団法人青少年育成国民会議が主催する第20回少年の主張全国大会で、長井南中学校の鈴木智恵さんが最高賞の内閣総理大臣賞を受賞。

■認定第17号　全国高校総体卓球競技　男子ダブルス　優勝　平成11年10月7日認定
男子学校対抗　優勝

平成11年度全国高校総体卓球競技で館町北の田勢邦史君(青森山田高校)が、主将としてダブルス、および学校対抗で優勝し2冠を獲得。とくにダブルスでは、連覇を達成。

■認定第18号　全国自作視聴覚教材コンクルール　文部大臣賞　平成12年12月22日認定

社団法人日本視聴覚教育協会が主催する「平成12年度全国自作視聴覚教材コンクール」で、長井めぐみ幼稚園の園長である猪俣美喜子さんが、最高賞の文部大臣賞を受賞。

■認定第19号　民謡民舞全国大会　内閣総理大臣賞　平成13年11月3日認定

財団法人日本民謡協会が主催する「平成13年度民謡民舞全国大会」民謡の部で、「酒田船方節」を唄った日の出町の井上千春さんが最高賞の内閣総理大臣賞を受賞。

■認定第20号　日本民謡フェスティバル　グランプリ　平成14年11月3日認定

平成14年に開催された財団法人日本民謡協会が主催する「第15回日本民謡フェスティバル」で、「酒田船方節」を唄った日の出町の井上千春さんがグランプリを受賞。

■認定第21号　心の和を広げる体験作文中学生部門　内閣総理大臣賞　平成15年1月23日認定

内閣府などが主催する「平成14年度心の和を広げる体験作文」中学生部門で、長井南中学校の高橋桃恵さんが最高賞の内閣総理大臣賞を受賞。

■認定第22号　日本知的障害者水泳選手権大会　平成16年11月3日認定
50m背泳ぎ、100m背泳ぎ　優勝

平成16年に横浜で開催された2004年日本知的障害者水泳選手権大会で花作町の遠藤竜大君が50m背泳ぎの部で33秒45、100m背泳ぎの部で1分14秒00の日本新記録を樹立し優勝。

■認定第23号　「全国米・食味分析鑑定コンクール　平成17年11月3日認定
どまんなか・はえぬき部門」金賞受賞

平成16年11月に熊本県で開催された第6回全国米、食味分析鑑定コンクール(米、食味鑑定士協会主催)のどまんなか、はえぬき部門で、時庭の遠藤孝太郎さんが最高賞の金賞を受賞。

■認定第24号　「第35回日本農業賞　特別部門　第2回食の架け橋賞」　平成18年11月3日認定
大賞受賞

日本放送協会、全国農業協同組合中央会、都道府県農業協同組合中央会主催、第35回日本農業賞の特別部門「第2回食の架け橋賞」において、長井市レインボープラン推進協議会が最高賞の大賞を受賞。

■認定第25号　「第4回けん玉ペインティングコンテスト」　平成18年11月3日認定
文部科学大臣賞受賞

NPO法人　日本けん玉協会主催、第4回けん玉ペインティングコンテストで、豊田小学校2年の前司貴迪君が、最高賞の文部科学大臣賞を受賞。

■認定第26号　「第27回ホームソーイング作品コンクール」　平成19年11月3日認定
経済産業大臣賞受賞

社団法人　日本縫製機械工業会主催、第27回ホームソーイング小、中、高校生作品コンクールの小学生の部で、致芳小学校6年の菊地茜さんが、最高賞である経済産業大臣賞を受賞。

■認定第27号　オペラ「ゼッキンゲンのトランペット吹き」日本初演　平成19年11月3日認定

姉妹都市であるバート・ゼッキンゲン市を舞台にしたオペラ「ゼッキンゲンのトランペット吹き」が、長井市において、日本で初めて上演され、世界に向けて文化メッセージを発信した。

■認定第28号「平成19年度全日本卓球選手権大会」混合ダブルス優勝　平成20年11月3日認定

平成20年1月に開催された「天皇杯、皇后杯　平成19年度全日本卓球選手権大会」の混合ダブルスで、長井市出身の田勢邦史さんが、奥様の美貴江さんとペアを組み、優勝。

■認定第29号　第25回技能グランプリ　表具職種　全国第一位　平成21年11月3日認定

平成21年3月に開催された第25回技能グランプリにおいて、表具職種部門で台町の四釜武さんが全国第一位を獲得。

■認定30号　第3回ものづくり日本大賞文部科学大臣賞受賞　平成21年11月3日認定

平成21年7月第3回ものづくり日本大賞文部科学大臣賞受賞を山形県立長井工業高等学校が受賞。

■認定31号　第19回全国花のまちづくりコンクール　平成22年11月3日認定
花のまちづくり大賞　国土交通大臣賞

平成21年10月に開催された、第19回全国花のまちづくりコンクールにおいて、五十川の遠藤かつゑさんが、花のまちづくり大賞国土交通大臣賞を受賞。

■認定32号　第5回ソフトテニスジャパンカップ　平成23年11月3日認定
U-14　ダブルス男子の部　優勝

平成22年11月に開催された、第5回ソフトテニスジャパンカップにおいて、長井北中学校の斎藤佑介さんが、U-14ダブルス男子の部で優勝。

■認定33号　JOCジュニアオリンピックカップ全日本卓球選手権大会　平成26年11月3日認定
カデットの部男子ダブルス　優勝

平成25年11月に開催されたJOCジュニアオリンピックカップ平成25年度全日本卓球選手権大会(カデットの部)男子ダブルスで、館町北の五十嵐史弥君(青森山田中学校)が優勝。

■認定34号　2014全日本型競技空手道選手権大会　平成26年11月3日認定
15歳～34歳女子の部　優勝

平成26年8月に開催された国際空手道連盟極真会館主催2014全日本型競技空手道大会15歳～34歳女子の部において、館町南の髙橋円香さん(米沢中央高校)が優勝。

■認定第35号　第23回全国産業用無人ヘリコプター飛行後術競技大会　平成27年11月3日認定
対面飛行の部　優勝

平成26年10月に開催された第23回全国産業用無人ヘリコプター飛行技術競技大会対面飛行の部において、九野本の青木亮介さん、宮原の工藤満さんチームが優勝。

■認定第36号　けん玉ギネス世界記録達成　平成28年11月3日認定

種目「連続してけん玉をキャッチした人の最長の列（通称：長井式大皿ドミノ）」で114人の連続成功を成し遂げ、ギネス世界記録に認定された。

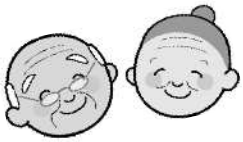
■認定第37号　「第55回技能五輪全国大会　洋裁競技」　金賞受賞	平成30年11月3日認定
全国の23歳以下の若手技能者が、ものづくり技術を競う第55回技能五輪全国大会「洋裁競技」において、清水町の佐藤由菜さんが、最高賞の金賞を受賞。	
■認定第38号　「第16回けん玉ペインティングコンテスト」　文部科学大臣賞受賞	平成30年11月3日認定
公益社団法人日本けん玉協会主催の第16回けん玉ペインティングコンテストで、長井小学校5年生の小林ことねさんが、最高賞の文部科学大臣賞を受賞。	
■認定第39号　「2018ジャパンパラ水泳競技大会」100m自由形クラスS　優勝	平成30年11月3日認定
横浜国際プールで開催されたWorld Para Swimming公認2018ジャパンパラ水泳競技大会100m自由形クラスS3で、歌丸の佐藤博輝さんが2分42秒59のタイムで優勝。	
■認定第40号　「第23回日教弘教育賞」　最優秀賞受賞	平成30年11月3日認定
公益財団法人日本教育公務員弘済会主催の公募論文において、長井南中学校の論文「子どもの学びの姿から考える探究型の授業づくり～全職員で取り組む学校研究体制の構築を通して～」が全国で最優秀賞を受賞。	
■認定第41号　「全国初鉄道駅と一体型の長井市庁舎の開庁」	令和3年11月3日認定
令和３年５月に山形鉄道「フラワー長井線長井駅」の駅舎と一体型の市役所新庁舎が開庁。全国初の鉄道駅と一体型の庁舎として、報道され反響を呼んだ。	
■認定第42号　「全日本中国語スピーチコンテスト全国大会　日中友好協会会長賞」	令和4年11月3日認定
公益社団法人日中友好協会が主催する「第 39 回全日本中国語スピーチコンテスト全国大会」で、泉出身の松木裕花さんが最高賞の日中友好協会会長賞を受賞。	

2 文化財

総計					市指定				登録有形文化財	県指定		国指定	国指定	指定別
１００					８０				９	８		２	１	件数
天然記念物（２２）	史跡（１５）	無形文化財（８）	有形文化財（５４）	重要文化的景観（１）	天然記念物（２０）	史跡（１５）	無形文化財（７）	有形文化財（３８）	登録数９件　２７棟	無形文化財（１）	有形文化財（７）	天然記念物（２）	重要文化的景観（１）	種別（内訳）
（登録有形文化財含む）									建造物					備考

３ 方言

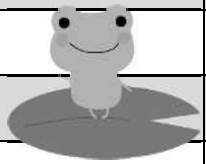
No	単　語	説　明	使　用　例
1)	あいべ	行こう。	「お祭りさ、わらわらアイベ」
2)	あざぐ	さぐること。	「机を勝手にアザグな」
3)	あぐだい	悪口。	「アグダイかだり」
4)	あれっぱり	あんなに少し。	「アレッパリでおわりだ」
5)	あまいぇ	いいよ。	「これちょうだい」「アマイェ～」
6)	いがんべ	よいだろう。	「このぐらいで、イガンベ」
7)	いだまし	おしい。もったいない。	「まだ使われるのにイダマシなぁ」
8)	いまっと	もっと。	「イマットおかわり」
9)	うがい	多い。	「今年の雪は、ウガイ」
10)	うるがす	ひたす。	「豆を一晩ウルガス」
11)	おがる	大きくなる。成長する。	「あっという間に、オガルもんだな」
12)	おしょうしな	ありがとう。	「お土産、オショウシナ」
13)	おっかげる	追いかける。	「あどで、オッカゲル」
14)	おぼご	こども。	「いつまでたっても、オボゴだな」
15)	おらんだ	私たち。	「昔、オランダはよぐ遊んだよなぁ」
16)	がってしね	屈しない。	「寒くてもガッテシネでいったはぁ」
17)	かます	かき混ぜる。	「風呂のお湯をカマス」
18)	かんじる	冷え込む。	「今朝は、カンジルね」
19)	かんぶっちゃ	かびる。腐る。	「この餅、カンブッチャ」
20)	ぎっぎど	強引に。強く。	「ギッギド手をひっぱんな」
21)	くたま	めんどう。	「雪片づけは、クタマだ」
22)	けっぽる	蹴る。	「ボールをケッポル」
23)	ごしゃぐ	怒る。	「悪いごどしたら、ゴシャグぞ」
24)	このげ	まゆ毛。	「立派なコノゲのおぼごだごど～」
25)	こちょがす	くすぐる。	「足の裏をコチョガス」





No	単　語	説　明	使　用　例
26)	しゃえっこ	お節介。	「シャェッコだごで～」
27)	じゃみる	泣き叫ぶ。だだをこねる。	「朝からジャミで、こまってだ」
28)	しゃっこい	冷たい。	「水仕事で、手がシャッコイ」
29)	しょうしい	恥ずかしい。	「みんなの前で、ショウシイ～」
30)	じょさね	簡単だ。	「ジョサネ仕事だった」
31)	しょむ	しみる。	「水が傷にショム」
32)	そじる	いたむ。	「屋根もソジデきたな」
33)	たがぐ	持つ。	「米袋をタガグ」
34)	だって	(気分的に)嫌な。	「ダッテ雨だな」
35)	ちゃいちゃい	いい気になって。	「チャイチャイて前さ出る」
36)	とがい	遠い。	「学校まで、トガイ」
37)	なげる	捨てる。	「このゴミ、ナゲデけろ」
38)	なじょだべ	どうでしょうか。	「この味で、ナジョダベ？」
39)	ねっちょ	辛抱強いこと。	「ネッチョに頑張ってだな」
40)	びっき	カエル。	「窓さ、ビッキいだ」
41)	ぶじょほな	失礼しました。	「遅れて、ブジョホナ～」
42)	ほだなが	そうなのか。	「明日、台風だど」「ホダナガ」
43)	ぼっこっちゃ	壊れた。	「パソコンが、ボツコッチャ」
44)	みくさい	みっともない。見苦しい。	「ミクサイ恰好だ」
45)	めんごい	かわいい。	「メンゴイ、おぼごだな」
46)	もごさい	かわいそうな。	「寒くて、モゴサガッタな～」
47)	やんだ	いやだ。	「ヤンダぐなった」
48)	わっさ	いたずら。	「ワッサしてんなよ」
49)	わにる	人見知りをする。	「ワニル、おぼごだ」
50)	わらわら	早く。急いで。急ぐさま。	「ワラワラ、行がねど遅刻だ」







4 地域の工芸

1 長井紬

養蚕は、江戸時代初期から行われていましたが、主に生糸などの原料を輸出していました。上杉鷹山公の殖産興業政策の下、縮布を生産したのが始まりです。縦糸は生糸、横糸は真綿から紡いだ糸で生産されました。原料の繭の生産では、江戸時代末期から昭和時代かけて置賜地方が県の主要産地であり、その中でも長井市、白鷹町が主産地でした。明治の中ごろになると、長井紬は全国的に知れ渡るようになり、昭和51年には、長井紬を含めた「置賜紬」として、通産大臣指定の「伝統的工芸品」に認められました。



2 けん玉

昭和48年ごろ、コマやダルマ落しといった木地玩具をつくり始めたのが発端です。そして、昭和50年に日本のけん玉協会が設立されると同時に、競技用けん玉（日本けん玉協会公認）を作り始めました。競技用けん玉は、民芸品と違って、飾りが少なく、1㎜の誤差も許されないほど厳しい規格があります。そのため、機械やつくり方を研究開発し、独自の技術でつくり出したのが、長井のけん玉です。



3 金井神ほうき

金井神ほうきは、江戸時代後期、米沢から左沢へ行く行商人から、「もろこし箒」つくりの技法と、その種子を金井神地区の人に伝えたのが始まりです。「座敷3年、玄関3年、外3年」といわれ、合せて9年も使えるのが金井神ほうきの自慢です。現在でも多くの人に愛用されています。



4 陶芸 成島焼 和久井窯

市指定無形文化財

成島焼は、米沢藩中興の祖「上杉鷹山公」が藩財政を支えるため、殖産興業政策の一環として今から約230年前、家臣の相良清左エ門に相馬焼を学ばせ、米沢市の成島に窯を築かせたものです。絢爛豪華な絵付けは用いられず、海鼠釉、黒釉と窯の焼成によって生じる窯変だけで作品を仕上げるのが特徴です。これは質実剛健を重んじた、上杉氏の気風を反映しているといわれています。藩の経済安定に大きな役割を果たした成島焼きは、明治中ごろまで焼き続けられましたが、その後、瀬戸物におされるなどの諸事情により廃窯となりました。和久井窯初代の和久井富二夫氏は、昭和40年に今泉で「長井焼き」を始めましたが、米沢の有力者や文化人から幾度も米沢藩の「成島焼」の再興、復興の依頼と協力を求められ、復興に向けた研究活動に10年の歳月をかけ成島焼を蘇らせました。平成22年1月には成島焼和久井窯が長井市市技芸に指定され、和久井富二夫氏が市技芸の保持者として認定されました。また、令和2年1月には、二代目の和久井修氏が市技芸の保持者として認定されました。



5 獅子頭彫

獅子頭には、主に柳の木を使用します。丸太から大きく荒彫りし、陰干しをして半年ほど乾燥させます。1ヵ月ほどかけて彫刻し、再び乾燥させた後、塗りが施されて完成します。

製作期間は約3年ですが、神社に渡し黒獅子舞に使用できるまでには、さらに約1年の養生期間が必要です。獅子頭は各神社によって目や眉毛などに違いがあり、その面持の特徴を見るのも楽しみのひとつです。



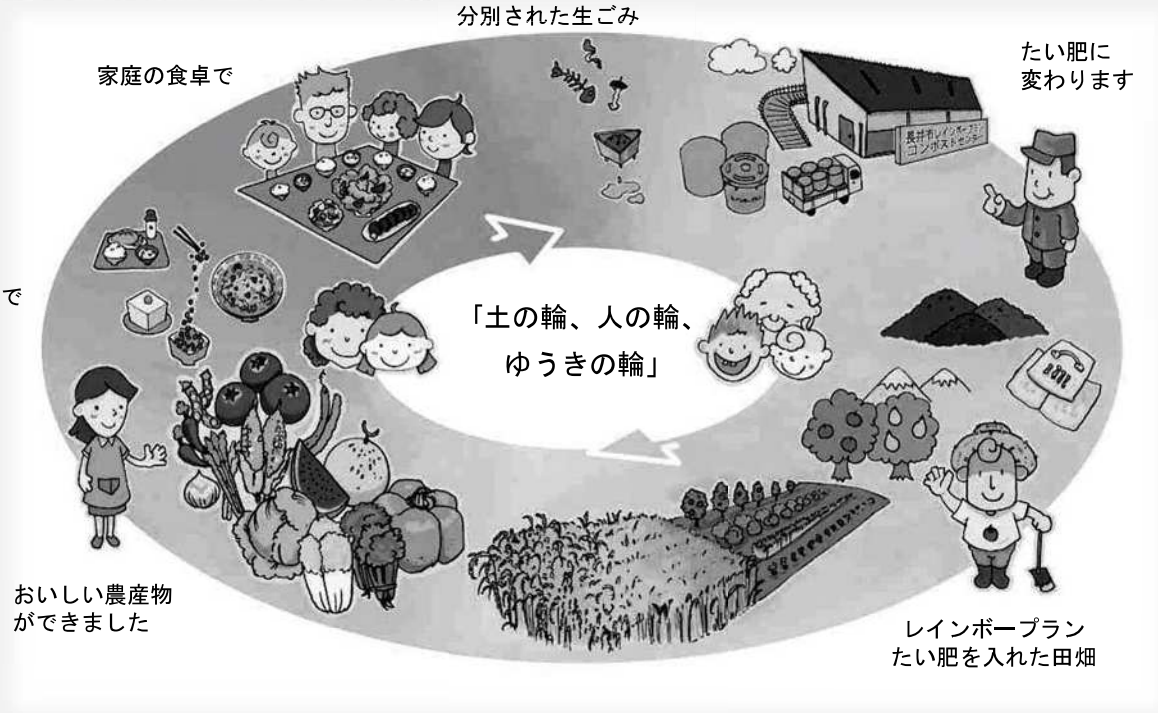
黒獅子頭は、獅子舞用と飾り用があり、一般の家庭でも厄払いのシンボルとして飾られています。

5 レインボープラン

1 みんなでつくる循環型地域

長井市では、域内の有機資源を仲立ちとした循環型まちづくり「レインボープラン」に取り組んでいます。市街地の家庭で丁寧に分別された生ごみは、貴重な資源としてコンポストセンターで良質のたい肥に生まれ変わり、市内の農地の土づくりに利用されます。たい肥の入った農地でつくられた農産物は、地元スーパーや直売所へ届けられ、市民の食卓に並びます。そして、生ごみは再び資源として活用され、食と農の循環を構築しています。

レインボープランの地域内循環



2 安心な食は土づくりから

レインボープランのたい肥を使って土づくりを行い、さらに化学由来の農薬や肥料を減らして栽培された農産物に、レインボープラン農産物の認証マークを付けています。

市民の手によって支えられている安心安全な農産物は、新鮮なうちに店頭に並びます。



3 広がるレインボープランの輪

レインボープラン農産物は、市内の学校給食でも使用されているほか、特産品づくりにも活かされ、レインボーラーメンやレインボー野菜スイーツなど好評を得ています。

また、レインボープランをきっかけに国内外から多くの人々が長井市を訪れています。食と農、人と人、現在と未来をつなぐ、循環の輪はどんどん広がっています。





6 郷土の野菜・ご当地の味

1 ふきのとう味噌

春の訪れを知らせるふきのとうは、豪雪地帯に住む者としては厳しい冬を乗り越えた季節に出会える、有難い存在です。独特の香りと苦みのあるふきのとうですが、味噌と合わせることで食べやすくなります。ふきのとうを塩茹でし、細かくみじん切りした後、味噌、砂糖、酒を加えて和えます。好みで、すったくるみを入れます。温かいご飯によく合う一品です。



2 棒鱈煮（ぼうだらに）

棒鱈は、鮮魚が手に入りにくい内陸地方の貴重なタンパク源となっています。柔らかく煮上がるまで時間がかかり、手間のかかる一品です。

水に一晩つけた棒鱈を煮立たせ、気長に柔らかくなるまで煮込みます。翌日、鍋に火をかけ、酒、砂糖、醤油で2～3時間くらい中火で煮込み、火からおろしたら一日くらいおき、味を含ませてできあがります。お祝い事やお盆の際に振舞われます。



3 クルミ寒天

刻んだクルミを使った寒天です。寒天に砂糖、塩を入れ煮立たせ、クルミを入れてザルでこし、型に流し固めます。おばあちゃんがつくってくれた素朴なお茶菓子です。お祝い事など、親戚の集まりのときにもよく使われます。



4 じんだん和え

じんだんとは、枝豆をゆでて鞘（さや）から出したものをすりつぶしたものです。枝豆をすり鉢でペースト状になるまですりつぶし、砂糖、塩少々を加え、茄子やきくらげ、いんげん、里芋などと和えます。また、餅と絡めてじんだん餅にもできます。



5 おみ漬け

昔は青菜の葉先の部分を捨てていたのですが、それを見た近江の人が、もったいないので余った野菜くずなどを無駄にしないように漬け物にしたのが始まりといわれ、それを近江商人が伝えたので「近江（おうみ）漬」→「おみ漬」とよばれるようになったといわれています。青菜(高菜)、人参、大根の入ったおみ漬けは、色どりもあざやかで、食卓に華を添えます。1cmに切った青菜と、せん切りにした人参、イチョウ切りにした大根を塩で一昼夜漬け、翌日水で洗い、水気を切ったら、砂糖、しょうゆ、焼酎をふりかけ全体に混ぜ込みます。



6 薄皮丸なす漬け

薄皮丸なすは、古くから置賜地方で生産されてきた在来野菜の一つです。濃い紫色が鮮やかで、皮が薄く、漬けるとパリッとした食感が楽しめます。

塩、砂糖、みょうばん、水を煮立てて冷ましたら、へたを取ったなすと一緒に、瓶などの容器に入れます。青南蛮を入れ、一晩常温でおき、それから冷蔵庫に入れると綺麗ななす色の漬物ができあがります。



7　冷や汁

置賜地方の代表的な郷土料理です。汁物ではなく、浸しものの一種です。旬の野菜を2～3種とりあわせ、干し貝柱や干し椎茸の戻し汁でつくっただし汁と醤油みりんで混ぜ合わせ、打ち豆を加えます。貝柱や椎茸のうまみがギュッと詰まっており、打ち豆や野菜との相性抜群です。打ち豆は、大豆をつぶして乾燥したもので、古くからタンパク源として重宝されてきました。火が通りやすく調理しやすいことから、さまざまな料理に使われています。



8　行者菜（ぎょうじゃな）

昔、修験者が荒修行の際、精力をつけるために食べたといわれる希少な山菜「行者にんにく」を手軽に食べることができるように開発された、新しい野菜が「行者菜」です。行者にんにくをニラと交配することで収穫時期の長い、栄養価の豊富な行者菜が登場しました。滋養強壮によく、ビタミン類も豊富です。餃子や炒め物のほか、洋風和風など幅広い料理に使えます。



9　秘伝豆（ひでんまめ）

「秘伝豆」は、山形県の限られた地域でつくられている稀少な青豆です。大豆のなかでも、粒がとりわけ大きい品種で、「香り、甘み、大きさ、張り」どれも素晴らしいので、秘伝豆と名づけられました。枝豆や大豆としても食べられます。



枝豆としての収穫時期は9月。それ以外の時期は、ひたし豆、秘伝豆腐、秘伝味噌、豆乳に利用されています。

10　馬のかみしめ

豆の表面に馬が咬（か）んだような跡があることから、「馬のかみしめ」といわれるようになり、一時は途絶えた品種だといわれていました。しかし、一部の農家が種を保持していたことから、近隣の農家と協力し栽培量を増やしていきました。枝豆や大豆としても食べられます。枝豆としての収穫時期は、9月下旬から10月上旬。味が濃く、噛めば噛むほど味わいが増す大豆で、加工品にした時のおいしさは茶豆にも勝るといわれ、味噌や納豆、豆腐、お菓子にも利用されています。



11　白和え（しらあ）

白和えは、豆腐でつくった和え衣に色々な食材をあわせる料理です。

茹でた豆腐を布巾で水を切り、すり鉢でクルミをすり、そこに豆腐、砂糖、塩を入れて味付けをしたきくらげや柿などと、糸こんにゃくを和えます。



12　イナゴの佃煮（つくだに）

イナゴはバッタ科の種類で、稲を食べる害虫とされています。また、水田から得られる貴重なタンパク源として昔から食用とされてきました。置賜地方では、主にイナゴを佃煮にして食べてきました。捕ってきたイナゴを布袋に入れて熱湯で茹で、洗ってほこりを取り除いたら、砂糖、しょう油、酒で一時間ほど煮込みます。



13 花作大根（はなづくりだいこん）

花作大根の歴史は古く、上杉藩時代から長井市花作地区で栽培されてきた漬物用の大根として伝えられています。独特の歯ざわりと長期保存が可能なことから重宝されてきました。

根部は、円筒形または徳利形をしており、一般の大根の約1/3の大きさです。辛味が強く、また漬物にすると軟化しにくく、パリパリ感が失われにくいため、古漬けなど長期間保存に適しています。



14 食用菊

秋の味覚として古くから食べられており、郷土の味として親しまれてきました。

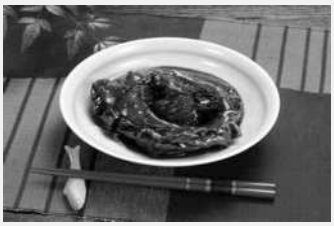
黄色品種、紫色品種があります。ガクをつまみ、花びらを引き抜き、沸騰したお湯に酢を少々加えて、菜箸でゆっくり 2～3 回ほどかき混ぜ茹でます。ザルにあげて水気を取り、お浸しにします。ほかにも、天ぷらなどでも食します。



15 鯉の甘煮（こいのうまに）

鯉は、内陸の置賜地方に伝わる貴重な水産資源で、上杉鷹山が米沢城の堀で育てたのがはじまりといわれています。鯉料理の中でも甘煮は、お祝い事には欠かせない、とっておきのごちそうとされています。

筒切りにした鯉を砂糖、酒、醤油を加えて、じっくり煮込んだシンプルな料理です。さらに、圧力鍋を使って煮込むと骨までやわらかくなり、まるごと食べられるようになります。



16 みそ餅

みそ餅は、もち米に味噌、くるみ、ごま、青豆、砂糖などを加えてつくる「切り餅」です。寒い冬、ストーブや囲炉裏で香ばしく焼いて食べられています。豪雪地帯ならではの、お腹も気持ちも暖かくなる郷土料理です。



17 大石の凍み豆腐（しみどうふ）

伊佐沢の大石地区で、冬の寒さを利用してつくられています。かつて、主要な街道沿いの集落であったこの地区で、事故にあった旅人が、助けられた恩返しに教えたことから始まったといわれています。明治の頃、峠の茶屋に置き旅館で扱ったところ、評判になり、大石の名産となりました。



18 ぜんまい煮

春にとれたぜんまいは、茹でて天日干しにし、野菜の少ない冬期間の保存食として利用されています。戻したぜんまいと油揚げ、糸こんにゃくや人参などを入れ、だし汁と砂糖、酒、醤油で煮込みます。ぜんまい煮は、正月料理にも振舞われます。



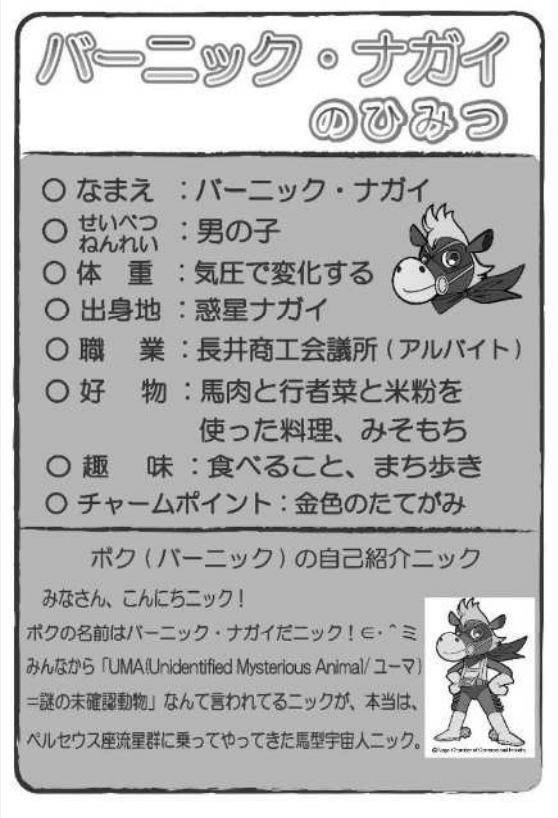
19 豆煮(煮豆)

昔ながらの惣菜の定番の豆煮。豆の品種と火加減によりつくる時間が異なります。水に砂糖、しょう油、塩を煮立て、豆とタンサンを入れ、一晩おき弱火で汁がなくなるまで煮ます。長井では、郷土料理として親しまれています。



7 バーニック・ナガイ～馬肉食文化～





1 なぜ馬肉なのか

山形県長井市には、古くから馬肉食文化が根付いており、熊本、会津若松など馬肉食文化を持つ地域は数多くありますが、「馬肉チャーシュー」を日常的に食べている地域は山形県長井市だけです。市内のラーメン店では、60年以上も前から馬肉チャーシューラーメンが提供されています。

その、全国的にも珍しい馬肉食文化を広めようとして登場したのが「バーニック・ナガイ」です。馬肉以外でも、長井市内の観光や地場商品の応援、ＰＲをしています。

2 長井市の馬肉の歴史

なぜ、長井市に馬肉食文化が根付いているかには諸説あり、江戸時代に獣肉食が禁忌とされていたため、その文献など資料も不足していますが、かつての長井市は、馬の一大産地であったとの史実が残っています。

“置賜地方は平安末期に馬・漆・布の産地だったということになる。（中略）江戸時代の文政10年(1827)の記録では、長井市内で993頭の馬がいた。江戸時代には宮、小出にも馬市がたち、藩の奨励もあって馬頭観音への信仰は高まり、「馬の祭り」も栄えた”

（竹田市太郎著「長井の歴史物語」より抜粋）

最上川と越後街道を結ぶ「馬街道」が、現在でも市道名として残っています。昭和に入り、草競馬や屠殺場があったことで、馬肉食文化が現代まで普及しているとの話もありますが、いずれにしても、最上川舟運文化と切っても切れない関係にあるのが、長井市の馬肉の歴史といえます。



平成24年に、8月29日を全国で初めて「ながい馬肉の日」に制定してから、長井市内では、ますます馬肉食文化が盛んになりました。

馬肉を使った加工品



長井市では、古くから馬肉食文化が根付いており、全国的にも珍しく馬肉チャーシューを日常的に食べています。馬肉は、豚肉や牛肉と比較して、鉄分、グリコーゲンが多く含まれています。そのため、女性に多い貧血に効果があるといわれています。

チャーシューのほかに、馬肉の入った「さくらフランク」など、さまざまな加工品があります。毎年8月29日は、馬肉の日として盛り上げています。



1　馬肉ラーメン



長井市といえば馬肉ラーメンです。馬肉食文化が長井に根付いた理由は、草競馬場があったことや、山間の斜面に田畑をつくる際に、牛よりも力がある馬が重宝されたことがあげられます。

それぞれのお店が持つ個性的な味には、何回も食べたくなる魅力があります。

2　馬肉ラーメン肉まん

長井の人々がこよなく愛する“馬肉”。郷土の味といえば「馬肉ラーメン」です。長井市雇用創造協議会が行っている「馬肉を活かした商品開発事業」の中で、異業種の有志一同が試行錯誤を重ね、平成26年8月に誕生したのが「馬肉ラーメン肉まん」です。

ポイントの頭に乗った“なると”はもちろん、ラーメンの具材である馬肉チャーシュー、麺、メンマ、ねぎが入って一口食べれば納得の味！まさに、片手で食べる「馬肉ラーメン」です。一つ一つ手づくりのモチフワな皮と、ジューシーな具材のコラボレーションを堪能できます。



長井の新名物だニック！
おいしいニック～！



参考文献

・出版物

書籍名	著者	発行年	発行元
『新しい社会歴史』	東京書籍株式会社	2012	東京書籍株式会社
『行者菜レシピ』	小野紀代子	2009	長井行者菜生産グループ
『長井古種花菖蒲図録』	長井市商工観光課	2010	長井市観光文化交流課
『長井市史』1巻～4巻	長井市史編纂委員会	1985	長井市
『長井市史』1巻	長井市史編纂委員会	2019	長井市
『長井ダム周辺環境整備計画「実施計画」報告書』	長井ダム周辺環境整備連絡協議会	2004	長井ダム周辺環境整備連絡協議会
『長井の文化財』	長井の文化財編集委員会	2014	長井市・長井市教育委員会
『長井の文化財一覧』	長井文化財保護協会	2019	長井文化財保護協会
『最上川舟運資料2 川地図で見る長井の舟場』	安部義彦	2011	長井市かわまちづくり推進協議会
『山形県神社誌』	山形県神社庁五十周年記念事業実行委員会	2000	山形県神社庁
『山形県の寺院(内陸版)』	大場貞一	1977	東北総合出版社

・WEBサイト

置賜三十三観音札所会	http://www.okitamakannon.com/
長井市観光ポータルサイト	http://www.kankou-nagai.jp/
長井ダム水源地域ビジョン推進会議	http://www.kiyokimizu.jp/
日本の歴史　日本史年表	http://www.papy.in/rekishi/nihon/
やまがたアルカディア観光局	https://arcadia-kanko.jp/

・協力

山形県置賜総合支庁	山形県立博物館	長井商工会議所
長井文化財保護協会	長井市中央史談会	文教の杜ながい
やませ蔵	レインボープラン推進協議会	（一財）置賜地域地場産業振興センター
山形鉄道株式会社	長井市観光協会	（一社）やまがたアルカディア観光局
（一社）山形県ハイヤー協会	ながい黒獅子の里案内人	旧長井小学校第一校舎
長井市教育委員会	長井市	

索引-INDEX-

あ
青苧 56
青苧蔵門 73
朝日軍道 76
朝日連峰 25
芦沢観音 36 65
味付け玉こんにゃく 21
東講商人鑑 56
吾妻連峰 25
あそぼうず 24
アテルイ 47
安倍貞任 47
あや姫 24
あやめ温泉桜湯 30
あやめかりんとう 21
あやめ公園 38
あやめサミット 12
あやめちゃん 24
あやめまつり 13
い
五十川観音 68
五十川獅子踊 79
五十川西舘 49
伊佐沢地区 8
伊佐沢神社 65
伊佐沢念仏踊 13 69
伊佐沢の久保ザクラ 34
伊佐沢盆地 34
石淵渓谷 26
イナゴの佃煮 93
稲荷神社(今泉) 66
稲荷神社 66
入れかわど 25 45
祝瓶鉱山 75
祝瓶山荘 31
祝瓶山 31
岩城屋 73
岩切不動尊 63
岩切不動の門杉 36
岩出山 52
う
上杉景勝 55
上杉治憲 57
上杉鷹山 55
宇治紫文 82
薄皮丸なす漬け 92
卯の花温泉はぎ乃湯 30
卯の花姫伝説 78 68
馬街道 76
馬のかみしめ 93
雲洞庵 67
蘊安神社 36 66
お
置賜郡 49
置賜三十三観音 67
置賜生涯学習プラザ 9
奥州仕置 50
大朝日岳 76
大石沼 27
大石の凍み豆腐 94
大江氏 48 50
大江総領家 50
大江広元 50
大江師親 50
大喰い惣兵衛 80
大沢峰 33
大須賀長光 49
置賜生涯学習プラザ運動公園 9
おけさ堀 79
おしっさま 68
おみ漬け 92
オリンピック・パラリンピックホストタウン 12
か
開園記念川柳句碑 38
海鋒義美 7
嘉永堰 76
かきつばた 39
片倉伊賀守 53
片倉壱岐守景親 53
片倉小十郎 50
片倉城 50
合地の峰 32
金井神ほうき 90
上伊佐沢のブナ 37
上長井荘 49
上村辰五郎 83
蒲生氏郷 50
蒲生氏 56
蒲生直英詩碑 38
川井獅子踊 69
川崎玄子 83
川崎八郎右衛門 57
川村利兵衛 57
環濠武家屋敷 51
勧進代獅子踊 69
管野ダム 26
管野山 32
観音寺 67
き
きくいも加工品 22
木地山ダム 27
北畠顕家 50
旧羽陽銀行 74
旧桑島眼科医院 74
旧小池医院 74
旧長井小学校第一校舎 10 70
旧西置賜郡役所 74
旧松岡家住宅 72
旧丸大扇屋 72
旧丸中横仲商店蔵群 71
行者菜 22 92
玉林寺 62
く
草岡の大明神ザクラ 41
国登録有形文化財 70
九野本観音 67
久保のお玉 62 77
熊野宮 50
熊野神社 66
熊野山 32
クラフトビール 22
クルミ寒天 92
くるんと 9
黒獅子 68
黒獅子舞の歴史 68
桑島記念館 74
桑島将監 41 53
郡是製糸長井工場 7
け
けん玉 7 89
けん玉のふる里プロジェクト 23
けん玉ひろばSPIKe 18
こ
小出荒館 49
小出船場 75
鯉の甘煮 94
広園寺 50
皇大神社 65
交流センターふらり 9
小桜館 74
小十郎景綱 53
五所神社 65
古代の丘 35
古代の丘資料館 11
小峠・大峠 77
さ
齋藤家住宅 70
斎藤弥助 57
坂上田村麻呂 41 77
SUP 21
三体山 32
三体山鉱山 75
し
獅子頭彫 90
ししまいく 24
ししまいこ 24
地蔵峠 77
しその実漬け 21
志駄義秀 56
七兵衛ツツジ 40
資福寺 50
締切堤防遺構 75
下長井荘 49
重要文化的景観 44
撞木橋 75
正寿院 63 68
正法寺 67
縄文まつり 15
常楽院 63
消流雪水 29
昭和堰 77
食用菊 94
白和え 93
白川 26
白兎六道辻 77
白つつじ公園 38
白つつじまつり 13
じんだん和え 92
す
水道水源 29
水上自転車 21

水陸両用バス inながい百秋湖 20
スウィングガールズ 16
菅原白龍 83
株式会社鈴木酒造長井蔵 23
諏訪堰 79
スマートストア 11
せ
絶景三淵渓谷通り抜け参 20
摂取院 64
ぜんまい煮 94
そ
双鴨山市 12
惣無事令 52
總宮神社 36 64
孫田秀春 83
た
台遺跡 48
竹田五兵衛 57
竹田清五郎 60
伊達稙宗 50
伊達尚宗 52
伊達政宗 41
伊達宗遠 50
ち
致芳地区 8
中央地区 8
中世城館址調査 50
中世の館城跡 54
長遠寺 63
長者屋敷遺跡 48
つ
津島神社(森) 65
津嶋神社(草岡) 65
て
寺嶋酒造本舗 23
天文の乱 52
と
洞雲寺の大石 34
東芝長井工場 7
洞松寺 63
時庭観音 67
栃の木堰 80
豊里神社 65
豊田地区 8
な
直江兼続 47 56
直江杉 36
なが一いふ 21
長井1000人いも煮会 14
長井隕石 34
長井おどり大パレード 14
ながい黒獅子大綱引き 24
ながい黒獅子の里案内人 23
ながい黒獅子まつり 13
長井古種 39
ながい産業博 15
長井氏 50
長井市観光協会 23
長井市武道館 9
長井市保健センター 10
長井市民文化会館 9
長井市役所新庁舎 12
長井市立図書館 9
長井ダム 27 61
ながい百秋湖 遊覧船 20
長井紬 90
長井時春 50
ながいの獅子踊り 69
長井荘 49
長井の地質 34
ながい百秋湖 26
長井フットパス 28
長井盆地 34
長井マラソン 15
ながい水まつり 14
長井道広 50
中里堤 27
中沢峰 33
流木(木流し) 43
長沼牛翁 79
長沼孝三 7 81
長沼合名会社 70
中山きりを 83
梨木平 37
梨木平の梨 37
菜なポート 18
鍋屋本店 70
成島荘 49
成島八幡 50
成島焼 90
に
西置賜郡役所 47 74
西方吉太郎 60
西根地区 8
西村久左衛門 58
西山新道 76
21世紀不伐の森 35
新田遠江守 51
日本一検定 84
日本酒 23
の
野川 26
野川三堰 29
野川まなび館 10
野川流域金鉱 75
は
バートゼッキンゲン市 12
バーニック・ナガイ 24 94
梅花藻 18
芳賀秀次郎 7
はぎ公園 38 42
白山神社 37 64
白山神社(十日町) 65
白山神社の大欅 37
羽黒神社 66
八形峰 32
八ヶ森公園 36
八幡太郎義家 78
馬頭観音 78
花笑ちゃん 24
花菖蒲 39
花作大根 94
馬肉食文化 95
馬肉ラーメン 96
馬肉ラーメン肉まん 96
葉山 31
葉山奥の院 31
葉山山荘 32
葉山神社 64
葉山森林公園 36
晴宗公采地下賜録 52
半筒 41
ひ
引付衆 50
秘伝豆 93
冷や汁 93
評定衆 50
平岩山 32
平野地区 8
平山獅子踊 69
ふ
ふきのとう味噌 92
福蔵院 64
藤原朝宗 50
藤原清衡 48
藤原泰衡 49
二重坂 77
不動滝(三階滝) 26
船玉大明神 58
不伐の森 35
普門坊 67
フラワー長井線 15
フラワー都市交流連絡協議会 12
文化財一覧 87
文化的景観 44
文教の杜ながい 9
へ
遍照寺 37 62
遍照寺の大イチョウ 37
ほ
方言 88
法讃寺 62
北条荘 49
棒鱈煮 92
ぼくらの文楽 14
梵天丸 52
ま
マイクロマウス 14
まちなか水路 28
松沢金山 75
ままの上遺跡 48
豆煮 94
丸や芳賀醤油店 71
み
御影森山 33
みそ餅 22 93
道の駅川のみなと長井 10
源義家 48
源頼朝 49
源頼義 49

三淵渓谷 18
宮遺跡 48
宮の観音 67
宮船場 47
明神平峠 77
も
毛利元春 50
最上川 25
最上川河川緑地公園 18
最上川の舟運文化 58 72
最上川ビューポイント 18
(特)最上川リバーツーリズムネットワーク 23
もとまち青空フェスティバル 14
森鉱山 75
森の観音 68
や
薬師寺 63
八雲神社 66
焼野平 33
屋代荘 49
山一醤油店 71
(一社)やまがたアルカディア観光局 23
山形県一名所 38
山形県産プレミアムジュース 22
山形鉄道株式会社 16
山形鉄道フラワー長井線 羽前成田駅本屋 71
やまがた百名山 31
やませ蔵 73
ゆ
結城市 12
宥日上人 78
雪灯り回廊まつり 15
雪ん子ちゃん 24
よ
横山荘 50
横山八次 83
横山孫助 40 82
米沢盆地 25
ろ
ラウンドアバウト 11
れ
レインボープラン 61 90
レインボー王子 24
歴史的建造物 70
ろ
ROBO-ONE 15
わ
若宮八幡神社 65
和久井窯 90
和田氏の乱 50

第１版　平成 27 年 3 月 23 日　初回発行

編集協力

安部 義彦　長井文化財保護協会　会長
今　紘一　　長井文化財保護協会　副会長
佐藤 五郎　最上川リバーツーリズムネットワーク 代表理事
竹田 憲作　長井市中央史談会　常任理事
岩崎 義信　長井市教育委員会　文化生涯学習課

発 行

長井市雇用創造協議会（平成 28 年 8 月 10 日解散）

住 所　〒993-8601　山形県長井市ままの上 5 番 1 号

第２版　令和 2 年 2 月 15 日　改訂

編集協力

田中 健三　　ながい黒獅子の里案内人 会長
今　紘一　　長井文化財保護協会 会長
目黒 憲夫　　一般社団法人 山形県ハイヤー協会 理事
布川 はるか　一般社団法人 やまがたアルカディア観光局　観光交流係 主任
稲葉 徹　　長井市観光協会 主事

発 行

長井市商工観光課

住 所　〒993-8601　山形県長井市ままの上 5 番 1 号
電 話　0238-84-2111

第３版　令和３年２月15日　改訂

編集協力

田中 健三　　ながい黒獅子の里案内人 会長
今　紘一　　長井文化財保護協会 会長
目黒 憲夫　　一般社団法人 山形県ハイヤー協会 理事
齋藤 はるか　一般社団法人 やまがたアルカディア観光局　観光交流係 主任
稲葉 徹　　長井市観光協会 主事
鈴木 麻恵　　旧長井小学校第一校舎

発 行

長井市商工観光課

住 所　〒993-8601　山形県長井市ままの上５番１号
電 話　0238-84-2111

第４版　令和４年２月９日　改訂

編集協力

田中 健三　　ながい黒獅子の里案内人 会長
今　紘一　　長井文化財保護協会 会長
目黒 憲夫　　一般社団法人 山形県ハイヤー協会 理事
齋藤 はるか　一般社団法人 やまがたアルカディア観光局　観光交流係 主任
稲葉 徹　　長井市観光協会 主事
鈴木 麻恵　　旧長井小学校第一校舎

発 行

長井市観光文化交流課

住 所　〒993-8601　山形県長井市栄町１番１号
電 話　0238-84-2111

第5版　令和5年1月27日　改訂

編集協力

田中 健三　　ながい黒獅子の里案内人 会長
今　紘一　　長井文化財保護協会 会長
目黒 憲夫　　一般社団法人 山形県ハイヤー協会 理事
川村 真未　　一般社団法人 やまがたアルカディア観光局
稲葉 徹　　長井市観光協会 主事
鈴木 麻恵　　旧長井小学校第一校舎

発 行

長井市観光文化交流課

住 所　〒993-8601　山形県長井市栄町1番1号
電 話　0238-84-2111

第6版　令和6年1月31日　改訂

編集協力

田中 健三　　ながい黒獅子の里案内人 会長
今　紘一　　長井文化財保護協会 顧問
中井 晃　　山形鉄道（株）
川村 真未　　一般社団法人 やまがたアルカディア観光局
稲葉 徹　　長井市観光協会 主事
鈴木 麻恵　　旧長井小学校第一校舎

発 行

長井市観光文化交流課

住 所　〒993-8601　山形県長井市栄町1番1号
電 話　0238-84-2111

【修正等一覧表】

（2024.1.15 更新）

ページ	<内容>	**<修正後>** **（令和６年１月 修正）**	**<修正前>** **（令和５年２月改定版）**	<備考>
P9	3長井市立図書館 ⇒3くるんと	3くるんと 「くるんと」は、屋内児童遊戯施設と図書館が一体となった施設です。長井市役所の隣に位置し、繭の形をした特徴的な建物で、中心市街地のシンボル的存在。駅にも近く公共交通を使ってお気軽に来館いただけます。	白つつじ公園の敷地内に設置され、多くの市民に利用されています。一般書から児童書、視聴覚資料の貸出や館内での閲覧もできます。借りた本を公園で読む方も多くいます。	・題名変更 ・内容修正 ・写真追加
P10	7古代の丘資料館	市内で出土した考古資料を収集、調査研究、保存管理するとともに、それらを一般に公開しています。資料館では、資料の見学のほか、土器づくり体験などを楽しむことができます。	市内で出土した考古資料を収集、調査研究、保存管理するとともに、それらを一般に公開しています。資料館には、遺跡から発掘された土器や石器などが展示されています。	・内容修正
P16	1もっちぃ	フラワー長井線写真	“三羽のうさぎ”伝説が残る熊野大社の最寄駅「宮内駅」にはもっちぃ駅長が勤務しています。宮内駅は・・・	・内容削除 ・写真追加

P27	3 中里堤	西根草岡地内の古代の丘･･･周辺には、古代の丘資料館や復元された竪穴住居（たてあなじゅうきょ）・・・	西根草岡地内の古代の丘･･･周辺には、遺跡の資料館や復元された竪穴住居（たてあなじゅうきょ）・・・	・内容修正
P35	3 古代の丘	長井市草岡地区にある・・・ここには、縄文時代の雰囲気が漂っています。また、桜や紅葉などの四季折々の美しい風景を楽しめる場所でもあります。	長井市草岡地区にある・・・ここには、縄文時代の雰囲気が漂っています。自然溢れる場所で、マイナスイオンがいっぱいなので散策に最適です。	・内容修正
P42	1 伊佐沢の久保ザクラ	上伊佐沢地内にある・・・ 根元の部分が腐朽し樹勢が衰えたため、市や地域が一体となって、専門家の指導を受けながら、土壌の入れ替えや支柱の設置など、樹勢回復作業を実施してきました。近年では、新たな根の発生を促す不定根誘導に一定の成果がみられ、新しい枝が少しずつ伸びてきました。昭和25年・・・	上伊佐沢地内にある・・・ 根元の部分が腐朽し樹勢が衰えたため、主幹が南側と北側に大きく2つに分岐した姿になっています。市、地域が一体となって、専門家の指導を受けながら、土壌の入れ替えや支柱の設置など、樹勢回復の処置が計画的に行われています。昭和25年（旧法大正13年）に国の天然記念物に指定されています。・・・	・内容削除 ・内容修正
P42	2 草岡の大明神ザクラ	・・・ 地元では、古くから「種まき桜」として春の農作業の目安とされてきた桜です。以前は、施肥等を行ってきましたが、現在は樹勢が安定しているため、強風による枝折れ対策としてのケーブリングのみ実施しています。平成17年・・・	・・・ 地元では、古くから「種まき桜」として春の農作業の目安とされてきた桜です。古木のエドヒガンであるため、地域一丸となって施肥や消毒など、さまざまな樹勢回復のための処置が施されています。平成17年・・・	・内容修正

P44	1「文化的景観」とは	文化的景観とは・・・が折り重なって作られた景観のことを指しています。なかでも、地域の特色を示す代表的なものや他に例を見ない独特なものとして国が選定したものを「重要文化的景観」とし、令和5年3月現在、全国で72件が選定を受けています。	文化的景観とは・・・が折り重なって作られた景観のことを指しています。なかでも、地域の特色を示す代表的なものや他に例を見ない独特なものとして国が選定したものを「重要文化的景観」とし、令和元年10月現在、全国で65件が選定を受けています。	・内容修正
P44	2長井の文化的景観	・選定基準（重要文化的景観の選定基準8項目のうち以下が該当） (5)　ため池・水路・港などの水の利用に関する景観地 (7)　道・広場などの流通・往来に関する景観地		・選定基準追加
P45	5町場の景観	図変更		・図変更
P46	7文化的景観における重要な構成要素	一覧を追加		・新規追加
P47	ながいの歴史	長井盆地は・・・。令和6年には、その市制施行から70周年を迎えており、益々の発展が期待されています	長井盆地は・・・平成26年には、その市制施行から70周年を迎えており、益々の発展が期待されています。	・内容修正
P53	（3）片倉壱岐守景親	天正2年(1574)頃、伊達輝宗のときの史料『普段帳』に「壱岐守の軍勢は馬上72、	天正2年(1574)、伊達輝宗のときの史料に「壱岐守の軍勢は馬上72騎、鉄砲23丁な	・内容修正

		鉄砲23、弓72、鑓250」とあり、置賜地方の伊達家家臣の中でもトップクラスの動員兵力を有していました。	ど総勢417名」とあり、新田殿633名に次ぐ出陣をしています。	
P55	1 近世の日本	慶長5年(1600)、関ヶ原の戦いで・・・しかし、これによって米沢藩はますます困窮し、9代藩主治憲（鷹山）は大胆な藩政改革を行いました。	慶長5年(1600)、関ヶ原の戦いで・・・しかし、これによって米沢藩はますます困窮し、上杉鷹山（とうざん）の藩政改革が必要となるのです。	・内容修正
P57	4 上杉による統治	関ヶ原の戦いで・・・ ここで、9代藩主上杉鷹山（治憲）はこの借金を返済するために・・・	関ヶ原の戦いで・・・ ここで、上杉鷹山はこの借金を返済するために・・・	・内容修正
P72	9 松岡家住宅	旧松岡家住宅は、・・・大農家の様子を伝えています。前蔵は土蔵造平屋建て鉄板葺置屋根式の平入り、明治 20 年（1887）の建築です。後の蔵は土蔵二階建て鉄板葺置屋根式の平入り、明治 32 年（1899）の増築です。馬屋は木造二階建て鉄板葺（以前は茅葺）平入りで、昭和 7 年（1932）の建築です。作業小屋及び牛舎は木造平屋建て切妻造鉄板葺（以前は茅葺）妻入り、明治 41 年（1908）建築の作業小屋に、木造平屋建て切妻造鉄板葺妻入りの牛舎が増築されたものです。	旧松岡家住宅は、・・・大農家の様子を伝えています。土蔵造平屋建ての前蔵、木造二階建ての馬屋、木造平屋建ての２棟からなる作業小屋及び牛舎が、主屋を囲むように建っています。	・内容修正

P74	1 旧長井小学校第一校舎		大正 3 年(1914)の長井線開通時に・・・平成 31 年 4 月に交流と学びの拠点として整備され、リニューアルオープンしました。	・P70 と重複していたため削除
P74	4 旧羽前銀行	4 旧羽前銀行	4 旧羽陽銀行	・題名修正
P76	5 嘉永堰・昭和堰	置賜葉山山中に造られた嘉永堰は、嘉永年間の渇水対策として嘉永6年に開削されました。勧進代地区の田畑の主水源となる平沢川の水量を増やすために、山中の鍋割沢の水を平沢川に導入したものです。開削工事の経緯は「嘉永堰の日記」に詳細に記されており、当時の農業用水確保の地域住民の姿を捉える上でも貴重な史跡です。 新たに開削した堰とそれまで嘉永堰と呼ばれる堰も含め、「昭和堰」と名を改めました。昭和堰は、当時の水準としては優れた土木技術が用いられており、また、開削以来79年を経た嘉永堰を改良し、農業用水を新たに確保したという歴史を今に伝える貴重な史跡と言えます。		・新しく追加

		また、昭和7年に開削された昭和堰は、昭和初期の水田改良に伴う農業用水の需要増加を受け、嘉永堰の堰幅の拡幅および嘉永堰の水源である鍋割沢からさらに奥にある御秘蔵沢まで堰を延長したものです。		
P76	6桶佐堀	桶佐堀は、葉山の登山道（朝日軍道の一部）の標高800ｍ付近に、勘三郎と妻おけさが掘った堰で、沢水を草岡まで引いて水不足を補ったといいます。草岡の赤地蔵堂前の勘三郎碑によれば、寛文10年（1671）に開削されたことになっています。		・新しく追加
P85	②文化財	県指定「8」：有形文化財「7」 登録有形文化財「9」：登録数「9件２７棟」 市指定「８０」：史跡「１５」 総計「１００」：有形文化財「５４」史跡「１５」	県指定「７」：有形文化財「６」 登録有形文化財「８」：登録数「８件２２棟」 市指定「７９」：史跡「１４」 総計「９７」：有形文化財「５２」史跡「１４」	・内容修正